

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

コンピュータについての情報

[情報の検索](#)
[仕様](#)
[お取り扱い上の注意](#)

ミニタワーコンピュータ

[コンピュータの正面](#)
[コンピュータの背面](#)
[コンピュータの内部](#)
[システム基板のコンポーネント](#)

デスクトップコンピュータ

[コンピュータの正面](#)
[コンピュータの背面](#)
[コンピュータの内部](#)
[システム基板のコンポーネント](#)

アドバンス機能

[LegacySelect テクノロジコントロール
管理機能](#)
[セキュリティ機能](#)
[パスワードによる保護](#)
[セットアップユーティリティ](#)
[パスワードを忘れたら](#)
[CMOS 設定のリセット](#)
[電力の管理](#)
[ハイパースレディング](#)
[IEEE 1394](#)
[U320 SCSI コントローラ](#)
[RAID 構成について](#)

CD および DVD のコピー

[CD または DVD のコピー方法](#)
[空の CD-R または空の CD-RW の使い方](#)
[役に立つヒント](#)

ミニタワーコンピュータの部品の取り外しと 取り付け

[はじめに](#)
[コンピュータカバーの開き方](#)
[メモリ](#)
[ドライブ](#)
[ハードドライブ](#)
[ドライブベイカバー](#)
[フロッピードライブ](#)
[CD/DVD ドライブ](#)
[カード](#)
[カードファンの取り付け](#)
[エアフローカバー](#)

問題の解決とツール

[診断ライト](#)
[ビープコード](#)
[エラーメッセージ](#)
[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)
[ドライバ](#)
[Microsoft® Windows® XP システムの復元
の使い方](#)
[ソフトウェアおよびハードウェアの非互換
性の解決](#)
[Microsoft® Windows® XP の再インストー
ル](#)

問題の解決

[トラブルシューティングのヒント](#)
[バッテリーの問題](#)
[カードの問題](#)
[カードファンの問題](#)
[ドライブの問題](#)
[電子メール、モデム、およびインターネッ
トの問題](#)
[IEEE 1394 デバイスの問題](#)
[キーボードの問題](#)
[コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)
[メモリの問題](#)
[マウスの問題](#)
[ネットワークの問題](#)
[電源の問題](#)
[プリンタの問題](#)
[シリアルまたはパラレルデバイスの問題](#)
[サウンドとスピーカーの問題](#)
[ビデオとモニターの問題](#)

コンピュータのクリーニング

[コンピュータ、キーボード、およびモニ
ター](#)
[マウス](#)
[フロッピードライブ](#)
[CD および DVD](#)

Windows XP の特徴

[新しいコンピュータへの情報の転送](#)
[Microsoft® Windows® クラシック表示への
切り替え](#)
[壁紙の選択](#)
[スクリーンセーバーの選択](#)
[デスクトップテーマの選択](#)
[ショートカットの作成と整列](#)
[デスクトップクリーンアップウィザード](#)
[インターネット接続ファイアウォール](#)

[プロセッサ](#)
[バッテリー](#)
[コントロールパネル](#)
[I/O パネル](#)
[電源装置](#)
[システム基板](#)
[コンピュータカバーの閉じ方](#)

[家庭用および企業用ネットワークのセットアップ](#)




補足事項

[困ったときは](#)
[テクニカルサポート](#)
[ご注文に関する問題](#)
[製品情報](#)
[保証期間中の修理と返品について](#)
[お問い合わせになる前に](#)
[デルへのお問い合わせ](#)
[用語集](#)

デスクトップコンピュータの部品の取り外しと取り付け

[はじめに](#)
[コンピュータカバーの開き方](#)
[メモリ](#)
[ドライブ](#)
[ハードドライブ](#)
[正面パネル](#)
[フロッピードライブ](#)
[CD/DVD ドライブ](#)
[カード](#)
[エアフローカバー](#)
[プロセッサ](#)
[バッテリー](#)
[コントロールパネル](#)
[I/O パネル](#)
[電源装置](#)
[システム基板](#)
[コンピュータカバーの閉じ方](#)

メモ、注意、および警告

-  **メモ：** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意：** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
-  **警告：** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語

略語およびその定義の一覧は、「[用語集](#)」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

このマニュアルの内容は予告なく変更されることがあります。
© 2004 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. からの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標： Dell、DELL のロゴ、Dell Precision、Dimension、OptiPlex、Inspiron、Latitude、PowerApp、PowerConnect、PowerVault、Axim、および DellNet は、Dell Inc. の商標です。 Intel および Pentium は、Intel Corporation の登録商標です。 Microsoft、Windows、および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

このマニュアルでは、上記以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に所属するものではありません。


モデル DHM および WHM

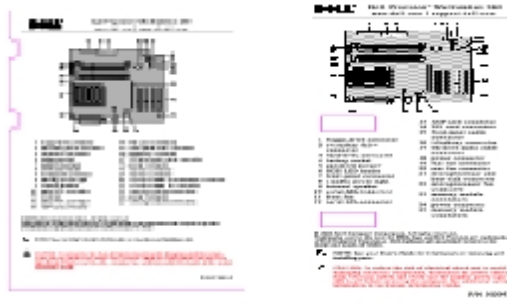
コンピュータについての情報

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [情報の検索](#)
- [仕様](#)
- [お取り扱い上の注意](#)

情報の検索

何をお探しですか？	ここに記載されています
<ul style="list-style-type: none">● コンピュータのDiagnostics（診断）プログラム● コンピュータのドライバ● コンピュータのマニュアル● デバイスのマニュアル● DSS（デスクトップシステムソフトウェア）	<p>『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』とも呼ばれます）</p> <p>マニュアルおよびドライバは、お使いのコンピュータにプリインストールされています。CDを使用して、ドライバを再インストールしたり、Dell Diagnostics（診断）プログラムやマニュアルにアクセスすることができます。</p>  <p>CDに収録されている Readme ファイルは、マニュアルの作成後にシステムに追加された変更や、技術者や専門知識をお持ちのユーザーを対象とするテクニカルリファレンスなどが記載されています。</p> <p>メモ：最新のドライバとマニュアルは、support.jp.dell.com にもあります。</p>
<ul style="list-style-type: none">● コンピュータのセットアップ方法● コンピュータの取り扱い方法● トラブルシューティングの情報● Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行方法● エラーコードおよび診断ライト● コンピュータカバーの開き方	<p>『クイックリファレンスガイド』</p>  <p>メモ：このマニュアルは、support.jp.dell.com から PDF でご利用できます。</p>
<ul style="list-style-type: none">● システム基板コネクタ● システム基板のコンポーネントの位置	<p>システム情報ラベル</p> <p>コンピュータカバーの内側に貼られています。</p>



- 保証情報
- 使用上の注意
- 技術情報
- 快適な使い方
- エンドユーザー用使用許諾契約書

Dell™ 『製品情報ガイド』



メモ：このマニュアルは、support.jp.dell.com から PDF でご利用できます。

- 部品の取り外しおよび取り付け方法
- 仕様
- システムの設定方法
- トラブルシューティングおよび問題解決の方法

Precision 『ユーザーズガイド』

Microsoft® Windows® XP ヘルプとサポートセンター

- スタート ボタンをクリックして、ヘルプとサポート をクリックします。
- ユーザーズガイドおよびシステムガイド をクリックして、ユーザーズガイド をクリックします。

『ユーザーズガイド』 は、『Drivers and Utilities CD』 でもご利用できます。

- サービスタグおよびエクスプレスサービスコード
- Microsoft Windows ライセンスラベル

サービスタグおよび Microsoft Windows ラベル

ラベルはお使いのコンピュータに貼られています。



- support.jp.dell.com を利用する際、またはテクニカルサポートにお電話する際は、サービスタグを使ってお使いのコンピュータを識別します。
- テクニカルサポートにお電話する際、エクスプレスサービスコードを使って担当者と話します。エクスプレスサービスコードは、利用できない国もあります。

- コンピュータ用の最新のドライバ
- テクニカルサービスおよびサポートに関する質問の回答
- コンピュータのマニュアル

デルサポートウェブサイト — support.jp.dell.com

メモ：ご利用の地域を選んで、該当するサポートサイトにアクセスしてください。

デルサポートウェブサイトには、次のようなオンラインツールを提供しています。

- 技術情報 — Q&A、トラブル解決ナビ、Diagnostics (診断) プログラム、インストールガイド、OS アップグレード情報、システムマニュアル
- アップグレード — メモリ、ハードドライブ、オペレーティングシステムなどのコンポーネントのアップグレード情報
- 各種サービスのご案内 — サービスプラン、登録内容変更申し込み、FAX 情報サービス

	<ul style="list-style-type: none"> ダウンロード — ファイルライブラリ (ドライバ、ソフトウェアのアップデート) その他
<ul style="list-style-type: none"> Windows XP の使い方 コンピュータのマニュアル デバイスのマニュアル (モデムなど) 	<p>ヘルプとサポートセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> □□□ スタート ボタンをクリックして、ヘルプとサポート をクリックします。 □□□ 問題に関連する用語やフレーズを 検索 ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。 □□□ 表示されているトピックをクリックします。 □□□ 画面の指示に従います。
<ul style="list-style-type: none"> Linux の使い方 E メールを介した Dell Precision および Linux ユーザーとの討議 Linux および Dell Precision コンピュータに関する追加情報 	<p>デルのサポートする Linux サイト</p> <ul style="list-style-type: none"> http://linux.dell.com http://lists.us.dell.com/mailman/listinfo/linux-precision http://docs.us.dell.com/docs/software/oslinux/ http://docs.us.dell.com/docs/software/OSRHEL3/
<ul style="list-style-type: none"> オペレーティングシステムの再インストール 	<p>『オペレーティングシステム CD』</p> <p>オペレーティングシステムはお使いのコンピュータにプリインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールするには、『オペレーティングシステム CD』を使用します。手順については、Precision 『ユーザーズガイド』を参照してください。</p>  <p>オペレーティングシステムを再インストールした後、『Drivers and Utilities CD』を使用して、コンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。</p> <p>お使いのオペレーティングシステムの Product Key (プロダクトキー) ラベルは、コンピュータに貼られています。</p> <p>メモ: お使いの CD の色は、ご注文のオペレーティングシステムによって異なります。</p>

仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	HT テクノロジ対応 Intel® Pentium® 4 プロセッサ Extreme Edition または HT テクノロジ対応 Intel® Pentium® 4 プロセッサ
L1 (レベル 1) キャッシュ	8 KB または 16 KB
L2 (レベル 2) キャッシュ	512 KB または 1 MB

L3 (レベル 3) キャッシュ

0 または 2 MB

メモリ	
タイプ	デュアルチャネル DDR2 400 MHz (PC2-3200) 非ECC および 533 MHz (PC2-4300) ECC SDRAM。 メモ: ECC と非 ECC メモリを混在させないでください。 メモ: お使いのコンピュータは、レジスタメモリまたはバッファメモリをサポートしません。
メモリコネクタ	4
メモリ容量	128 MB、256 MB、512 MB、または 1 GB
最小メモリ	256 MB
最大メモリ	4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel 925X Express
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャンネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ (NVRAM)	4 Mb
メモリ速度	400/533 MHz
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能 <ul style="list-style-type: none"> • 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 — 1 Gb (または 1000 Mbps) 間の接続が良好です。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
SCSI コントローラ	アドイン U320 SCSI
システムクロック	800 MHzデータ転送速度

ビデオ	
タイプ	PCI Express x16 (最大で 150 W)

オーディオ	
タイプ	AC97、Sound Blaster エミュレーション
ステレオ変換	16 ビット AD 変換 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ハードドライブ	内蔵シリアル ATA (4) (RAID 0/1 & Command Queuing 付き) 内蔵 ATA-100 (1 チャンネル)

拡張バス	
バスのタイプ	ミニタワーコンピュータ： 3 PCI 2.3 5v デスクトップコンピュータ： 4 PCI 2.3 5v PCI Express x16 (最大で 150W) PCI Express x1 8 USB 2.0 (前面 2、6 背面)
バス速度	PCI： 33 MHz PCI Express： x1 スロット (双方向速度 — 500 MB/s) x16 スロット (双方向速度 — 8 GB/s)
PCI	
コネクタ	ミニタワーコンピュータ： 3 デスクトップコンピュータ： 4
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x1
コネクタサイズ	36 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	1 PCI Express レーン
PCI Express	
コネクタ	x16
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	16 PCI Express レーン

ドライブ	
フロントドライブベイ：	
デスクトップコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 1 (オプションのフロッピードライブ用) 5.25 インチベイ × 2
ミニタワーコンピュータ	3.5 インチドライブベイ × 2

	5.25 インチドライブベイ × 2
使用可能デバイス	シリアル ATA ドライブ、フロッピードライブ、USB メモリデバイス、CD ドライブ、CD-RW ドライブ、DVD ドライブ、DVD+RW ドライブ、および DVD/CD-RW コンボドライブ
内蔵ベイ：	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 2

コネクタ	
外付けコネクタ：	
シリアル	9 ピンコネクタ × 1 (オプションのセカンドコネクタ、16550C 互換)
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ (メス) × 1
IEEE 1394	6 ピンシリアルコネクタ (アドインカード)
ビデオ	15 ピンコネクタ (メス)
ネットワークアダプタ	RJ45 コネクタ
PS/2 (キーボード / マウス)	6 ピンミニ DIN
USB	USB 2.0 互換コネクタ (正面パネル × 2、背面パネル × 6)
オーディオ	3 (ライン入力、ライン出力、マイク用のコネクタ) 1 正面パネルコネクタ (ヘッドフォン用)
I/O パネル	34 ピンコネクタ
CD ドライブオーディオインタフェース	4 ピンコネクタ
Power_1 コネクタ	24 ピンコネクタ
システム基板コネクタ：	
プライマリ IDE ドライブ	PCI ローカルバスに 40 ピンコネクタ
シリアル ATA (4)	7 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.3	120 ピンコネクタ
CD ドライブオーディオインタフェース	4 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt>	タスクマネージャを起動します。
<F2>	内蔵のセットアップユーティリティを起動 (起動時のみ)
<F12> または <Ctrl><Alt><F8>	ネットワークからの起動 (起動時のみ)
<Ctrl><Alt><F10>	コンピュータ起動時に、ユーティリティパーティションを起動 (インストールされている場合)
<Ctrl><Alt><D>	コンピュータ起動時に、ハードドライブの診断ユーティリティを起動

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	<p>緑色のライト — スリープ状態のとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯</p> <p>橙色のライト — 取り付けられているデバイスに問題があるとき橙色に点滅、内部電力に問題があるとき橙色に点灯（「電源の問題」を参照）</p>
ハードドライブライト	緑色
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	<p>10 Mb 伝送時は緑色のライト</p> <p>100 Mb 伝送時は橙色のライト</p> <p>1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト</p>
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	ミニタワーの背面およびデスクトップの正面に 4
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電源	
DC 電源装置：	
ワット数	350 W
熱消費	910 BTU / 時
電圧	<p>固定電圧電源装置 — 50/60 Hz で 100 V</p> <p>手動切り替えおよび自動センサー電源装置 — 50/60 Hz で 100 V</p>
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

サイズ	
ミニタワーコンピュータ：	
高さ	42.5 cm
幅	19.1 cm
奥行	45.0 cm
重さ	12.7 kg
デスクトップコンピュータ：	
高さ	16.5 cm
幅	44.5 cm
奥行	45.7 cm
重さ	18.6 cm
サポートされているモニターの重量（デスクトップの向きで）	45.4 kg

環境	
気温：	
動作時	10°～30℃ メモ：35℃で、最大動作高度は914mです。
保管時	-40°～65℃
相対湿度	20%～80%（結露しないこと）
最大震動：	
動作時	0.25 G (3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G (3～200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大衝撃：	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で27 G フェアードスクエアウェーブ
高度：	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

お取り扱い上の注意

コンピュータを取り扱う際は、推奨される処置を実行してください。

- データの損失または破損を防ぐため、ハードドライブライトが点灯しているときは、絶対にコンピュータの電源を切らないでください。
- ウイルスソフトウェアを使って定期的にウイルススキャンを実行してください。
- 定期的に必要のないファイルを削除したり、ドライブをデフラグしてハードドライブの空き容量を管理してください。
- 定期的にファイルをバックアップしてください。

定期的にモニター画面、マウス、キーボードをクリーニングしてください（「[コンピュータのクリーニング](#)」を参照）。

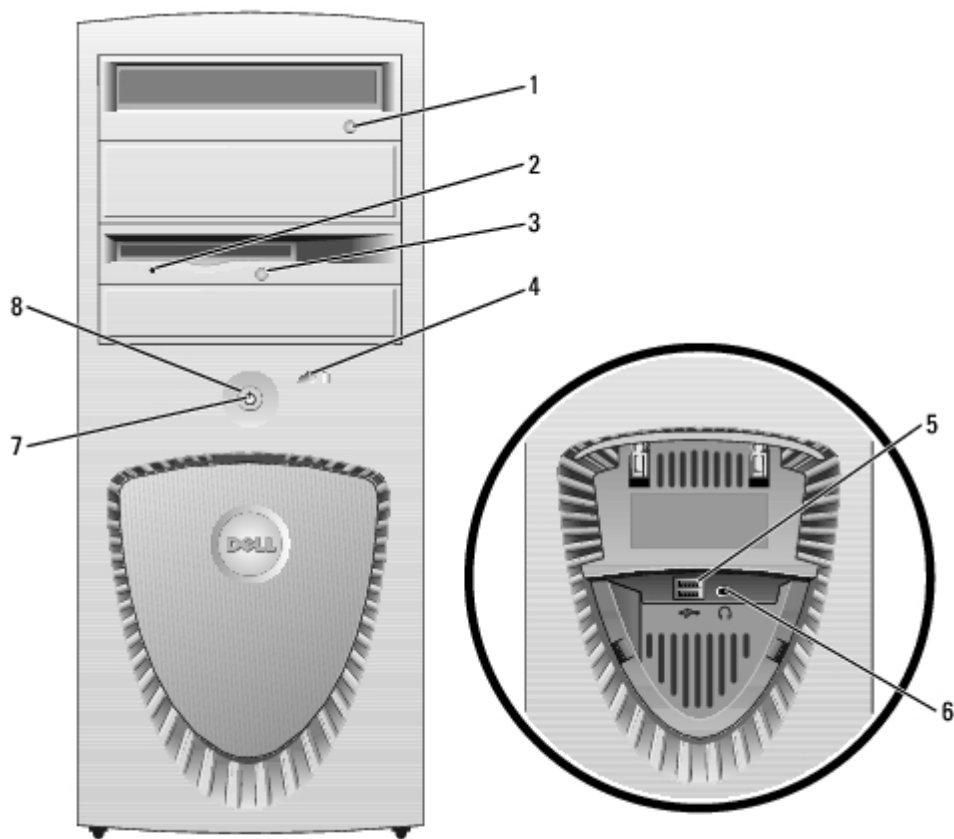
[目次ページに戻る](#)

ミニタワーコンピュータ

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [コンピュータの正面](#)
- [コンピュータの背面](#)
- [コンピュータの内部](#)
- [システム基板のコンポーネント](#)

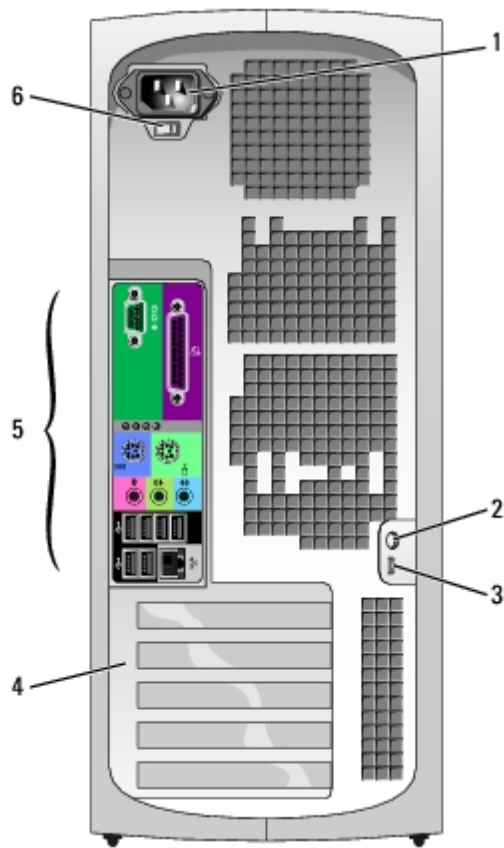
コンピュータの正面



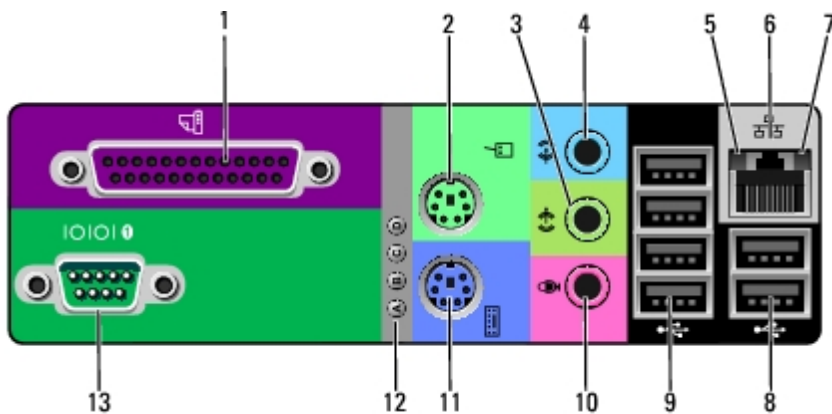
1	CD または DVD ドライブ取り出しボタン	このボタンを押して、ディスクを CD または DVD ドライブから取り出します。
2	フロッピードライブ動作ライト	フロッピードライブライトは、コンピュータがフロッピードライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトが消えてから、フロッピーディスクをドライブから取り出します。
3	フロッピードライブ取り出しボタン	このボタンを押して、フロッピーディスクをフロッピードライブから取り出します。

4	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがデータをハードドライブから読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯しません。
5	USB 2.0 コネクタ (2)	フラッシュメモリーやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、正面 USB コネクタを使用します (USB デバイスからの起動については、「 セットアップユーティリティ 」を参照してください)。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
6	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
7	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 消灯 — コンピュータの電源がオフです。 • 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 • 緑色の点滅 — コンピュータは、省電力状態です。 • 橙色の点滅または点灯 — 「電源の問題」を参照してください。 <p>省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細については、「電力の管理」を参照してください。</p> <p>コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。</p>
8	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 メモ： 電源ボタンは、システムを省電力状態から復帰したり省電力状態にするときにも使います。詳細については、「 電力の管理 」を参照してください。 注意： データの損失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。

コンピュータの背面



1	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
2	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
3	セキュリティケーブルスロット	スロットとセキュリティケーブルを使って、コンピュータを保護することができます。
4	カードスロット	取り付けられたすべての PCI または PCI Express カード用のコネクタにアクセスします。
5	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。
6	電圧切り替えスイッチ	詳細については、『製品情報ガイド』の安全上の注意事項を参照してください。



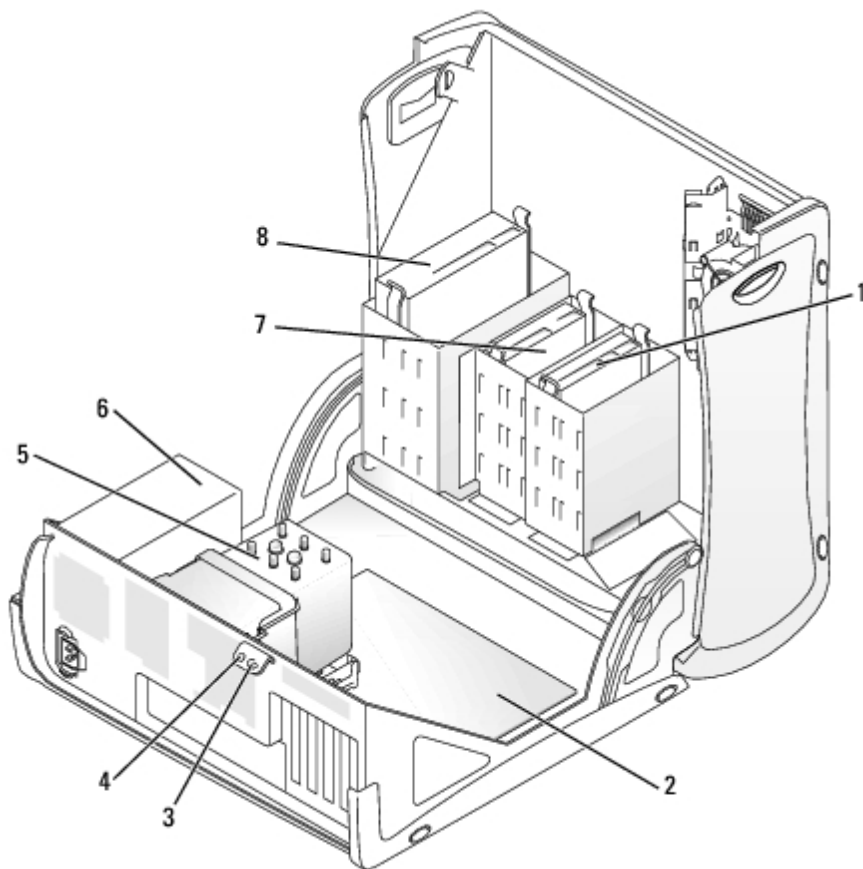
1	パラ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの
---	----	--

	レルコネクタ	<p>場合、USB コネクタに差し込みます。</p> <p>メモ： 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。</p>
2	マウスコネクタ	<p>標準型のマウスをお使いの場合、緑色のマウスコネクタに差し込みます。コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスの電源を切ってから、マウスをコンピュータに接続します。USB マウスをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。</p> <p>お使いのコンピュータで Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムを実行している場合、必要なマウスドライバはハードドライブにプリインストールされています。</p>
3	ライン出力コネクタ	<p>緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p>
4	ライン入力コネクタ	<p>青色のライン入力コネクタを使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p>
5	リンク保全体ライト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ 黄色 — 1000 Mbps (1 Gbps) ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
6	ネットワークアダプタコネクタ	<p>コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータのネットワークアダプタコネクタに接続します。インジケータにカチッと収まるまで、ネットワークケーブルをしっかりと取り付けます。</p> <p>メモ： ネットワークコネクタにモデムケーブルを差し込まないでください。</p> <p>ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p> <p>カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使う必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。</p>
7	ネットワーク動作ライト	<p>コンピュータがネットワークデータを送受信している際は、黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。</p>
8	USB 2.0 コネクタ (2)	<p>プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。</p> <p>フラッシュメモリー、カメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスは、正面 USB コネクタを使用することをお勧めします。</p>
9	USB 2.0 コネクタ (4)	<p>プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。</p> <p>フラッシュメモリー、カメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスは、正面 USB コネクタを使用することをお勧めします。</p>
10	マイク	<p>ピンク色のマイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンド</p>

	クコネクタ	またはテレフォニープログラムに入力します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
11	キーボードコネクタ	標準型のキーボードをお使いの場合、紫色のキーボードコネクタに差し込みます。USB キーボードをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。
12	診断ライト (4)	診断ライトは、Diagnostic (診断) コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、「 診断ライト 」を参照してください。
13	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 でシリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細については、「 セットアップオプション 」を参照してください。

コンピュータの内部

⚠ 警告： 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

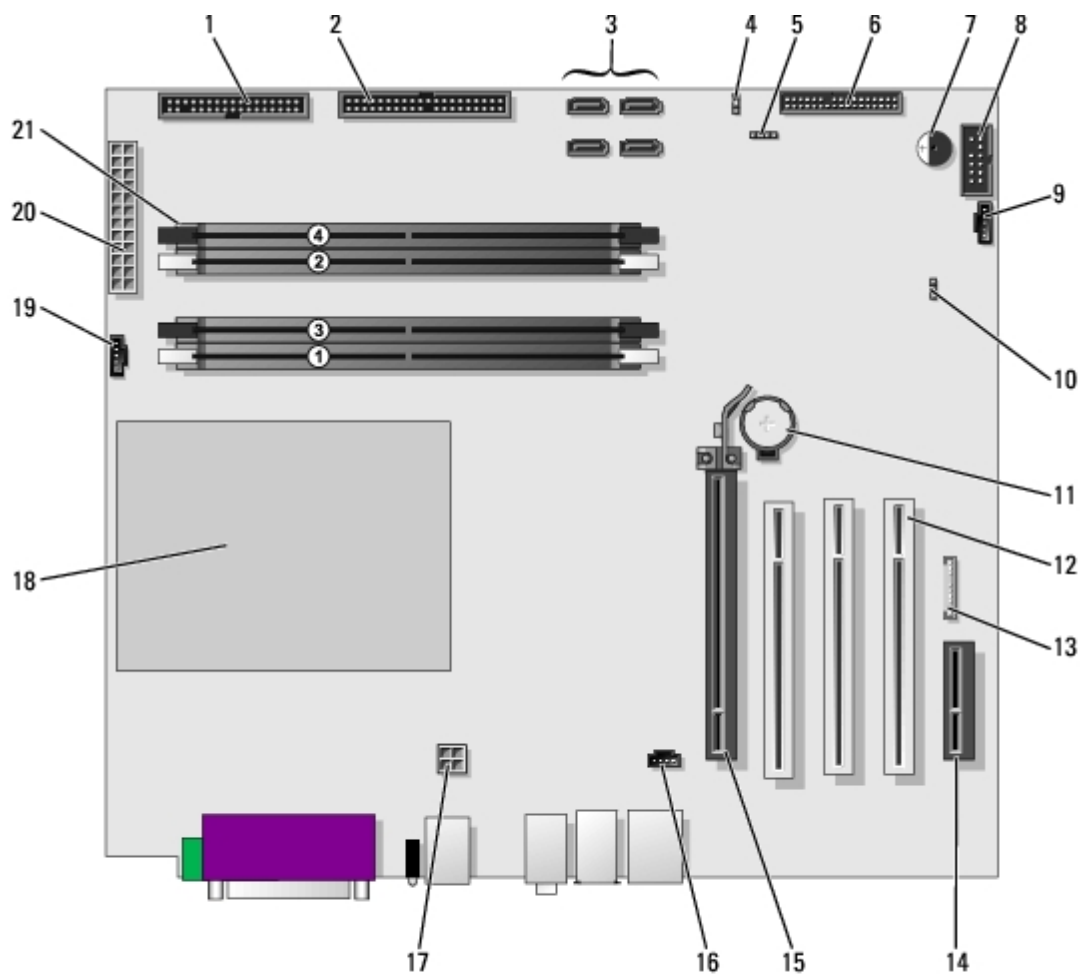


1	ハードドライブ	5	プロセッサエアフローカバーおよびファン
2	システム基板	6	電源装置
3	パドロックリング	7	フロッピードライブ (オプション)

ケーブルの色

デバイス	色
ハードドライブ	青色のケーブル
フロッピードライブ	黒色のプルタブ
CD/DVD ドライブ	橙色のプルタブ

システム基板のコンポーネント



1	フロッピードライブ (FLOPPY)	12	PCI カードスロット (1 ~3)
2	IDE ドライブ (PRI IDE)	13	正面パネルオーディオ (FP AUD)
3	SATA コネクタ (SATA 0、SATA 1、SATA 2、SATA 3)	14	PCI Express x1 カードスロット
4	パスワードジャンパ (PASS)	15	PCI Express x16 (最大 150w) カードスロット

5	SCSI LED コネクタ	16	CD オーディオ入力 (CD IN)
6	正面パネルコネクタ	17	プロセッサ電源コネクタ
7	スピーカー	18	プロセッサソケット
8	セカンドシリアルポート (SERIAL 2)	19	プロセッサファンコネクタ (CPU FAN)
9	カードファンコネクタ (PCI FAN)	20	主電源コネクタ (POWER)
10	CMOS クリアジャンパ (CLR CMOS)	21	メモリモジュールコネクタ
11	バッテリーソケット (BATTERY)		

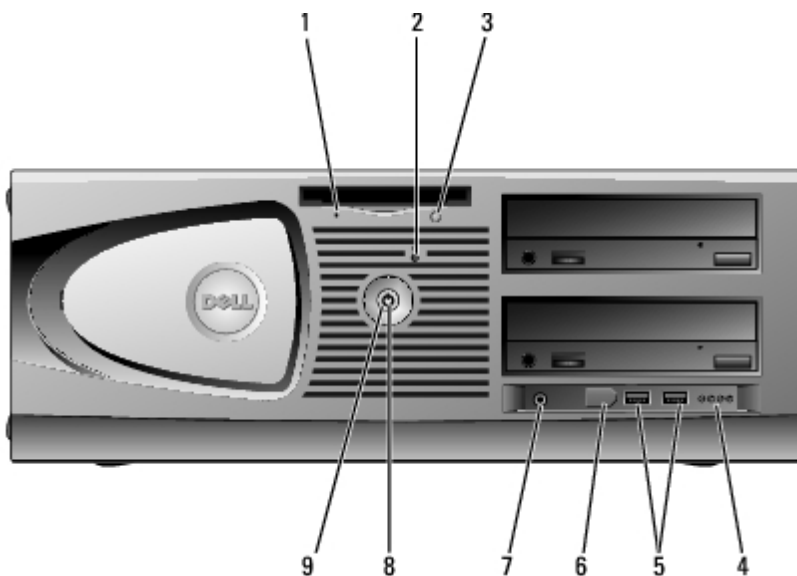
[目次ページに戻る](#)

デスクトップコンピュータ

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [コンピュータの正面](#)
- [コンピュータの背面](#)
- [コンピュータの内部](#)
- [システム基板のコンポーネント](#)

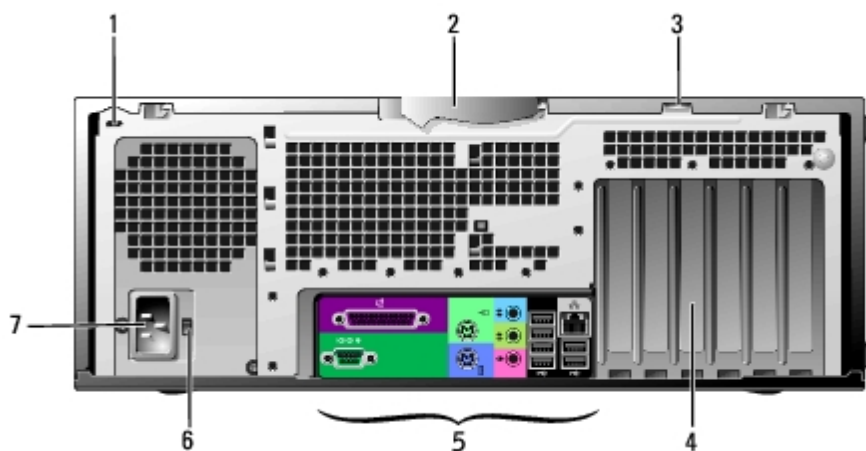
コンピュータの正面



1	フロッピードライブ動作ライト	フロッピードライブライトは、コンピュータがフロッピードライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトが消えてから、フロッピーディスクをドライブから取り出します。
2	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがデータをハードドライブから読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯します。
3	フロッピードライブ取り出しボタン	このボタンを押して、フロッピーディスクをフロッピードライブから取り出します。
4	診断ライト (4)	診断ライトは、Diagnostic (診断) コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、「 診断ライト 」を参照してください。
5	USB 2.0 コネクタ (2)	フラッシュメモリーやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、正面 USB コネクタを使用します (USB デバイスからの起動については、「 セットアップユーティリティ 」を参照してください)。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。

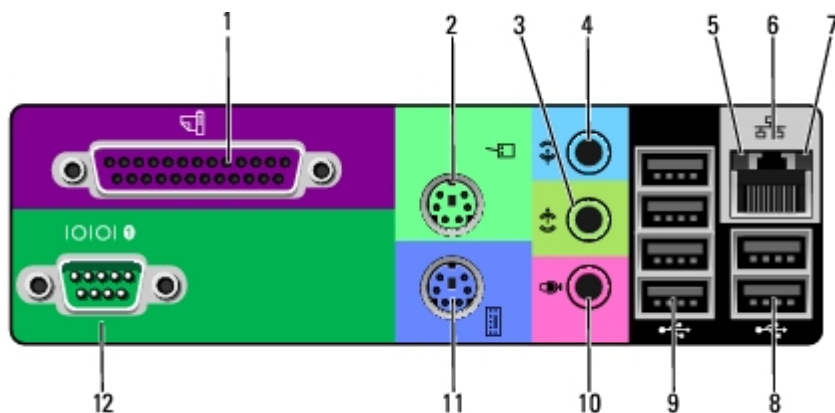
6	IEEE 1394 コネクタ	デジタルビデオカメラなどの高速シリアルマルチメディアデバイスを取り付けます。 メモ： IEEE 1394 コネクタを使用するには、この機能をサポートするアドインカードが必要です。カードをご注文になるには、 デルにお問い合わせください 。
7	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
8	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> 消灯 — コンピュータの電源がオフです。 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 緑色の点滅 — コンピュータは、省電力状態です。 橙色の点滅または点灯 — 「電源の問題」を参照してください。 <p>省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスに設定されている場合、キーボードかマウスを使います。スリープ状態および省電力状態からの復帰の詳細については、「電力の管理」を参照してください。</p> <p>コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。</p>
9	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 メモ： 電源ボタンは、システムを省電力状態から復帰したり、省電力状態にする際に使用します。詳細については、「 電力の管理 」を参照してください。 注意： データの損失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。

コンピュータの背面



1	セキュリティケーブルスロット	スロットとセキュリティケーブルを使って、コンピュータを保護することができます。
2	カバーラッチ	コンピュータからカバーを取り外します。「 コンピュータカバーの開き方 」を参照してください。
3	パッドロックリング	パッドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
4	カードスロット	取り付けられたすべての PCI または PCI Express カード用のコネクタにアクセスします。


5	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスに対応するコネクタに差し込みます。
6	電圧切り替えスイッチ	詳細については、『製品情報ガイド』の安全上の注意事項を参照してください。
7	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。

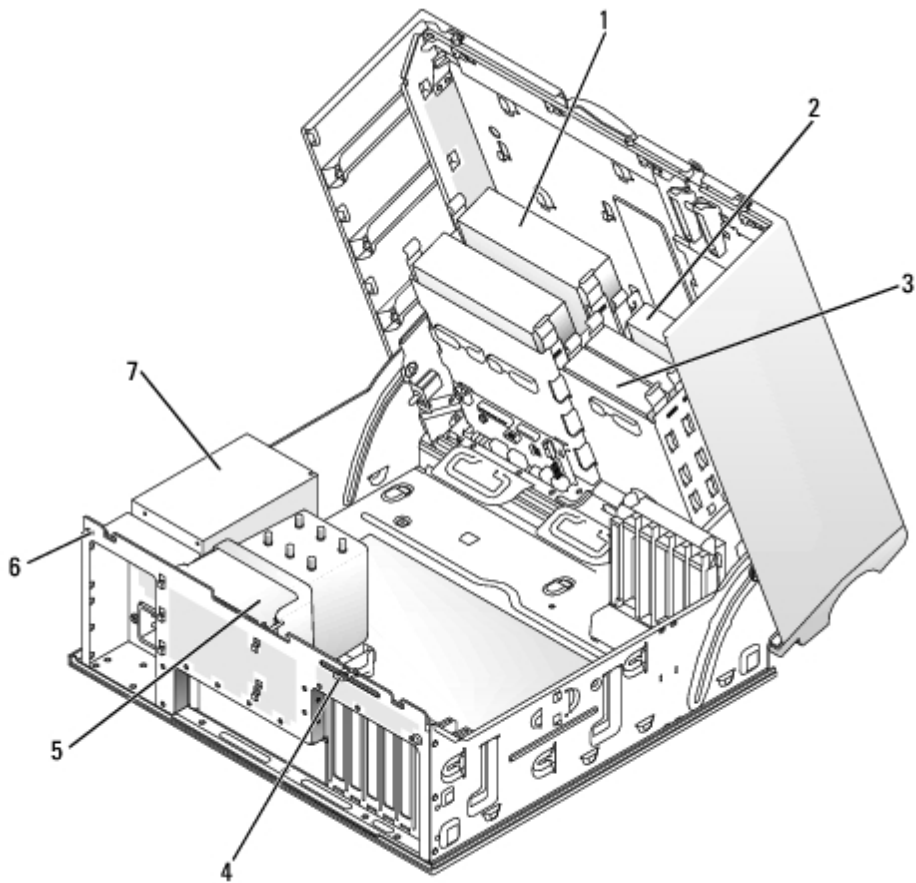


1	パラレルコネクタ	<p>プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。</p> <p>メモ： 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。</p>
2	マウスコネクタ	<p>標準型のマウスをお使いの場合、緑色のマウスコネクタに差し込みます。コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスの電源を切ってから、マウスをコンピュータに接続します。USB マウスをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。</p> <p>お使いのコンピュータで Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムを実行している場合、必要なマウスドライバはハードドライブにプリインストールされています。</p>
3	ライン出力コネクタ	<p>緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p>
4	ライン入力コネクタ	<p>青色のライン入力コネクタを使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p>
5	リンク保全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ 黄色 — 1000 Mbps (1 Gbps) ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
6	ネットワークアダプタコネクタ	<p>コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータのネットワークアダプタコネクタに接続します。インジケータにカチッと収まるまで、ネットワークケーブルをしっかりと取り付けます。</p> <p>メモ： ネットワークコネクタにモデムケーブルを差し込まないでください。</p>

	タ	<p>ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p> <p>カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使う必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。</p>
7	ネットワーク動作ライト	<p>コンピュータがネットワークデータを送受信している際は、黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。</p>
8	USB 2.0 コネクタ (2)	<p>プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。</p> <p>フラッシュメモリー、カメラ、または起動可能 USB デバイスなど、時々接続するデバイスは、正面 USB コネクタを使用することをお勧めします。</p>
9	USB 2.0 コネクタ (4)	<p>プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。</p> <p>フラッシュメモリー、カメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスは、正面 USB コネクタを使用することをお勧めします。</p>
10	マイクコネクタ	<p>ピンク色のマイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。</p>
11	キーボードコネクタ	<p>標準型のキーボードをお使いの場合、紫色のキーボードコネクタに差し込みます。USB キーボードをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。</p>
12	シリアルコネクタ	<p>ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 でシリアルコネクタ 2 が COM2 です。</p> <p>詳細については、「セットアップオプション」を参照してください。</p>

コンピュータの内部

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

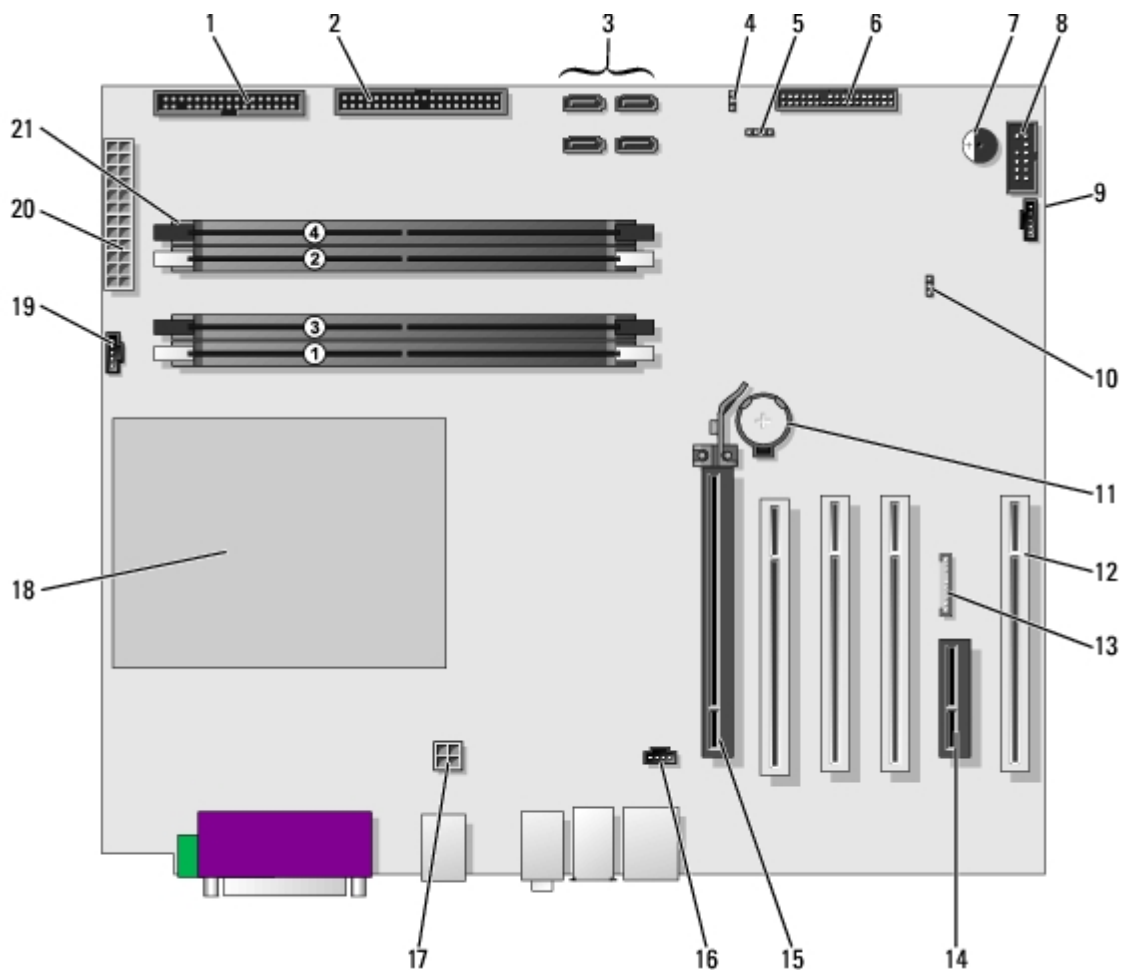


1	CD/DVD ドライブ	5	プロセッサエアフローカバーおよびファン
2	フロッピードライブ (オプション)	6	セキュリティケーブルスロット
3	ハードドライブ	7	電源装置
4	パドロックリング		

ケーブルの色

デバイス	色
ハードドライブ	青色のケーブル
フロッピードライブ	黒色のプルタブ
CD/DVD ドライブ	橙色のプルタブ

システム基板のコンポーネント



1	フロッピードライブ (FLOPPY)	12	PCI カードスロット (1 ~ 3)
2	IDE ドライブ (PRI IDE)	13	正面パネルオーディオ (FP AUD)
3	SATA コネクタ (SATA 0、SATA 1、SATA 2、SATA 3)	14	PCI Express x1 カードスロット
4	パスワードジャンパ (PASS)	15	PCI Express x16 (最大 150w) カードスロット
5	SCSI LED コネクタ	16	CD オーディオ入力 (CD IN)
6	正面パネルコネクタ	17	プロセッサ電源コネクタ
7	スピーカー	18	プロセッサソケット
8	セカンドシリアルポート (SERIAL 2)	19	プロセッサファンコネクタ (CPU FAN)
9	カードファンコネクタ (PCI FAN)	20	主電源コネクタ (POWER)
10	CMOS クリアジャンパ (CLR CMOS)	21	メモリモジュールコネクタ
11	バッテリーソケット (BATTERY)		

アドバンス機能

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [LegacySelect テクノロジコントロール](#)
- [管理機能](#)
- [セキュリティ機能](#)
- [パスワードによる保護](#)
- [セットアップユーティリティ](#)
- [パスワードを忘れたら](#)
- [CMOS 設定のリセット](#)
- [電力の管理](#)
- [ハイパースレッディング](#)
- [IEEE 1394](#)
- [U320 SCSI コントローラ](#)
- [RAID 構成について](#)

LegacySelect テクノロジコントロール

LegacySelect テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、または Dell™ カスタムファクトリー統合を介して管理できます。

LegacySelect を使って、管理者はシリアル / USB コネクタ、パラレルコネクタ、フロッピードライブ、PCI スロット、PS/2 マウスなどのコネクタおよびメディアデバイスを電子的に有効または無効にすることができます。コネクタおよびメディアデバイスを無効にして、リソースを利用可能にします。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF (Alert Standard Format)

ASF は、「プリオペレーティングシステム」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定する DMTF 管理標準です。オペレーティングシステムがスリープ状態にあるとき、またはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設定されています。ASF は、オペレーティングシステム不在の際の従来の警告方法に代わるものとして設計されています。

お使いのコンピュータでは、以下の ASF 警告をサポートしています。

警告	説明
BIOS: Corrupt BIOS/Corrupt BIOS Cleared	BIOS にエラーがあるか、または BIOS のエラーが解決しました。
Boot: Failure to Boot to BIOS	BIOS は、開始時にロードを完了できませんでした。
Password: System Password Violation	システムパスワードが無効です（無効なパスワードが 3 回入力されると警告が鳴ります）。
CPU: CPU DOA Alert/CPU DOA Alert Cleared	マイクロプロセッサが機能していません。
Heartbeats: Entity Presence	システムが存在していることを確認するために、ハートビートが定期的を送信されています。

Temperature: Generic Critical Temperature Problem/Generic Critical Temperature Problem Cleared	コンピュータ温度が限界値を超えたか、またはコンピュータ温度の問題が解決しました。
Voltage: Generic Critical Voltage Problem/Generic Critical Voltage Problem Cleared	内蔵電圧レギュレータが限界値を超えたか、または電圧の問題が解決しました。
Power Supply: Critical Power Supply Problem/Critical Power Supply Problem Cleared	コンピュータの電源装置の電圧が限界値を超えたか、またはコンピュータの電源装置の電圧の問題が解決しました。
Cooling Device: Generic Critical Fan Failure/Generic Critical Fan Failure Cleared	ファン速度 (rpm) が限界値を超えたか、またはファン速度 (rpm) の問題が解決しました。
Connectivity: Ethernet Connectivity Enabled/Ethernet Connectivity Disabled	Ethernet の接続が有効か、または Ethernet の接続が無効です。

デルの ASF 導入の詳細については、デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com で入手できる『ASF ユーザーズガイド』および『ASF 管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage IT Assistant

IT Assistant は、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistant は、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント（警告）、セキュリティを管理します。また、SNMP、DMI、および CIM の業界標準に準拠する計装をサポートします。

DMI と CIM を基本にした Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、お使いのコンピュータで使用できます。IT Assistant の情報は、デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com で入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）

Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、IT Assistant などのリモート管理プログラムが、以下を実行するのを可能にします。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告を受信することなど）
- お使いのコンピュータのステータスの変更（BIOS のアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど）

管理システムは、IT Assistant を使ってネットワーク上で Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）がセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）については、デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com で入手できる『Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）ユーザーズガイド』を参照してください。

セキュリティ機能

シャーシイントルージョンディテクタ

メモ：管理者パスワードが有効な場合、管理者パスワードがわからないと Chassis Intrusion の設定をリセットできません。



この機能は、シャーシが開けられたことを検出してユーザーに警告します。Chassis Intrusion 設定を変更するには、次の手順を実行します。

- セットアップユーティリティを起動します。
- 下矢印キーを押して、System Security オプションへ移動します。
- <Enter> を押してメニューを表示します。
- 左右矢印キーを使って、オプション設定を選びます。
- セットアップユーティリティを終了します。

オプション設定

- Enabled — コンピュータカバーが開けられると、設定が Detected に変わり、次のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に、以下の警告メッセージが表示されます。

Alert! Cover was previously removed. (警告!カバーが取り外されました。)

Detected の設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動します。Chassis Intrusion オプションで、左右矢印キーを押して Reset を選択してから、Enabled、Enabled-Silent、または Disabled を選びます。

- Enabled-Silent (デフォルト) — コンピュータカバーが開けられると、設定が Detected に変わります。次のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。デバイスに付属のマニュアルに、取り付け方法が記載されています。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット

以下の方法の1つを使って、コンピュータのセキュリティをおこないます。

- パドロックのみ、またはパドロック、ループ型セキュリティケーブル、および [パドロックリング](#) を一緒に使用します。

パドロックのみでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、無許可のコンピュータの移動を防ぐことができます。

- コンピュータ背面の [セキュリティケーブルスロット](#) に市販の盗難防止デバイスを取り付けます。



メモ: 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。デバイスに付属のマニュアルに、取り付け方法が記載されています。

パスワードによる保護

- ➡ **注意：**パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

システムパスワード

- ➡ **注意：**システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、誰でもハードドライブ内のデータにアクセスできるようになります。

オプション設定

以下の2つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- Disabled — システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、システムパスワードを設定できます。

- Set — システムパスワードが設定されています。
- Not Enabled — システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。

システムパスワードの設定

システムパスワードの入力を途中で中止したい場合は、<Tab> または <Shift><Tab> を押して別のフィールドに移動するか、手順5を終了する前に <Esc> を押します。

[セットアップユーティリティを起動して](#)、Password Status が Unlocked に設定されているか確認します。

System Password をハイライト表示して、<Enter> を押します。

オプション名が Enter Password に変わり、その後ろに 32 文字分の空のフィールドが現れます。

新しいシステムパスワードを入力します。

32 文字まで入力できます。入力した文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、カーソルは動きません。

それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。

<Enter> を押します。

新しいシステムパスワードが 32 文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が Confirm Password に

変わり、その後ろに 32 文字分の別の空のフィールドが現れます。

□□□ パスワードを確認するために、再度パスワードを入力して <Enter> を押します。

パスワード設定は Set に変わります。

□□□ セットアップユーティリティを終了します。

コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトの 1 つが画面に表示されます。

Password Status が Unlocked に設定されている場合

```
Type in the password and  
- press <ENTER> to leave password security enabled.  
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.  
Enter password:
```

(パスワードを入力して、<Enter> を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。<Ctrl><Enter> を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。パスワードを入力してください。)

Password Status が Locked に設定されている場合

```
Type the password and press <Enter>.  
(パスワードを入力して、<Enter> を押してください。)
```

```
Enter password: (パスワードを入力してください。)
```

セットアップパスワードが設定されている場合、コンピュータはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。


入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. ** (誤ったパスワード。)
```

再び誤ったパスワードまたは不完全なパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを 3 回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password.**  
Number of unsuccessful password attempts: 3  
System halted! Must power down.  
(誤ったパスワード。間違ったパスワード入力の回数: 3 システムが停止しました! 電源を落としてください。)
```

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

 **メモ:** System Password と Admin Password を併用して Password Status を使用すると、無許可の変更に対してコンピュータの保護を強化できます。

既存のシステムパスワードの変更と取り消し

「[システムパスワードの設定](#)」の手順に従って、システムパスワードを変更します。

システムパスワードを削除するには、次の手順を実行します。

- [セットアップユーティリティを起動します](#)。
- System Password をハイライト表示させて、<Enter> を押します。
- プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
- <Enter> を 2 回押して、既存のセットアップパスワードを消去します。設定は Not Set に変わります。
- 新しいパスワードを設定する場合、「[システムパスワードの設定](#)」の手順に従います。


管理者パスワード

オプション設定

- Set — セットアップパスワードの設定ができません。セットアップユーティリティを変更するには、セットアップパスワードを入力する必要があります。
- Not Set — セットアップパスワードの設定ができます。パスワード機能は有効ですがパスワードが設定されていません。
- Disabled — システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。

 **メモ：** これらのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することはできません。

- [セットアップユーティリティを起動して](#)、Admin Password が Not Enabled に設定されているか確認します。
- Admin Password をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字の場合、ビーブ音が鳴ります。

- パスワードを入力して確認します。

パスワードの確認が終わると、Admin Password の設定は、Enabled に変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。


- セットアップユーティリティを終了します。

Admin Password の変更は、ただちに有効になります（コンピュータを再起動する必要ありません）。

管理者パスワードが有効な場合のコンピュータの操作

[セットアップユーティリティを起動すると](#)、Admin Password オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップオプションを変更することはできませんが、セットアップユーティリティ画面は表示されません。

 **メモ：** Admin Password と一緒に Password Status を使用すると、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

管理者パスワードの削除と変更

既存の管理者パスワードを変更するには、パスワードを知っている必要があります。

- [セットアップユーティリティを起動します](#)。
- プロンプトで管理者パスワードを入力します。
- <Enter> を 2 回押して、既存の管理者パスワードを消去します。設定は Not Set に変わります。

「[システムパスワードの設定](#)」の手順を実行して、新しいセットアップパスワードを設定します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定

システムパスワードまたは管理者パスワードをリセットするには、「[パスワードを忘れたら](#)」を参照してください。

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- お使いのコンピュータにハードウェアを追加、変更、または取り外した後のシステム構成情報の変更
- ユーザーパスワードなどのユーザーの選択可能なオプションの設定または変更
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを使用する前に、後で参照できるようにセットアップユーティリティ画面の情報を書き留めてください。

セットアップユーティリティの起動

- コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。


ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、[コンピュータをシャットダウンして](#)、再度試みます。

セットアップユーティリティ画面


セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は、オプション一覧、アクティブなオプションのフィールド、キー操作の3つの領域に分かれます。

<p>Options List — このフィールドはセットアップユーティリティ画面の左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示するスクロール可能な一覧です。</p> <p>上下矢印キーを使って、一覧を上下にスクロールします。オプションがハイライト表示されている際、Option Field はそのオプションの詳細とオプションの現在の設定および利用可能な設定を表示します。</p>	<p>Option Field — 各オプションの情報を表示します。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。</p> <p>左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter>を押して、選択したオプションをアクティブにします。</p>
	<p>Key Functions — このフィールドは Option Field の下に表示され、アクティブなセットアップユーティリティフィールドでのキーとその機能を一覧表示します。</p>

セットアップオプション

 **メモ：** お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによって、この項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

Info	
System Info	コンピュータ名、BIOS のバージョン、BIOS の日付、Asset Tag、サービスタグ、および所有者タグを一覧表示します。
CPU Info	コンピュータのプロセッサがハイパースレッディング、IEM64T をサポートしているか識別します。また CPU 速度、バス速度、クロックスピード、および L2 キャッシュも識別します。
Memory Info	取り付けられたメモリの容量、メモリの速度、ビデオメモリの容量、ディスプレイキャッシュのサイズ、およびチャンネルモード（デュアルまたはシングル）を示します。
Date/Time	現在の日付と時間設定を表示します。これらの設定は変更できます。
Boot Sequence	コンピュータはこの一覧で指定したデバイスの順番で起動を試みます。
Drive	
Diskette Drive	ディスクドライブを有効/無効にして、内蔵ディスクドライブの読み込み許可を設定します。Off は、すべてのディスクドライブを無効にします。Internal は、内蔵ディスクドライブを有効にします。USB は、USB コントローラが有効で USB ドライブが接続されている場合、内蔵ディスクドライブを無効にして、USB ドライブを有効にします。Read Only は、内蔵ドライブコントローラを有効にして、内蔵ディスクドライブを読み込み専用にします。

Drive 0	システム基板の SATA0 コネクタに接続されているプライマリシリアルハードドライブを識別します。
Drive 1	システム基板の SATA1 コネクタに接続されているセカンドシリアルハードドライブを識別します。
Drive 2	システム基板の IDE1 コネクタに接続されているプライマリハードドライブを識別します。
Drive 3	システム基板の IDE1 コネクタに接続されているプライマリハードドライブを識別します。
Drive 4	システム基板の IDE2 コネクタに接続されているセカンドハードドライブを識別します。
Drive 5	システム基板の IDE2 コネクタに接続されているセカンドハードドライブを識別します。
Error Reporting	システム起動時に、内蔵 IDE ドライブ（ドライブ 0～6）のハードドライブエラーを報告するかどうかを制御します。
Onboard Devices	
Audio Controller	オンボードのオーディオコントローラを有効または無効にします。
NIC Controller	NIC を On（デフォルト）、Off、または On w/ PXE に設定します。On w/ PXE 設定がアクティブな際（次回以降の起動プロセスで利用可能）、コンピュータはユーザーに <Ctrl><Alt> を押すように求めます。このキーの組み合わせを押すと、ネットワークサーバーから起動方法を選択できるメニューが表示されます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
LPT Port Mode	内蔵パラレルポートの動作モードを指定します。Off は、ポートを無効にします。AT は、ポートを IBM AT 互換用に設定します。PS/2 は、ポートを IBM PS/2 互換用に設定します。EPP は、ポートを EPP 双方向プロトコル用に設定します。ECP は、ポートを ECP 双方向プロトコル用に設定します。 メモ： LPT Port Mode を ECP に設定すると、オプションメニューに LPT Port DMA が表示されます。
LPT Port Address	内蔵パラレルポートが使用するアドレスを指定します。
LPT Port DMA	ECP モードの際に、パラレルポートが使用するアドレスを指定します。Off は、DMA チャンネルを無効にします。DMA 1 は、DMA 1 チャンネルを選びます。DMA 3 は、DMA 3 チャンネルを選びます。
SATA2 Controller	
Serial Port #1	シリアルポートカードを取り付けている場合、Serial Port 1 がオプションとして表示されます。 Auto（デフォルト）は、コネクタを自動的に特定のポート（COM1 または COM3）に設定します。
USB	内蔵 USB コントローラを有効または無効にします。Off は、コントローラを無効にします。On は、コントローラを有効にします。
Performance	
Hyper-threading	各物理プロセッサが 1 つまたは 2 つの論理プロセッサとして表示されるかどうかを指定します。いくつかのアプリケーションでは、追加の論理プロセッサにより性能が向上します。On は、ハイパースレディングを有効にします。Off は、ハイパースレディングを無効にします。
IDE Performance	<ul style="list-style-type: none"> • Quiet（デフォルト）— ハードドライブは最も静かな設定で動作します。 • Performance — ハードドライブは最大速度で動作します。 • Bypass — お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。 • Suggested — ハードドライブは、ハードドライブの製造元が推奨する速度レベルで動作します。 <p>メモ： Performance モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。</p> <p> メモ： アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。</p>

Security	
Admin Password	このオプションは、System Password オプションがシステムへのアクセスを制限するのと同様に、コンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限します。
System Password	現在のシステムのパスワードセキュリティ機能の状態を表示して、新しいシステムパスワードの割り当てと確認をおこないます。
Drive Password	
Password Status	このオプションは、管理者パスワードと共にシステムパスワードフィールドをロックします。このフィールドがロックされている場合、コンピュータ起動時の <CTRL><ENTER> によるパスワードセキュリティの解除オプションは利用できません。
Chassis Intrusion	有効な場合、このオプションはコンピュータの次回起動時に、コンピュータカバーが開けられたことをユーザーに警告します。
Power Management	
AC Power Recovery	コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを設定します。
Auto Power On	<p>時間と曜日を設定し、コンピュータに自動的に電源を入れることができます。選べるのは、毎日または月曜から金曜の毎日です。</p> <p>時間は 24 時間形式（時間：分）で表示されます。左右矢印キーを押して、数値を増減するか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。</p> <p>デフォルト設定は、Disabled です。</p> <p>この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。</p>
Auto Power Time	
Low Power Mode	Low Power Mode が選ばれている場合、Remote Wakeup イベントはオンボードのネットワークコントローラを介して Hibernate または Off から起動しません。
Remote Wake-Up	<p>このオプションは、Network Interface Controller または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムが起動するように設定します。</p> <p>On がデフォルト設定です。On w/ Boot to NIC は、起動順序を試みる前に、システムはネットワークからの起動を試みます。</p> <p>メモ： 通常、システムはサスペンドモード、休止状態モード、または電源が切れた状態からリモートで起動できます。Power management メニューで Low Power Mode が有効な場合、システムは Suspend からのみリモートで起動できます。</p>
Suspend Mode	オプションは、S1（コンピュータが省電力モードで動作中のサスペンド状態）および S3（システムメモリがアクティブで、ほとんどのコンポーネントに電源が低減されているか切られているスタンバイ状態）です。
Maintenance	
BIOS Update	お使いのコンピュータが BIOS のアップデートファイルを探す場所を指定します。Diskette は、DOS ディスケットのルートディレクトリを探します。Disk は、ハードディスクドライブまたは USB メモリーパーティション（FAT16 のみ）を探します。
Event Log	システムイベントログを表示します。
CMOS Defaults	この設定はコンピュータの工場出荷時のデフォルト設定を復元します。
Video	
Primary Video	
POST Behavior	

Fastboot	On (デフォルト) に設定している場合、お使いのコンピュータはいくつかの設定とテストを省略するので、より早く起動します。
Numlock Key	このオプションは、キーボードの一番右のバンクにあるキーに関連します。On (デフォルト) に設定されていると、このオプションは各キーの上部に表示されている数値機能がアクティブになります。Off に設定されていると、このオプションは各キーの下部に描かれているカーソルコントロール機能を有効にします。
OS Install	この設定は OS Install Mode を On または Off (デフォルト) にします。
Keyboard Errors	Report (有効) に設定している場合、POST 中にエラーが検出され、BIOS がエラーメッセージを表示して、<F1> を押して続けるか、<F2> を押してセットアップユーティリティを起動するかが表示されます。Do Not Report (無効) に設定している場合、POST 中にエラーが検出されても、BIOS はエラーメッセージを表示せず、コンピュータを起動し続けます。
POST Hotkeys	

Boot Sequence (起動順序)

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。

オプション設定

- Onboard or USB Floppy Drive — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、またはフロッピーディスクがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- Onboard SATA Hard Drive および Onboard IDE Hard Drive — コンピュータは、プライマリハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- Onboard or USB CD Drive — コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。CD がドライブにない場合、あるいは CD にオペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- USB Device — USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上角に F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB フラッシュオプションを起動メニューに追加します。



メモ: USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。お使いのデバイスが起動可能か確認するには、デバイスのマニュアルを参照してください。

現在の起動用の起動順序の変更

この機能を使って、たとえば、『Drivers and Utilities CD』にある Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行するよう CD ドライブからコンピュータを起動し、Dell Diagnostics (診断) プログラムが完了したらハードドライブから起動するように設定できます。この機能を使って、フロッピードライブ、メモリキーなどの USB デバイスからコンピュータを再起動することができます。



メモ: USB フロッピードライブから起動する場合、まず [セットアップユーティリティ](#) でフロッピードライブを OFF にする必要があります。

□□□ USB デバイスから起動する場合、USB デバイスを [USB コネクタ](#) に接続します。

□□□ コンピュータの電源を入れます (または再起動します)。


□□□ 画面の右上角に F2 = Setup, F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、[コンピュータをシャットダウンして](#)、再度試みます。

すべての利用可能な起動デバイスを一覧表示した Boot Device Menu が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。

□□□ メニューの一番下で、現在の起動のみに使用されるデバイスの番号を入力します。


たとえば、USB メモリキーから起動する場合、USB Flash Device をハイライト表示して、<Enter> を押します。

 **メモ：** USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。お使いのデバイスが起動可能か確認するには、デバイスのマニュアルを参照してください。

将来の起動用の起動順序の変更

□□□ [セットアップユーティリティを起動します。](#)

□□□ 矢印キーを使って Boot Sequence メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押して、ポップアップメニューにアクセスします。


 **メモ：** 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書き留めておきます。


□□□ デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。

□□□ デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。

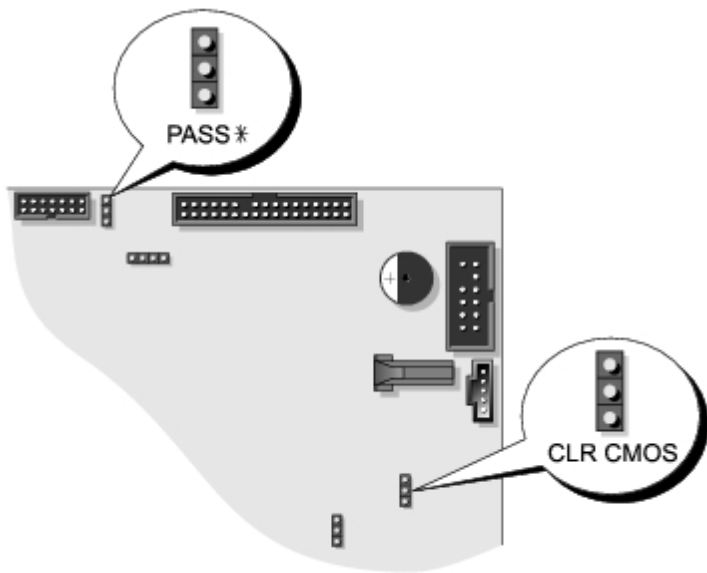
□□□ 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス（+）またはマイナス（-）を押します。

パスワードを忘れたら

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **注意：** この手順をおこなうと、システムパスワードとセットアップパスワードの両方が消去されます。

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。



ジャンパ	設定	説明
PSWD	Table 1-1.	パスワード機能が有効になっています。
		パスワード機能が無効になっています。
CLR_CMOS	Table 1-1.	通常の CMOS 機能です。
		CMOS 設定をリセットします。

- システム基板の 3 ピンパスワードジャンパ (PSWD) の位置を確認し、2 番ピンおよび 3 番ピンにジャンパプラグを被せて、パスワードを消去します。ミニタワーコンピュータについては、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照してください。デスクトップコンピュータについては、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照してください。

メモ： お使いのコンピュータは出荷時に、1 番ピンおよび 2 番ピンにジャンパプラグが取り付けられています。

- [コンピュータカバーを閉じます。](#)
- コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
- コンピュータに Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されたら、[コンピュータをシャットダウンします。](#)

□□□ モニターの電源を切って、コンセントから外します。

□□□ コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を逃がします。

□□□ [コンピュータカバーを開きます。](#)

□□□ システム基板の 3 ピンパスワードジャンパの位置を確認し、1 番ピンおよび 2 番ピンにジャンパを取り付けて、パスワード機能を再度有効にします。ミニタワーコンピュータについては、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照してください。デスクトップコンピュータについては、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照してください。

□□□□ [コンピュータカバーを閉じます。](#)

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

📎 **メモ：** これで、パスワード機能は有効になります。[セットアップユーティリティを起動すると](#)、システムパスワードオプションと管理者パスワードオプションの両方が Not Set と表示されます（パスワード機能は有効ですが、パスワードが設定されていません）。

□□□□ 新しいシステムパスワード、またはセットアップパスワードを設定します。

CMOS 設定のリセット

⚠ **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。

□□□ 現在の CMOS 設定をリセットするには、次の手順を実行します。

□□□ システム基板のパスワードジャンパと CMOS ジャンパ（CLRCM）の位置を確認します。

□□□ ジャンパプラグをピンから取り外します。

□□□ ジャンパプラグを CLRCM ピンに被せて、5 秒間待ちます。

□□□ CLRCM ピンからジャンパプラグを取り外して、パスワードピンに取り付けなおします。

□□□ [コンピュータカバーを閉じます。](#)

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。


□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

電力の管理


お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。コンピュータにインストールされたオペレーティングシステムおよび[セットアップユーティリティ](#)の特定のオプション設定を使って、電力の使用を制御します。節電されている期間を「スリープ状

態」と呼びます。

- ・スタンバイ – このスリープ状態では、ほとんどのコンポーネント（冷却ファンを含む）への電力は低減されているか、切られています。ただし、システムメモリはアクティブです。

 **メモ：** スタンバイ状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。


- ・休止状態 – このスリープ状態は、システムメモリのすべてのデータをハードドライブに書き込み、次に、システム電源を切ることによって、電力消費を最小にします。この状態からウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。その後、コンピュータは休止状態に入る前の動作状態に戻ります。

 **メモ：** 休止状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- ・シャットダウン – このスリープ状態では、補助用のわずかな量を除いてコンピュータからすべての電源を切ります。コンピュータがコンセントに接続されている限り、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、[セットアップユーティリティ](#)の Auto Power On オプションを使うと、コンピュータを特定の時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者は電源管理イベント（Remote Wakeup など）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。

次の表に、スリープ状態とそれぞれの状態から復帰させるために使用できる方法を一覧表示します。

スリープの状態	ウェイクアップの方法（Windows XP）
スタンバイ	<ul style="list-style-type: none">・ 電源ボタンを押す・ Auto Power On・ マウスを動かすかクリックする・ キーボードで入力する・ USB デバイスアクティビティ・ Power management event（電源管理イベント）
休止状態	<ul style="list-style-type: none">・ 電源ボタンを押す・ Auto Power On・ Power management event（電源管理イベント）
シャットダウン	<ul style="list-style-type: none">・ 電源ボタンを押す・ Auto Power On・ Power management event（電源管理イベント）

 **メモ：** 電源管理の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

ハイパースレッディング

ハイパースレッディングは、Intel® のテクノロジーで、1つの物理プロセッサを2つの論理プロセッサとして機能させることによってパフォーマンスを全体的に向上させて、複数の特定のタスクを同時に処理することを可能にします。Windows XP オペレーティングシステムは、ハイパースレッディングテクノロジーを利用するために最適化されているので、Microsoft® Windows® XP SP1 以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。多くのプログラムは、ハイパースレッディングの恩恵を受けることとなりますが、ハイパースレッディング用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェアの製造元によるアップデートが必要な場合があります。アップデートやハイパースレッディングでソフトウェアを使用する方法については、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。


お使いのコンピュータがハイパースレッディングテクノロジーを使用しているか確認するには、次の手順を実行します。

- スタート ボタンをクリックし、マイコンピュータ をクリックして、プロパティ をクリックします。
- ハードウェア をクリックして、デバイスマネージャ をクリックします。
- デバイスマネージャ ウィンドウで、プロセッサタイプの横の (+) サインをクリックします。ハイパースレッディングが有効な場合、プロセッサは2つ表示されています。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレッディングを有効または無効にすることができます。

IEEE 1394

IEEE 1394 は、コンピュータと周辺機器間で大容量のデータを移動できるデジタルインターフェースです。IEEE 1394 はデータおよび大きなファイルの転送速度を増すので、マルチメディアデバイスとの使用に最適です。これにより、コンピュータをデジタルビデオカメラなどのデバイスに直接接続することが可能になります。

 **メモ:** コネクタには、アダプタを使って4ピンのIEEE 1394 デバイスを接続できます。

Dell Precision 370 デスクトップコンピュータには、オプションの正面 IEEE 1394 コネクタがあります（「[デスクトップコンピュータ](#)」を参照）。このコネクタは、アドイン IEEE 1394 カードをご購入された場合のみ利用できます。カードを購入するには、デルにお問い合わせください。

U320 SCSI コントローラ


オプションの U320 SCSI コントローラは、PCI ベースのコントローラで、U320 (320 MBps) の速度で実行中は LVD (低電圧差異) モードで動作します。バスは逆方向互換であり、U160 (160 MBps)、Ultra2 (80 MBps)、Ultra (40 MBps) の速度で動作することができます。

SE (single-ended) デバイスが LVD デバイス (U320、U160、または Ultra2 など) と同じバスに接続されている場合、SCSI バスは SE モードで動作し、Ultra (40 MBps) の最大速度で動作します。

お使いのミニタワーコンピュータでの SCSI デバイスの取り付けおよび SCSI ID の設定については、「[ドライブ](#)」を参照してください。デスクトップコンピュータでの設定については、「[ドライブ](#)」を参照してください。

RAID 構成について

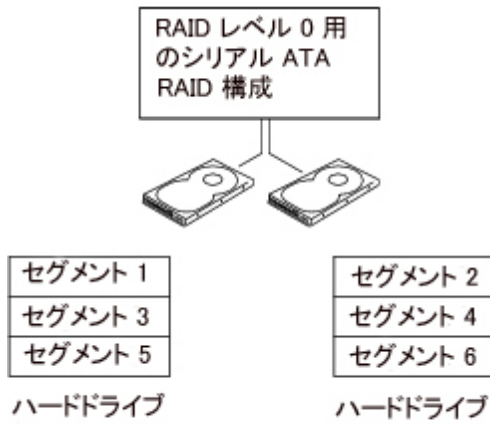
この項では、コンピュータのご購入時に選択された RAID 構成の概要について説明します。コンピュータ業界では異なる使用目的のためにいくつかの RAID 構成がありますが、デルでは、Precision コンピュータで RAID レベル 0 または RAID レベル 1 のいずれかを提供します。RAID レベル 0 構成は、高性能アプリケーションに適していて、RAID レベル 1 構成は、高度なデータの整合性を求めるユーザーに適しています。

 **メモ:** RAID レベルは、階級を示すものではありません。RAID レベル 1 構成は、本質的に RAID レベル 0 構成より良質というわけではありません。

RAID レベル 0

RAID レベル 0 は、「データストライピング」というストレージ技術を使用して、高いデータアクセス速度を提供します。データストライピングは、データの連続したセグメント（またはストライプ）を物理ドライブに順次書き込み、より大きな仮想ドライブを作成します。データス

トライピングを使うと、1つのドライブでデータを読み出している間に、別のドライブで次のブロックを探しながら読み出すことができます。

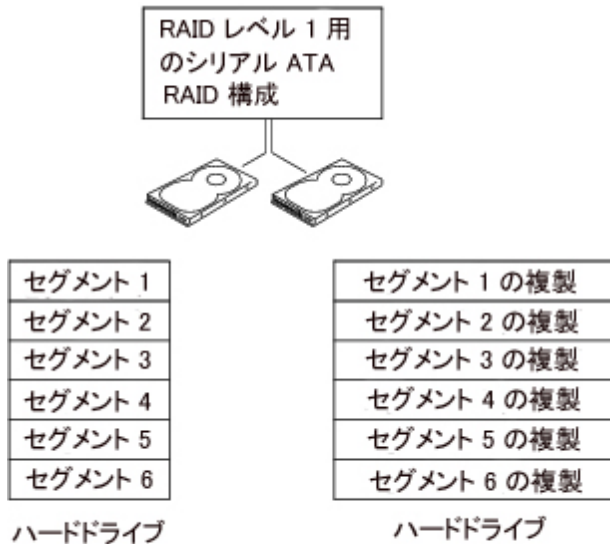


RAID レベル 0 のもう 1 つの利点は、ドライブの最大容量を利用できることです。160 GB のドライブが 2 つ取り付けられている場合、320 GB をデータの保存に使用することができます。

- ➡ **注意：** RAID レベル 0 はデータの冗長性を提供しないので、1 つのドライブが故障した場合、別のドライブのデータにもアクセスできなくなります。したがって、RAID レベル 0 構成を使用する際は、定期的なバックアップをおこなってください。

RAID レベル 1

RAID レベル 1 は、「ミラーリング」というデータ冗長のストレージ技術を使用します。プライマリドライブにデータが書き込まれる際、データは別のドライブに複製（またはミラー）されます。RAID レベル 1 構成では、データの冗長性のためにデータアクセス速度が犠牲になります。




ドライブが故障すると、次の読み出し / 書き込み動作は、正常に動作しているドライブでおこなわれます。正常に動作しているドライブを使って、交換用のドライブでデータを再構築することができます。また、データは両方のドライブで複製されるので、2 つの 160 GB の RAID レベル 1 ドライブは、データの保存に 160 GB を利用できます。

[目次ページに戻る](#)

CD および DVD のコピー


Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

 **メモ：** CD または DVD をコピーする際は、著作権法に基づいていることを確認してください。


この項は、CD-R、CD-RW、DVD+RW、DVD+R、または DVD/CD-RW コンボドライブが搭載されているコンピュータのみに適用されます。

以下の手順では、CD または DVD の正確なコピーを作成する方法について説明します。Sonic RecordNow を使用して、コンピュータのオーディオファイルから CD を作成したり、MP3 CD を作成することもできます。手順については、コンピュータに付属している Sonic RecordNow のマニュアルを参照してください。Sonic RecordNow を開き、ウィンドウの右上角にある疑問符 (?) のアイコンをクリックして、RecordNow のヘルプ または RecordNow チュートリアル をクリックします。

CD または DVD のコピー方法

 **メモ：** DVD/CD-RW コンボドライブをお持ちで、記録中に問題が発生する場合は、Sonic サポートウェブサイト sonic.japan.co.jp にアクセスして、利用できるソフトウェアパッチがあるか確認してください。

現在、DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RW、および DVD-RAM の 5 種類の書き込み可能な DVD ディスクのフォーマットがあります。Dell™ コンピュータに取り付けられている書き込み可能な DVD ドライブでは、DVD+R および DVD+RW メディアに書き込むことができ、DVD-R および DVD-RW メディアを読み取ることができます。ただし、書き込み可能な DVD ドライブは DVD-RAM メディアには書き込むことができず、読み取れない場合もあります。また、市販されているホームシアターシステム用の DVD プレーヤーでは、5 種類すべてのフォーマットを読み取れない場合があります。

 **メモ：** 市販の DVD のほとんどは、著作権を保護されているので、Sonic RecordNow を使用してコピーすることはできません。

□□□ スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム → Sonic → RecordNow! とポイントして、RecordNow! をクリックします。

□□□ コピーする CD または DVD の種類に応じて、オーディオタブまたはデータタブをクリックします。

□□□ バックアップ をクリックします。

□□□ CD または DVD をコピーするには、次の手順を実行します。

- CD または DVD ドライブが 1 つある場合、設定が正しいか確認して、バックアップ をクリックします。コンピュータがソース CD または DVD を読み取り、コンピュータのハードドライブのテンポラリフォルダにコピーします。

プロンプトが表示されたら、空の CD または DVD を CD または DVD ドライブに挿入して、OK をクリックします。

- CD または DVD ドライブが 2 つある場合、ソース CD または DVD を挿入したドライブを選び、バックアップ をクリックします。コンピュータは、CD または DVD のデータを空の CD または DVD にコピーします。

ソース CD または DVD のコピーが完了すると、CD または DVD トレイが自動的に開きます。

空の CD-R または空の CD-RW の使い方

お使いの CD-RW ドライブは、CD-R および CD-RW (high-speed CD-RW を含む) という 2 種類の異なった記録メディアに書き込みをおこないます。空の CD-R は、音楽の保存やデータファイルを恒久的に保存するのに使用します。CD-R を作成したら、記録方法を変えない限りその

ディスクに書き込むことはできません（詳細については、Sonic のマニュアルを参照）。空の CD-RW は、CD へのデータの書き込み、削除、再書き込み、およびアップデートをおこなうのに使用します。

お使いの書き込み可能な DVD ドライブは、CD-R、CD-RW（high-speed CD-RW を含む）、DVD+R、および DVD+RW という 4 種類の異なった記録メディアに書き込みをおこないます。空の DVD+R は、大容量の情報を恒久的に保存するのに使用できます。ディスク作成プロセスの最終段階でディスクを「終了した」または「閉じた」場合、DVD+R ディスクの作成後はそのディスクに書き込むことはできません。後日、ディスクへのデータの書き込み、削除、再書き込み、およびアップデートをおこなう場合、空の DVD+RW を使用します。

役に立つヒント

- Sonic RecordNow を起動し、RecordNow プロジェクトを開いてから、Microsoft® Windows® エクスプローラでファイルを CD-R または CD-RW にファイルをドラッグ&ドロップしてください。
- 通常のステレオで再生する音楽 CD を焼くには、CD-R を使用する必要があります。CD-RW は、ほとんどの家庭用ステレオおよびカーステレオでは再生できません。
- Sonic RecordNow を使用して、音楽 DVD を作成することはできません。
- 音楽用 MP3 ファイルは、MP3 プレーヤーまたは MP3 ソフトウェアがインストールされたコンピュータでのみ再生できます。
- 空の CD-R または CD-RW に最大容量を焼かないでください。たとえば、650 MB の空の CD に 650 MB のファイルをコピーしないでください。CD-RW ドライブは、記録の最終段階で空の CD の 1 または 2 MB を必要とします。
- CD への記録方法に慣れるまでは、空の CD-RW を使って CD への記録を練習してください。間違えた場合でも、CD-RW であればデータを消去して再度やりなおすことができます。空の CD-RW を使用して、空の CD-R に恒久的にプロジェクトを記録する前に、音楽ファイルプロジェクトをテストすることもできます。
- Sonic サポートウェブサイト sonic.japan.co.jp に、役に立つヒントが他にもありますので、参照してください。

[目次ページに戻る](#)

はじめに

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

この章では、コンピュータのコンポーネントの取り外しおよび取り付けについて説明します。特に記載のない限り、各手順において以下の項目を完了している事を前提とします。


- 「[コンピュータの電源を切る](#)」 および 「[コンピュータ内部の作業をする前に](#)」 の手順を完了している
- Dell™ 『製品情報ガイド』 の安全に関する注意事項を読み終えている
- コンポーネントは、取り外し手順と逆の順序で取り付けることができる

推奨ツール

このマニュアルの手順では、以下のツールが必要な場合があります。

- 小型のマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートのフロッピーディスクまたは CD

コンピュータの電源を切る

 **注意：** データの損失を防ぐため、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してから、コンピュータの電源を切ってください。

□□□ オペレーティングシステムをシャットダウンするには、次の手順を実行します。

□□□ 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。スタート ボタンをクリックして、終了オプションをクリックします。


□□□ コンピュータの電源を切る ウィンドウで、電源を切る をクリックします。





オペレーティングシステムのシャットダウン処理が完了すると、コンピュータの電源は切れます。

□□□ コンピュータと取り付けられているデバイスの電源が切れているか確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンした際に、コンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。


コンピュータ内部の作業をする前に

コンピュータへの損傷を防ぎ、ご自身を危険から守るため、次の安全に関する注意事項に従ってください。

 **警告：** 『製品情報ガイド』 の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。


-  **警告：**コンポーネントおよびカードは慎重に扱います。カード上のコンポーネントまたは接点には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケット部分を持ちます。プロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。
-  **注意：**認定を受けたサービス技術者以外は、コンピュータの修理をしないでください。デルに承認されていない修理で受けた損傷は、お客様の保証に含まれていません。
-  **注意：**ケーブルを抜くときは、コネクタまたはストレーンリリーフループの部分を持ち、ケーブル自体を引っ張らないでください。ロックタブ付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを抜く場合、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っているか確認します。
-  **注意：**コンピュータへの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業をする前に以下の手順を実行してください。

□□□ [コンピュータの電源を切ります。](#)


-  **注意：**ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルをコンピュータから外し、次に、壁のネットワークジャックから外します。

□□□ 電話回線や通信回線のケーブルをコンピュータから外します。

□□□ コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を逃がします。

-  **警告：**感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

□□□ [コンピュータカバーを開きます。](#)

-  **注意：**コンピュータ内部に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃がしてください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

[目次ページに戻る](#)

コンピュータカバーの開き方

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- ⚠ **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
- ⚠ **警告：**感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

□□□ 「はじめに」の手順を実行します。

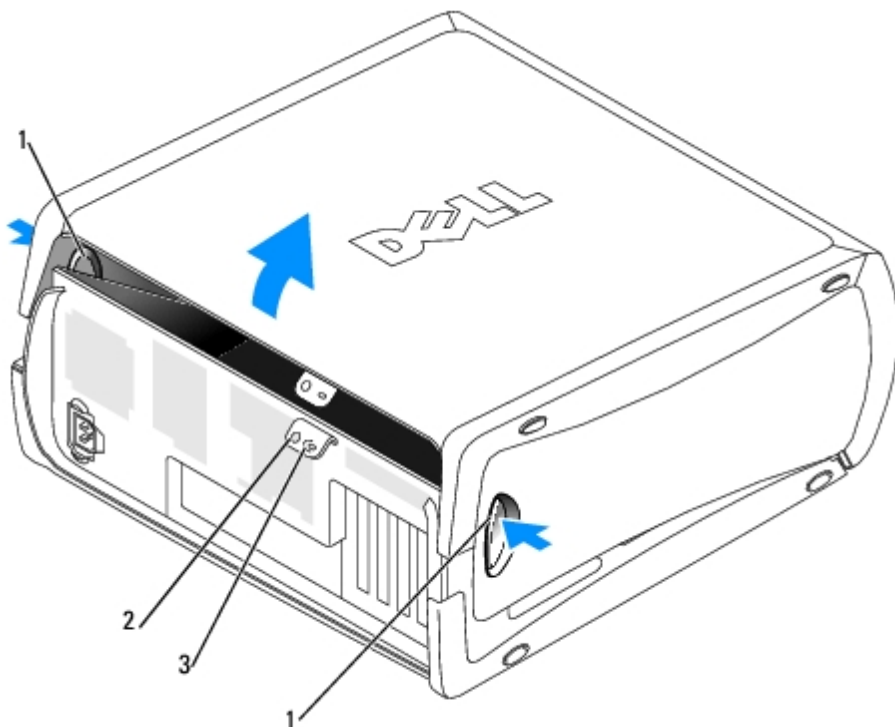
□□□ 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

➡ **注意：**カバーを開いておくために十分なスペース（机の上に 30 cm 以上）があることを確認します。

□□□ 図に示されているように、側面を下にしてコンピュータを置きます。

□□□ カバーを開きます。

- コンピュータの背面を手前に向け、コンピュータの右側にあるリリースボタンを押しながら、もう片方の手でカバー上端を引き上げます。
- 片方の手でコンピュータの左側にあるリリースボタンを押しながら、もう片方の手でカバー上端を引き上げます。
- 片方の手でコンピュータの底部を押さえ、もう片方の手でカバーを開きます。



1	リリースボタン
2	セキュリティケーブルスロット

[目次ページに戻る](#)

メモリ

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド


- [メモリの概要](#)
- [メモリの取り付け](#)
- [メモリの取り外し](#)

➡ **注意：** 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の最新の BIOS をデルサポートウェブサイト support.jp.dell.com からダウンロードしてください。

メモリの概要

- ・ お使いのコンピュータでサポートされているメモリのタイプについては、「[仕様](#)」を参照してください。
- ・ メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジーのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。モジュールの左上角のラベルを参照して、メモリの容量を決めます。



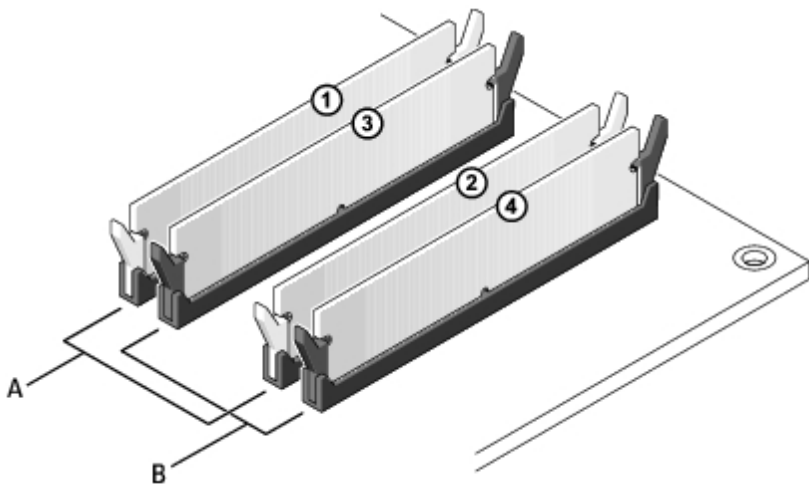
 **メモ：** 必ず、システム基板に示されている順番でメモリモジュールを取り付けます。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。


- ・ 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM_1 および DIMM_2 に装着


または

- ・ 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM_1 および DIMM_2 に装着し、コネクタ DIMM_3 および DIMM_4 に別のペアを装着
- ・ PC2-3200 (DDR2 400 MHz) と PC2-4200 (DDR2 533 MHz) のメモリモジュールのペアを組み合わせる場合、モジュールは取り付けられた中の一番遅いスピードで動作します。
- ・ モジュールを別のコネクタに取り付ける前に、単一メモリモジュールを DIMM コネクタ 1 (プロセッサに最も近いコネクタ) に取り付けられていることを確認してください。
- ・ メモリモジュールを取り付ける際、ECC と非 ECC メモリを混在させないでください。



A	コネクタ DIMM_1 および DIMM_2 (白色の固定クリップ) に同じメモリモジュールのペア
B	コネクタ DIMM_3 および DIMM_4 (黒色の固定クリップ) に同じメモリモジュールのペア

 **メモ:** デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証の対象になっています。

 **注意:** メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリモジュールを取り外した場合、新しいモジュールがデルから購入されたものであっても、お持ちの新しいモジュールとは区別して保管してください。できるだけ元のメモリモジュールと新しいメモリモジュールをペアにしないでください。元のメモリモジュールと新しいものをペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、コネクタ DIMM1 と DIMM2、または DIMM3 と DIMM4 にペアで装着します。

4 GB 構成のメモリアドレス指定

コンピュータは 4 つの 1 GB DIMM を使用すると、最大で 4 GB のメモリをサポートします。Microsoft® Windows XP などの現在のオペレーティングシステムでのみ最大の 4 GB のアドレススペースを利用できます。ただし、オペレーティングシステムが利用できるメモリの容量は 4 GB より若干少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによって使用されません。

以下のコンポーネントはメモリアドレススペースを必要とします。

- ・ システム ROM
- ・ APIC
- ・ 内蔵 PCI デバイス (ネットワークコネクタ、SCSI コントローラ、IEEE 1394 コントローラなど)
- ・ PCI または PCI Express デバイス / カード

システムの起動時に、BIOS はアドレススペースを必要とするコンポーネントを識別します。BIOS は予約された必要なアドレススペースの容量を動的に計算します。その後、BIOS は 4 GB から予約済みアドレススペースを減算し、利用可能なスペースの容量を確定します。

- ・ 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースより少ない場合、取り付けられたすべてのコンピュータメモリは、オペレーティングシステムによって利用可能になります。
- ・ 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースと同じか、それより大きい場合、取り付けられたコンピュータメモリの少量部分は、オペレーティングシステムが使用することができます。

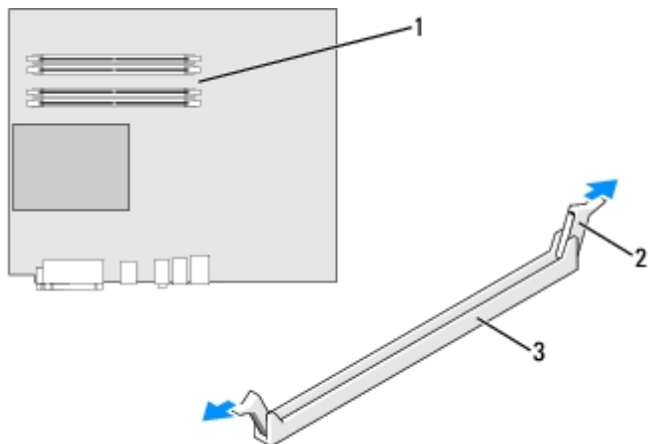
メモリの取り付け

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

注意：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

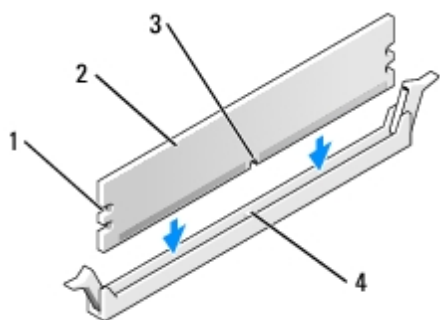
□□ 「はじめに」の手順を実行します。

□□ メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。



1	プロセッサに最も近いメモリコネクタ
2	固定クリップ (2)
3	コネクタ

□□ モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

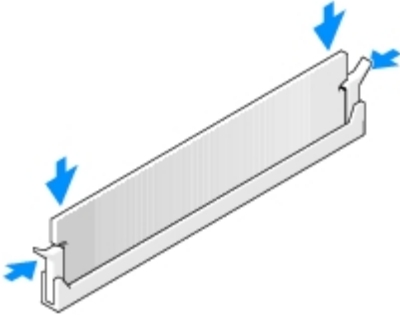


1	切り欠き (2)
2	メモリモジュール
3	切り込み
4	クロスバー

- ➡ **注意：**メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてコネクタにまっすぐ差し込むようにしてください。

□□□ カチッと所定の位置に収まるまで、モジュールをコネクタに差し込みます。

モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。



□□□ [コンピュータカバーを閉じます。](#)

- ➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□ <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、System Memory の値を確認します。

コンピュータは新しく取り付けられたメモリを認識して、System Memory の値を変更します。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、[手順 9](#) へ進みます。

□□□ メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。[コンピュータカバーを開き](#)、取り付けられたメモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、[手順 5](#)、[6](#)、および [7](#) を繰り返します。

□□□ System Memory の総メモリ容量が正しい場合、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。

□□□□ [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#) を実行して、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

メモリの取り外し

- ⚠ **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

- ➡ **注意：**コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。

□□□ メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

□□□ モジュールをつかんで引き上げます。

モジュールが取り外しにくい場合、モジュールを前後に軽く動かして緩めて、コネクタから取り外します。

[目次ページに戻る](#)

ドライブ

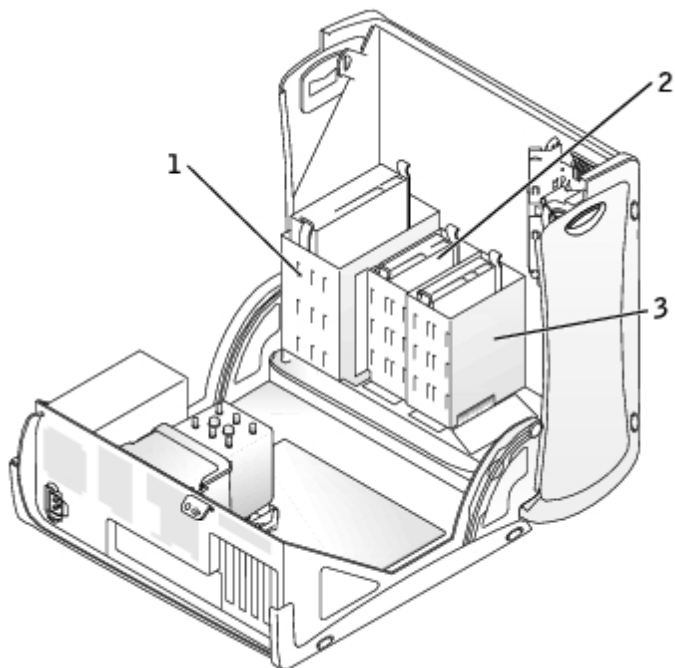
Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ハードドライブ](#)
- [ドライブベイカバー](#)
- [フロッピードライブ](#)
- [CD/DVD ドライブ](#)

概要

お使いのコンピュータは、以下のドライブをサポートします。

- ・ ハードドライブを 2 台（シリアル ATA または SCSI（オプションの SCSI コントローラを搭載））
- ・ フロッピードライブを 2 台
- ・ CD または DVD ドライブを 2 台



1	CD/DVD ドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

ハードドライブは「SATA」とラベルの付いたコネクタに接続し、CD/DVD ドライブは「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。

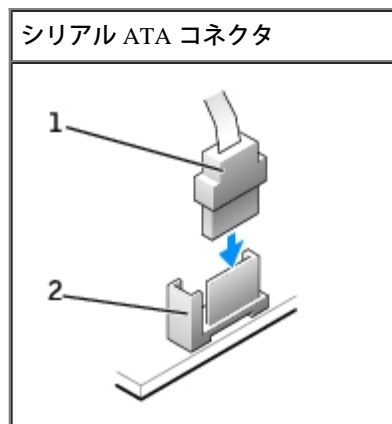
シリアル ATA ハードドライブは、システム基板上の SATA とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。IDE の CD/DVD ドライブは、IDE とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。

単一の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、cable select 設定をおこなう場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、プライマリまたは起動デバイス（ドライブ 0）となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがセカンドデバイス（ドライブ 1）となります。デバイスの cable select 設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

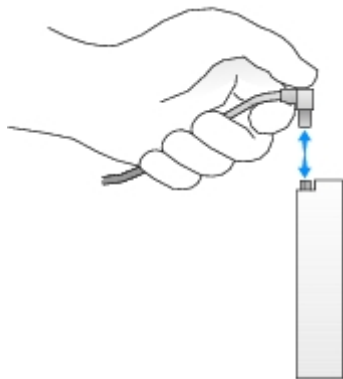
ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板上に接続します。CD/DVD ドライブにオーディオコネクタもある場合、オーディオケーブルの一方の端をドライブコネクタに取り付け、もう一方の端をシステム基板上に取り付けます。

ドライブインタフェースコネクタ




1	インタフェースケーブル
2	インタフェースコネクタ



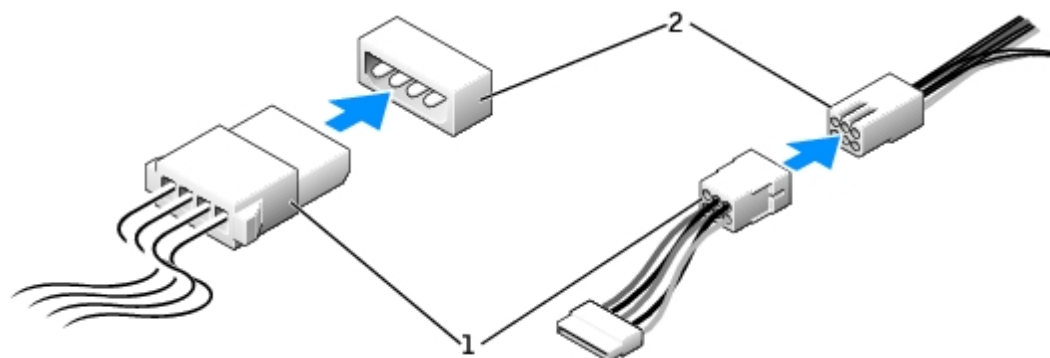
ほとんどのコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

IDE ケーブルを接続する際は、色帯をコネクタと 1 番ピンの位置を合わせてください。IDE ケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA ケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にあるコネクタを持ち、ケーブルを外します。

 **メモ：** システム基板のシリアル ATA コネクタは、カバーまたはエアフローカバーに取り付けられている場合があります。

電源ケーブルコネクタ



1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

SCSI デバイスの取り付けガイドライン

この項では、お使いのコンピュータへの SCSI デバイスの取り付けと設定方法について説明します。

SCSI ID 番号

内蔵 SCSI デバイスは、0～15 の固有の SCSI ID 番号が必要です。各 SCSI バスには、0 から 15 までの一組の SCSI ID 番号があります。

デルから SCSI デバイスが出荷される際は、デフォルトの SCSI ID 番号が次のように割り当てられています。

システム基板コントローラ		コントローラカード	
デバイス	ID	デバイス	ID
コントローラ	7	コントローラ	7
起動ハードドライブ	0	起動ハードドライブ	0
		CD または DVD ドライブ	5
		テープまたは DAT ドライブ	6

メモ： SCSI ID 番号を順番に割り当てたり、ID 番号順にデバイスをケーブルに接続する必要はありません。2 つ以上のデバイスが同じ ID を使用する場合、お使いのコンピュータは POST 中また SCSI BIOS でハングすることがあります。

デルで取り付け済みの SCSI デバイスは、製造工程で正しく設定されています。これらの SCSI デバイスに SCSI ID を設定する必要はありません。

オプションの SCSI デバイスを増設した場合、それぞれのマニュアルを参照して、適切な SCSI ID 番号を設定してください。

- ➡ **注意：** SCSI ケーブルは、デルからご購入いただいたものだけを使用されることをお勧めします。他社のケーブルは、Dell コンピュータでの動作が保証されていません。

デバイスのターミネータ

SCSI ロジックでは、SCSI チェーンの両端のデバイスでターミネータ（終端）が有効で、その間のすべてのデバイスでは無効になっている必要があります。

デルでは有効なターミネータのケーブルを使用し、すべてのデバイス上のターミネータを無効にすることをお勧めします。デバイスのターミネータを無効にする方法については、オプションの SCSI デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

一般的なガイドライン

コンピュータに SCSI デバイスを取り付ける場合、以下の一般的なガイドラインに従ってください。

- SCSI デバイスの取り付けは、基本的に他のデバイスと同じですが、設定要件は異なります。特定の SCSI サブシステムの設定については、SCSI デバイスやホストアダプタカードのマニュアルを参照してください。
- デバイスに SCSI ID 番号を設定し、必要に応じてターミネータを無効にします。
- 外付け SCSI ケーブルの片方の端を、SCSI デバイス背面のコネクタに接続します。外付け SCSI ケーブルのもう一方の端を、コンピュータに取り付けられているコントローラカードのコネクタに接続します。
- IDE ハードドライブが取り付けられていない場合、SCSI ハードドライブを取り付けた後に、[セットアップユーティリティ](#)で Primary Drive 0 および Primary Drive 1 を None に設定する必要があります。
- SCSI ハードドライブにパーティションを作成したり、フォーマットするのに、オペレーティングシステムに付属のプログラム以外のプログラムを使う必要があることがあります。適切なドライバのインストール方法と SCSI ハードドライブの使用の準備方法については、SCSI ソフトウェアドライバに付属のマニュアルを参照してください。


SCSI ケーブル


Ultra 320 ドライブ（Dell Precision 370 コンピュータではオプション）、Ultra 160/m ドライブ、および Ultra2/Wide LVD ドライブ（通常はハードドライブ）は、両方とも 68 ピンケーブルを使用します。ケーブルの一方の端を、システム基板の SCSI コネクタ、またはコンピュータに取り付けられている SCSI コントローラカードに接続します。ケーブルの残りのコネクタは、各種ドライブに取り付けます。

ナロー SCSI ドライブ（テープドライブ、CD ドライブ、およびいくつかのハードドライブなど）は、50 ピンケーブルを使用します。このケーブルの一端を SCSI コントローラカードに接続します。ケーブルの残りのコネクタは各種ナロー SCSI デバイスに接続します。

- ➡ **注意：** SCSI ケーブルは、デルからご購入いただいたものだけを使用されることをお勧めします。他社のケーブルは、Dell コンピュータでの動作が保証されていません。

ハードドライブ

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **警告：** 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

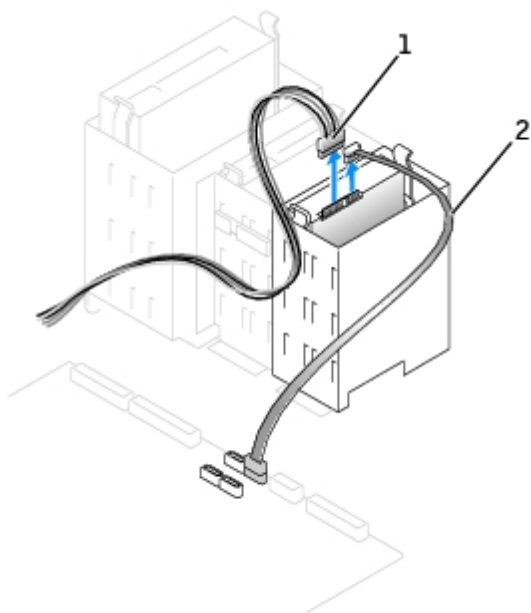
➡ **注意：** ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

□□□ 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

□□□ 「はじめに」の手順を実行します。

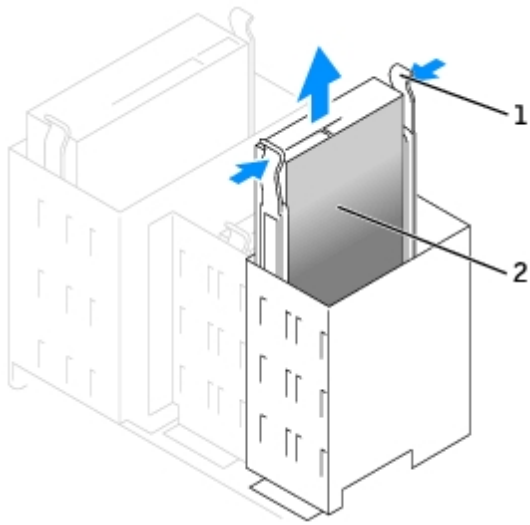
ハードドライブの取り外し

□□□ 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。



1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

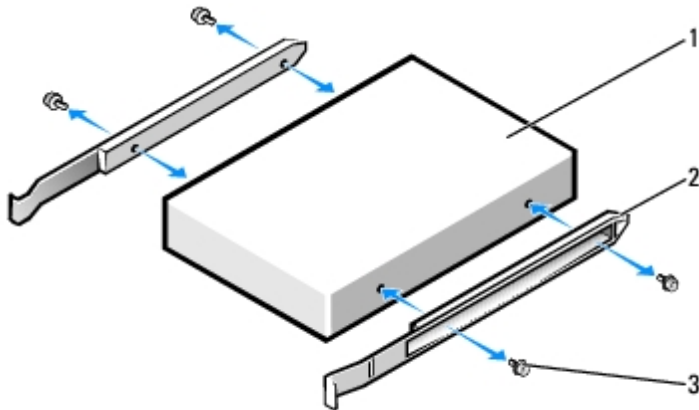
□□□ ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上へスライドして取り外します。



1	タブ (2)
2	ハードドライブ

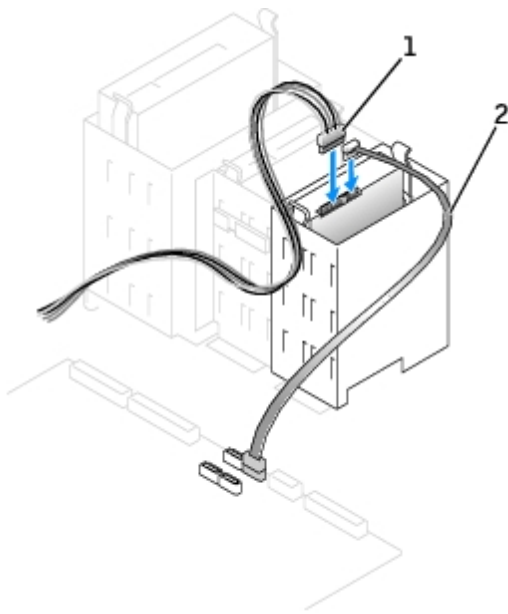
ハードドライブの取り付け

- 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
- ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。
- 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。



1	ドライブ
2	ブラケットレール (2)
3	ネジ (4)

- ハードドライブが所定の位置にカチッと収まるまで慎重に押し込んで、ハードドライブをコンピュータに取り付けます。
- 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。



1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

□□□ すべてのコネクタが正しく接続され、しっかり固定されているか確認します。

□□□ [コンピュータカバーを閉じます](#)。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

□□□ 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、起動ディスクをドライブ A に挿入します。

□□□□ コンピュータの電源を入れます。

□□□□ [セットアップユーティリティを起動して](#)、該当する Primary Drive オプション（0 または 1）をアップデートします。

□□□□ セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。

□□□□ 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

□□□□ [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行して、ハードドライブをテストします。

□□□□ 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、そのハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

2 台目のハードドライブの追加

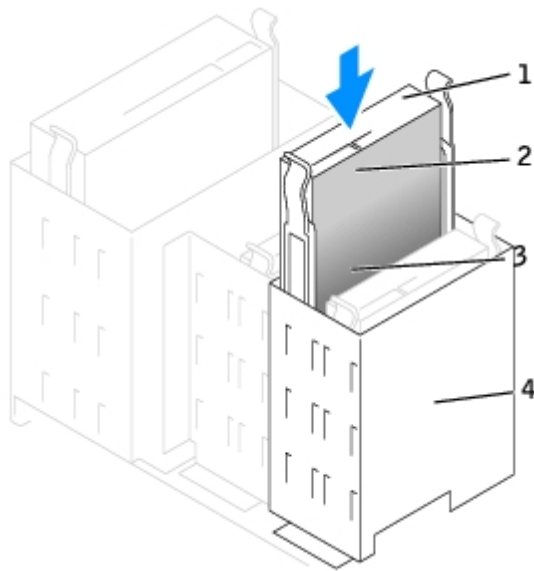
- ⚠ **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
- ⚠ **警告：**感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ➡ **注意：**ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

- ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。
- 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
- 2本のプラスチックレールをハードドライブベイから慎重に引き上げて、レールを空のベイの内側から取り外します。
- レールに付いている2本のネジを使って、レールをハードドライブに取り付けます。

レールのタブがハードドライブの背面に位置しているか確認します。

- ➡ **注意：**緑色のドライブレールをハードドライブベイの内側から取り外すまで、ドライブを下段のハードドライブベイに取り付けしないでください。

- カチッと所定の位置に収まるまで、慎重に新しいハードドライブを空のベイにスライドします。



1	レールタブ (2)
2	上段のベイの2台目のハードドライブ
3	下段のベイの1台目のハードドライブ
4	ハードドライブベイ

- 電源ケーブルをドライブに接続します。
- ハードドライブケーブルをドライブとシステム基板に接続します（「[システム基板コンポーネント](#)」を参照）。
- [コンピュータカバーを閉じます](#)。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□□ ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

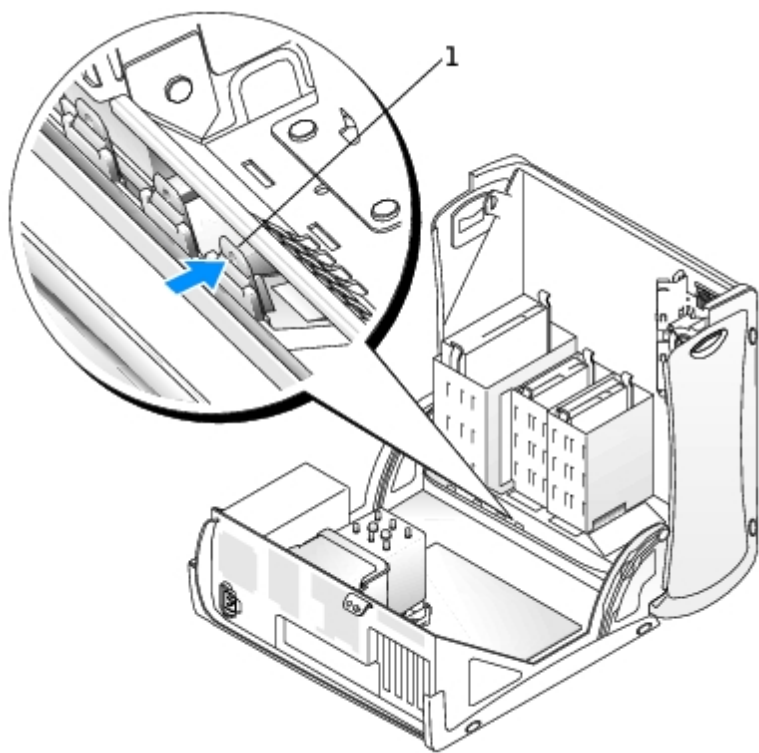
ドライブベイカバー

フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

□□□ カバーを 90 度の角度まで開きます。

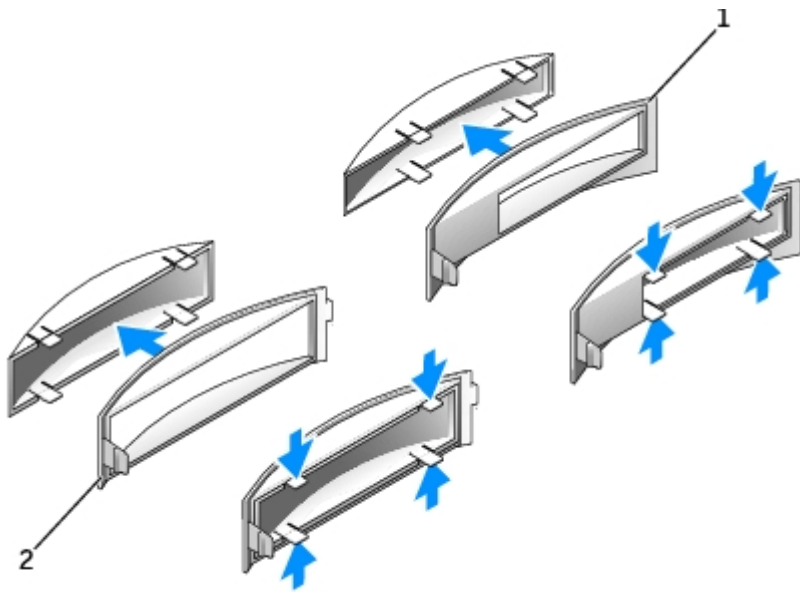
□□□ 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを探します。

□□□ コンピュータの内側から、ドライブベイカバーのリリースタブを押します。



□□□ コンピュータの外側から、コンピュータの正面パネルのドライブベイカバーを取り外します。

□□□ 4 つのタブを押してドライブベイカバーフレームからドライブベイカバーを取り外します。



1	CD/DVD ドライブベイのカバーフレーム
2	フロッピードライブベイのカバーフレーム

□□□ ドライブベイの前面の上に空のドライブベイカバーフレームを取り付けなおします。

カバーフレームは一方方向にしか取り付けられません。

□□□ コンピュータの正面を手前に向け、ドライブベイカバーの左側をドライブベイ開口部の左側に滑り込ませます。

□□□ カバー右側のリリースタブを軽く押し、カバーを慎重に押し込みます。

デルからご購入されたフロッピードライブを取り付ける場合、ドライブベイカバーはフロッピードライブキットに付属しています。ドライブベイカバーをドライブベイの前面に取り付けます。

デル以外から購入したフロッピードライブを取り付ける場合、空のドライブベイカバーのフレームをドライブベイの正面に被せて、取り付けなおします。

フロッピードライブ

⚠ 警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

⚠ 警告：感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

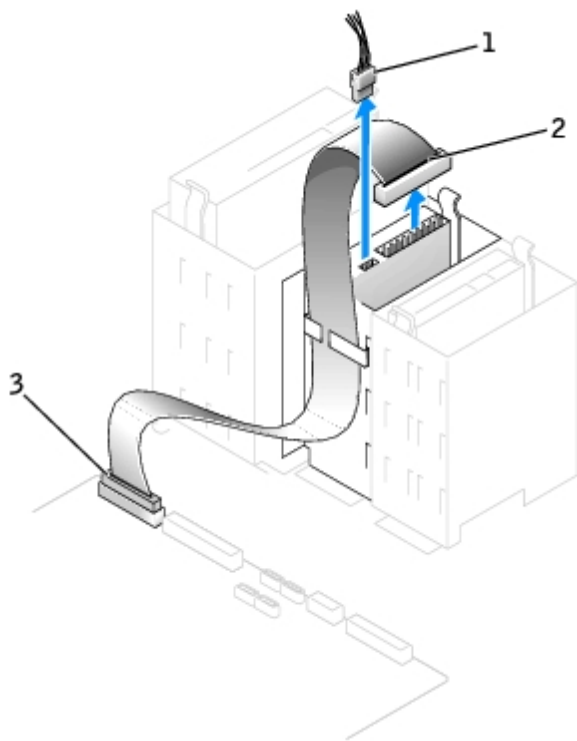
📌 メモ：フロッピードライブを取り付ける場合、「[フロッピードライブの取り付け](#)」を参照してください。

フロッピードライブの取り外し

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。

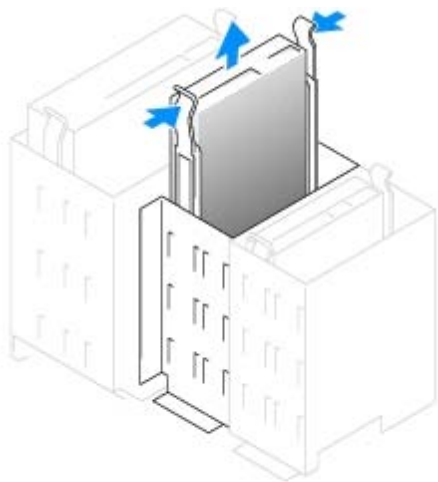
□□□ 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。

□□□ フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルの付いたコネクタから取り外します。



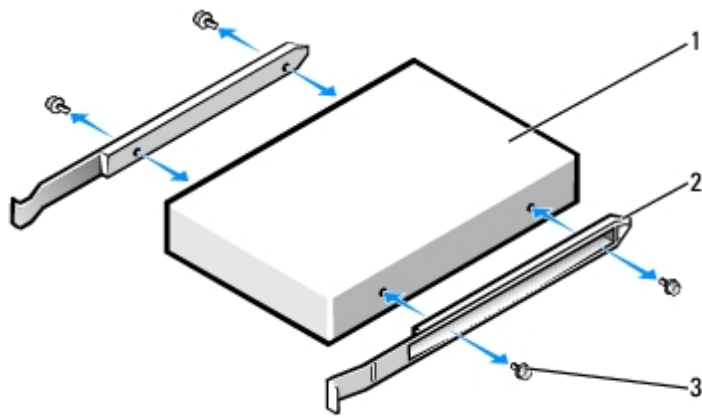
1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ (DSKT)

□□ ドライブの両側にある 2 個のタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、フロッピードライブベイから取り外します。



フロッピードライブの取り付け

□□ ブラケットレールが付いていないドライブや新しいドライブを取り付ける場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

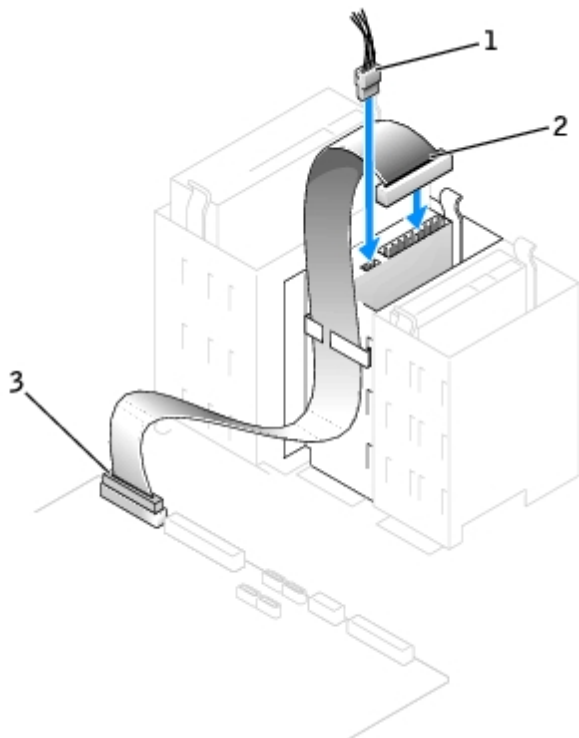


1	ドライブ
2	ブラケットレール (2)
3	ネジ (4)

□□□ タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。

□□□ 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに取り付けます。


□□□ フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「FLOPPY」とラベルの付いたコネクタに接続します。システム基板についての詳細は、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照してください。



1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル

3 フロッピードライブコネクタ (DSKT)

- フロッピードライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合、[ドライブベイカバー](#)を取り外します。
- すべてのケーブル接続を確認します。ファンや冷却孔の換気の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
- [コンピュータカバーを閉じます。](#)



 **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

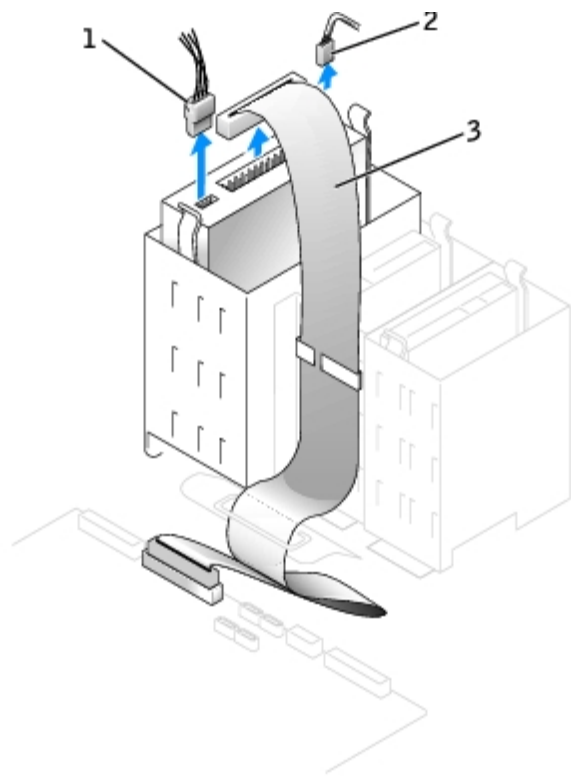
- [セットアップユーティリティを起動して](#)、該当する Diskette Drive オプションを選びます。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します。

CD/DVD ドライブ

-  **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
-  **警告：** 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

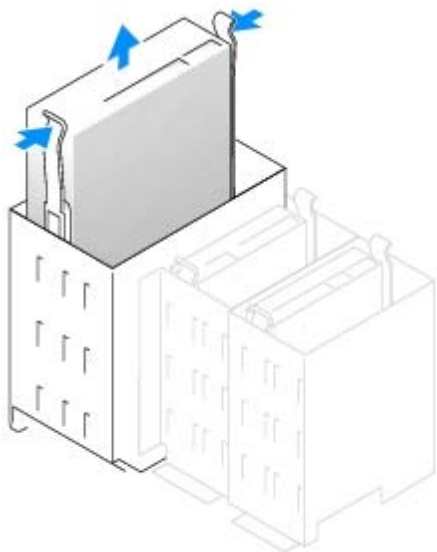
CD/DVD ドライブの取り外し

- 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
- 電源ケーブル、オーディオケーブル、および CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。



1	電源ケーブル
2	オーディオケーブル
3	CD/DVD ドライブケーブル

□□ ドライブの両側にある2つのタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドしてドライブベイから取り外します。

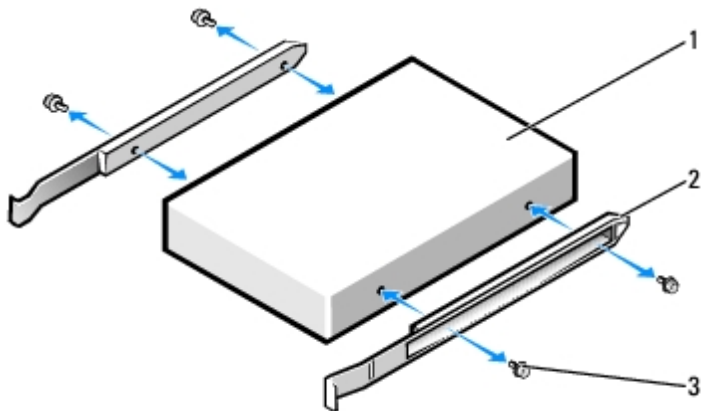


CD/DVD ドライブの取り付け

□□ 新しいドライブを取り付ける場合、ドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

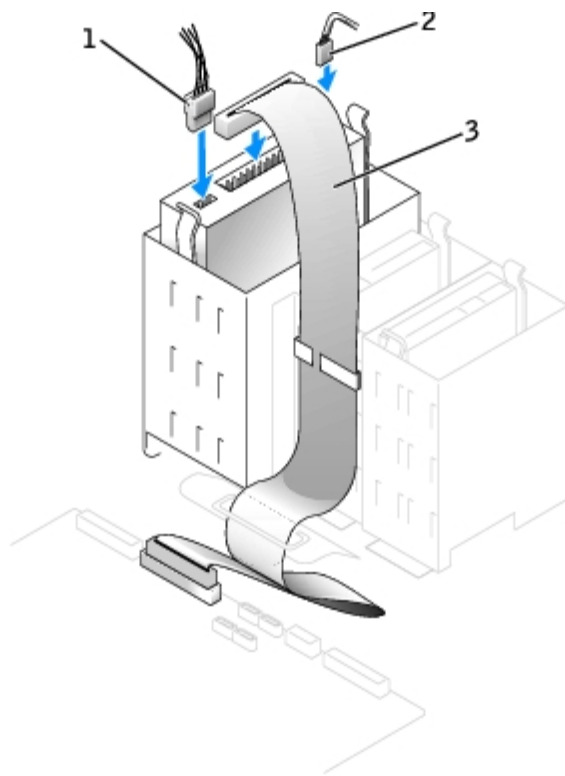
ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定します。

- 新しいドライブをカバーの内側に取り付けてあるレールに接続します。レールがカバーの内側に取り付けられていない場合、[デルにお問い合わせください](#)。
- ブラケットレールが付いていない交換用ドライブや新しいドライブを取り付ける場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。



1	ドライブ
2	ブラケットレール (2)
3	ネジ (4)

- タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。
- 電源ケーブル、オーディオケーブル、および CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。



1	電源ケーブル
2	オーディオケーブル
3	CD/DVD ドライブケーブル

□□□ CD/DVD ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合、[ドライブベイカバーを取り外します](#)。

□□□ すべてのケーブル接続を確認します。ファンや冷却孔の換気の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。

□□□ [コンピュータカバーを閉じます](#)。

👉 **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

□□□□ [セットアップユーティリティを起動して](#)、該当する Drive オプションを選びます。

□□□□ [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します。

[目次ページに戻る](#)

カード

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [PCIカード](#)
- [PCI Express カード](#)

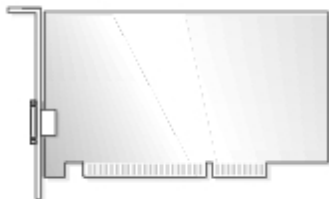
警告： 『製品情報ガイド』 の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

お使いの Dell™ コンピュータは、PCI および PCI Express カード用の以下のスロットを提供します。

- [PCI カードスロット](#) が 3 つ
- [PCI Express x16 カードスロット](#) が 1 つ
- [PCI Express x1 カードスロット](#) が 1 つ

PCI カード



カードを取り付けるか交換する場合、次項の手順に従ってください。カードを取り外したままにする場合、「[PCI カードの取り外し](#)」を参照してください。

カードを交換する場合、取り外すカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

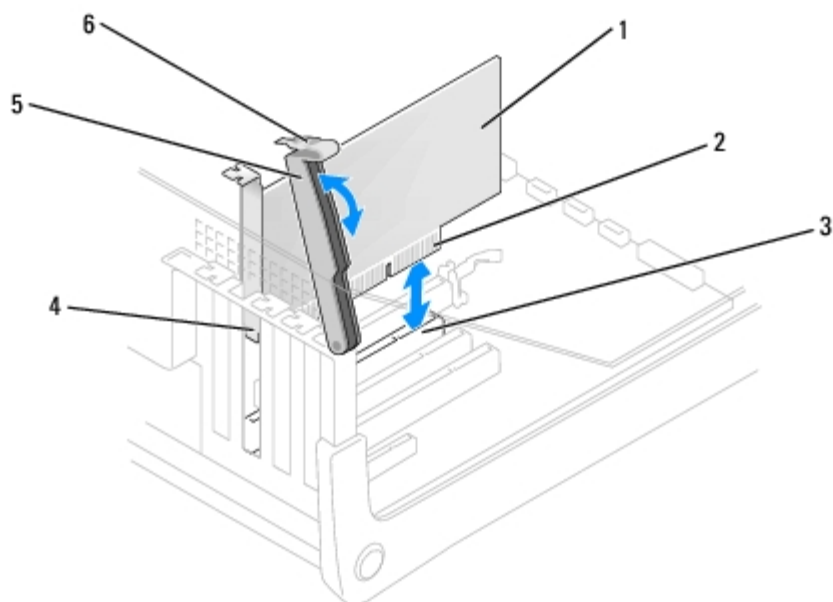
PCI Express カードを取り付けまたは取り外す場合、「[PCI Express カードの取り付け](#)」を参照してください。

PCI カードの取り付け

メモ： お使いの Dell Precision 370 デスクトップコンピュータ用に、デルではカードを I/O パネルに接続するためのケーブルを含む Audigy II および IEEE 1394 PCI アドインカード用のカスタマーキットをご用意しています。このキットを使うと、正面の IEEE 1394 コネクタを使用することができます。プラグの側面をつかんで引っ張り、コンピュータの正面からプラグを取り外す必要があります。I/O パネルへのカードケーブルの接続については、「[I/O パネル](#)」を参照してください。

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。

□□□ カード保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。



1	PCI カード	4	フィルラーブラケット
2	エッジコネクタ	5	保持アーム
3	カードコネクタ	6	レバー

□□□ 新しいカードを取り付ける場合、フィルラーブラケットを取り外してカードスロットを空にします。次に[手順5](#)に進みます。

□□□ 既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

必要に応じて、カードに接続されているケーブルを外します。次にカードの上端をつかんで、コネクタから取り外します。

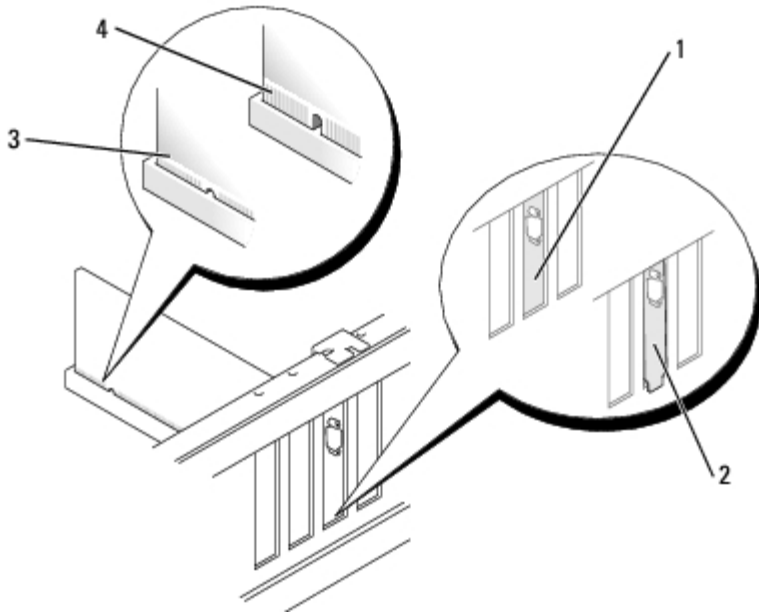
□□□ カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

⚠ 警告： ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

□□□ カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードがフルレングスの場合、カードをシステム基板のコネクタの方へ下げながら、カードの端をカードガイドブラケットに差し込みます。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

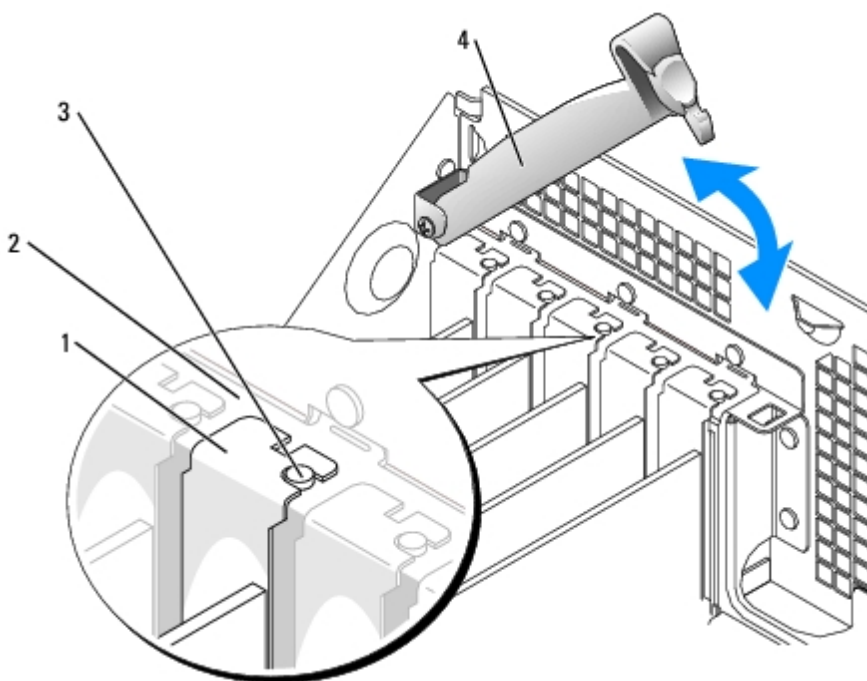


1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

□□ 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。

- ・ すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーとぴったり揃っている。
- ・ カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

□□ 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。



1	フィラーブラケット
2	位置合わせバー
3	位置合わせガイド
4	保持アーム

➡ **注意：** カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

□□□ 必要なケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□□ [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□□ サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Audio Controller を選び、設定を Off に変更します。

□□□ 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

□□□□ アドインネットワークアダプタを取り付けた場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Network Controller を選び、設定を Off に変更します。

□□□ ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

□□□□ カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。

□□□ カード保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

□□□ 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

□□□ カードの上端の角をつかみ、コネクタから取り外します。

□□□ カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合は、デルにお問い合わせください。

🔧 **メモ：** コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

□□□ 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□ カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。

□□□ サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Audio Controller を選び、設定を On に変更します。

□□□ 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

□□□□ アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

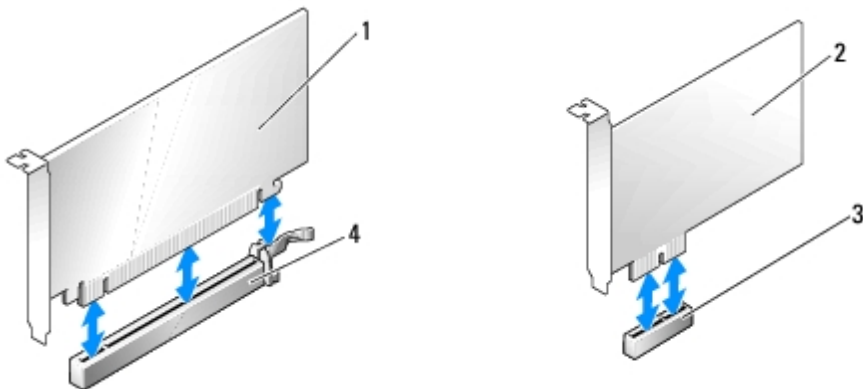
□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Network Controller を選んで、設定を On に変更します。

□□□ ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

お使いのコンピュータは、PCI Express x16 および PCI Express x1 カードをサポートします。

➡ **注意：** PCI Express グラフィックカードは、75 W 以上で動作するので、追加の冷却ファンを取り付ける必要があります。冷却ファンを取り付けないと、カードがオーバーヒートしてコンピュータに損傷を与えることがあります。お使いのコンピュータに PCI Express グラフィックカードがあり冷却ファンがない場合、デルに連絡してカードファンをご購入ください。



1	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x1 カードスロット
2	PCI Express x1 カード	4	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express カードを取り付けるか交換する場合、次項の手順に従ってください。カードを取り外したままにする場合、「[PCI Express カードの取り外し](#)」を参照してください。

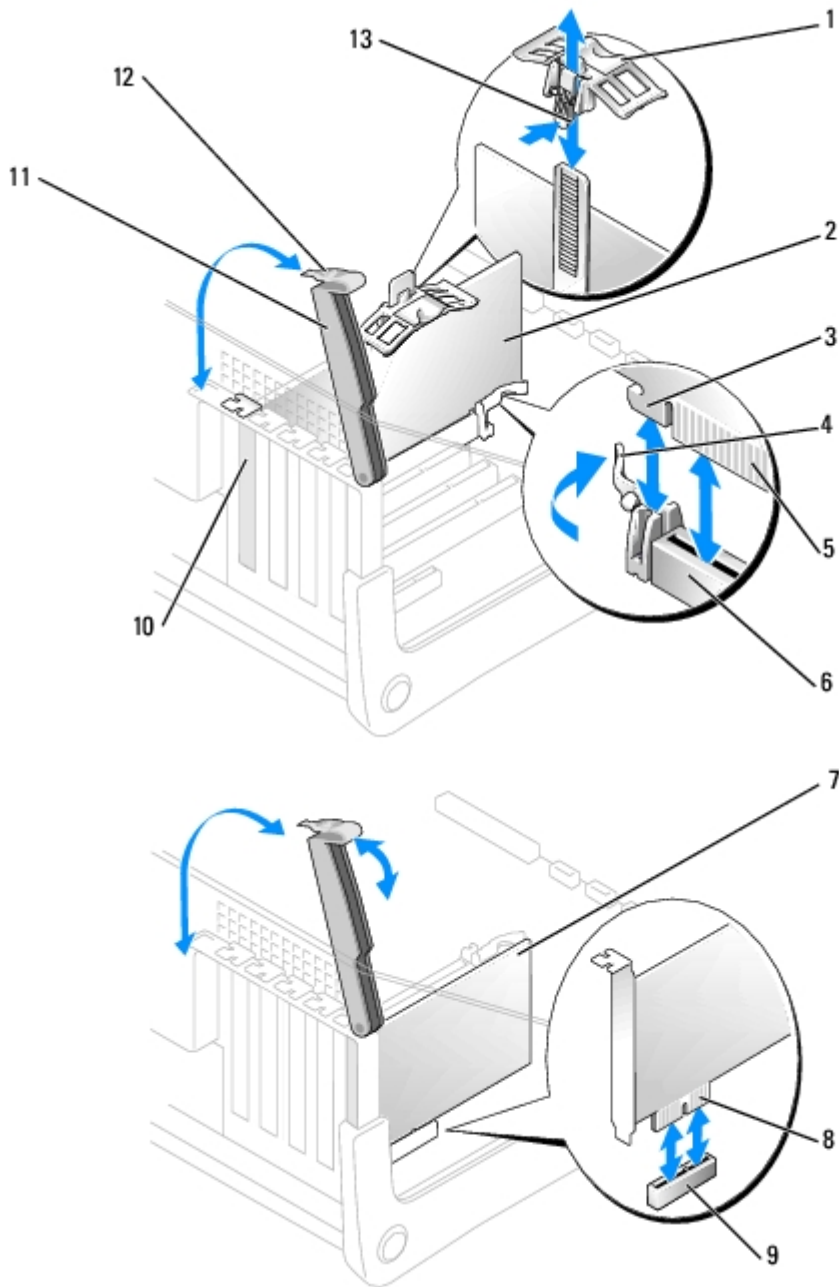
カードを交換する場合、取り外すカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードを取り付けるか交換する場合、「[PCI カードの取り付け](#)」を参照してください。

PCI Express カードの取り付け

□□□ 「はじめに」 の手順を実行します。

□□□ カード保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。



1	保持機構の上部	8	エッジコネクタ
2	PCI Express x16 カード	9	カードコネクタ
3	固定スロット	10	フィラーブラケット
4	固定タブ	11	保持アーム
5	エッジコネクタ	12	レバー
6	カードコネクタ	13	タブ
7	PCI Express x1 カード		

□□□ 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロットを空にします。次に手順5に進みます。

□□□ 既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを取り外します。カードに保持機構がある場合、タブを押して上部をひっぱり保持機構の上部を取り外します。固定タブを軽く引っ張り、カードの上端の角を両手でつかんで、コネクタから取り外します。

□□□ カードを取り付ける準備をします。

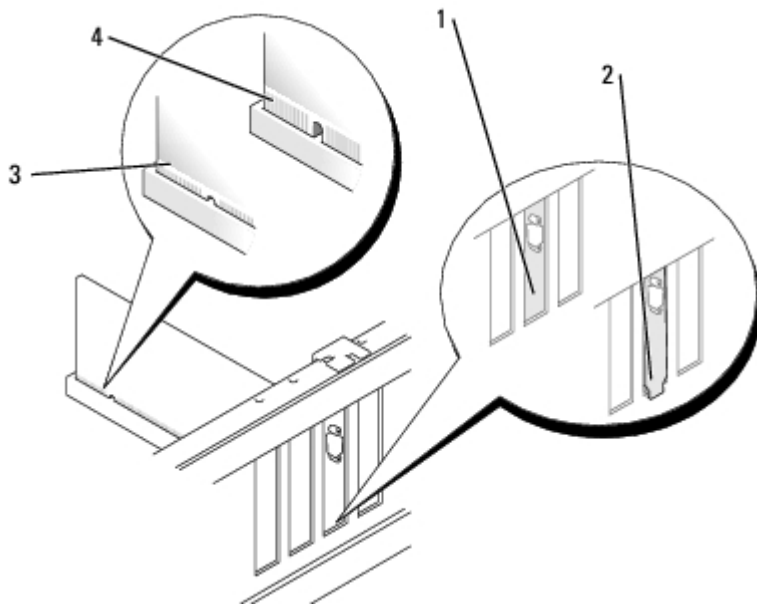
カードの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

警告： ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

□□□ カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合、固定スロットが固定タブと揃うようにカードを置き、軽く固定タブを引っ張ります。

□□□ カードをコネクタに置き、しっかりと下に押し込みます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。



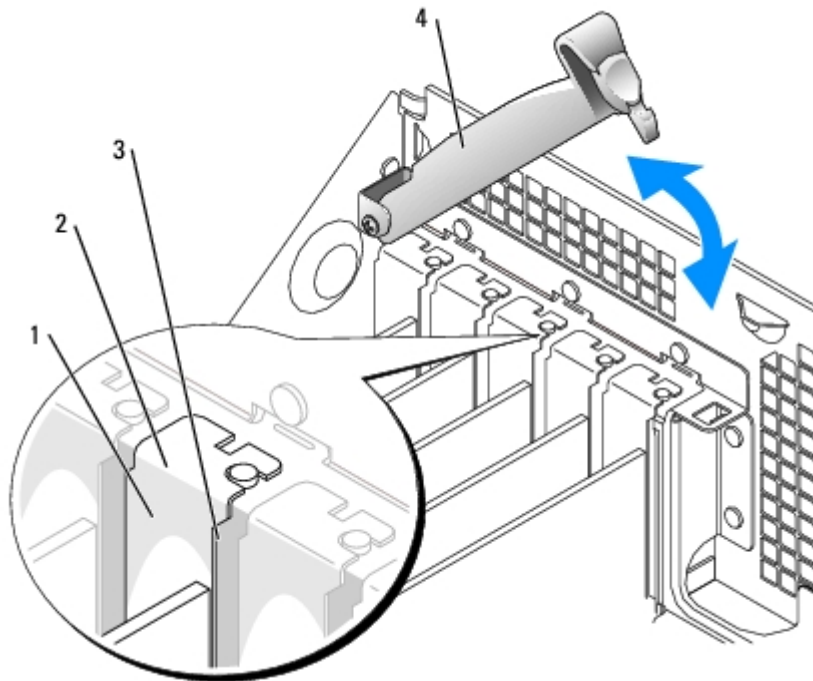
1	スロット内のブラケット
2	スロットの外側にはみ出したブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

□□□ コンピュータにすでに取り付けられているカードを交換して保持機構の上部を取り外した場合、上部を取り付けることができます。

□□□ 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーとぴったり揃っている。
- カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

□□□ 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。



1	フィラーブラケット
2	位置合わせバー
3	位置合わせガイド
4	保持アーム

➡ **注意：** カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

□□□ 最大 150 W で動作する PCI Express グラフィックカードを取り付ける場合、[カードファンを取り付けます](#)。

□□□ 必要なケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□ サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Audio Controller を選び、設定を Off に変更します。

□□□ 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

□□□ アドインネットワークアダプタを取り付けた場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Network Controller を選び、設定を Off に変更します。

□□□ ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

□□□□ カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express カードの取り外し

□□□ 「[はじめに](#)」の手順を実行します。

□□□ カード保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

□□□ 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

□□□ お使いのカードに保持機構がある場合、タブを押し、上部を引っ張り、保持機構の上部を取り外します。

□□□ 固定タブを軽く引っ張り、カードの上端の角を両手でつかんで、コネクタから取り外します。

□□□ カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、[デルにお問い合わせください](#)。



メモ： コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

□□□ 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。



注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□ カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。

□□□□ サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Audio Controller を選び、設定を Off に変更します。

□□□ 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

□□□□ アドインネットワークアダプタを取り付けた場合、次の手順を実行します。

□□□ [セットアップユーティリティを起動し](#)、Network Controller を選び、設定を Off に変更します。

□□□ ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

□□□□ カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

カードファンの取り付け

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

➡ **注意：** PCI Express グラフィックカードは、75 W 以上で動作するので、追加の冷却ファンを取り付ける必要があります。冷却ファンを取り付けないと、カードがオーバーヒートしてコンピュータに損傷を与えることがあります。

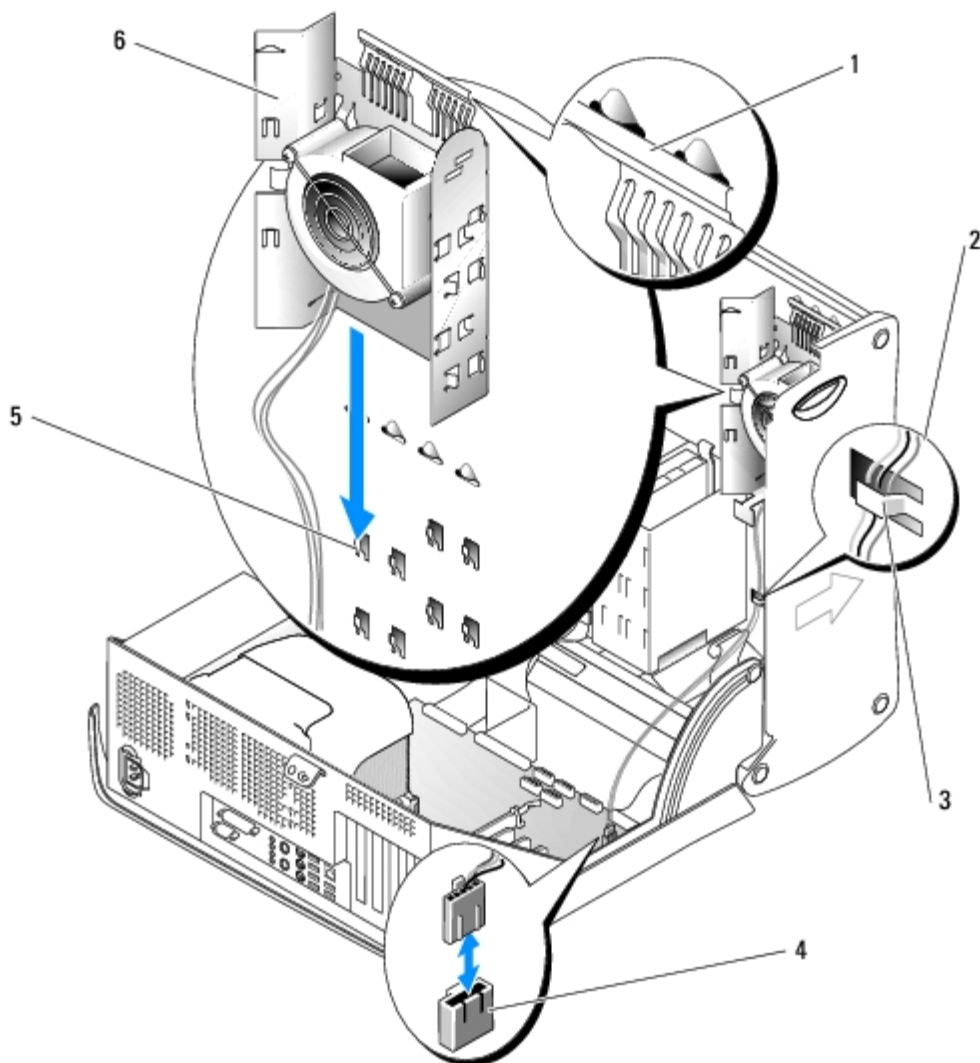
お使いのコンピュータにカードファンがなく、75 W 以上で動作するグラフィックカードを取り付ける場合、デルに問い合わせたカードファンをご購入ください。

⚠ **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

⚠ **警告：** 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

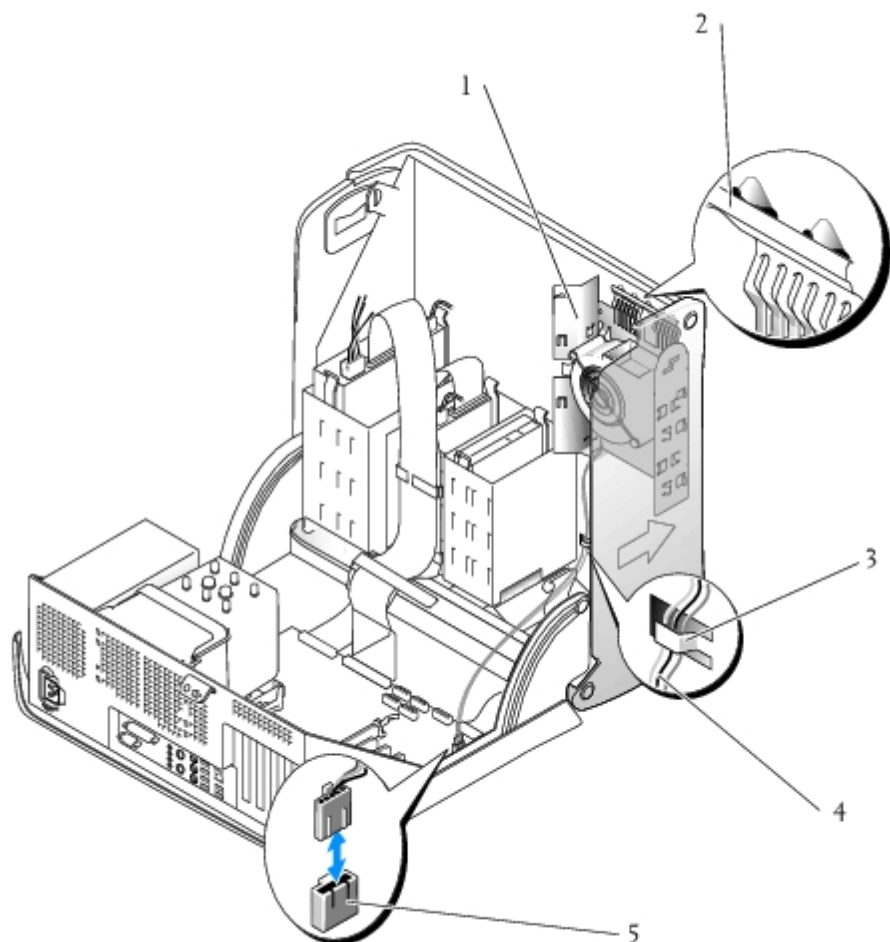
□□ 「はじめに」の手順を実行します。

□□ ドライブレールがコンピュータカバー内部に取り付けられている場合、レールを慎重に持ち上げて取り外します。



2	カードファンケーブル	5	コンピュータカバー内部のフック
3	ケーブルスロット	6	カードファンブラケット

- □ コンピュータカバー内部のフックの方にカードファンブラケットをスライドさせます。
- □ カードファンブラケット上端を、カチッと収まるまでコンピュータカバーの方へ押します。
- □ カードファンケーブルをケーブルスロットに通して配線します。



1	カードファンブラケット	4	カードファンケーブル
2	カードファンブラケットの上端	5	システム基板上のカードファンコネクタ
3	ケーブルスロット		

- □ カードファンケーブルを、システム基板上の「PCI FAN」とラベルが付いたカードファンコネクタに差し込みます。システム基板の詳細については、「[システムのコンポーネント](#)」を参照してください。
- □ [手順2](#) でドライブレールを取り外した場合、カードファンブラケットの横に収納することができます。
- □ [コンピュータカバーを閉じます](#)。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

[目次ページに戻る](#)


エアフローカバーとプロセッサ

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

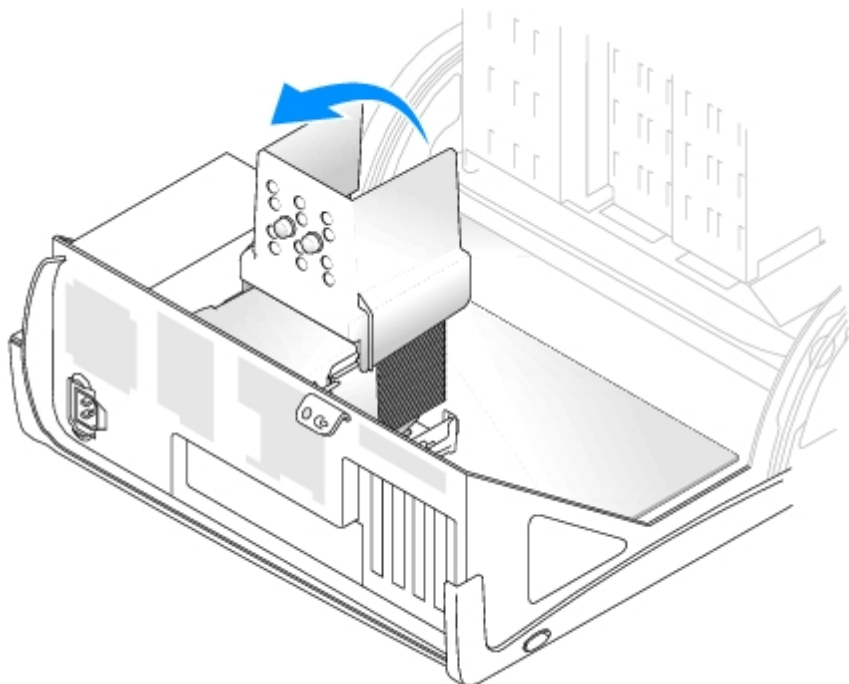
- [エアフローカバー](#)
- [プロセッサ](#)

エアフローカバー


ミニタワーコンピュータ用のエアフローカバーの取り外し

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

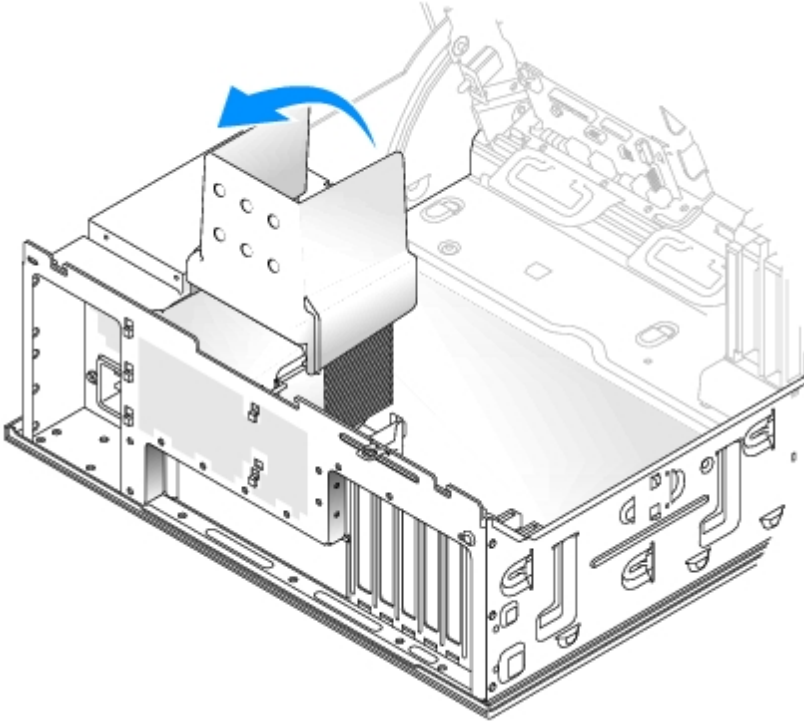
- 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
- 冷却ファンケーブルをシステム基板のファンコネクタから取り外します。
- 電源ケーブルをシステム基板上の電源コネクタから取り外します。
- エアフローカバーを持ち上げます。



デスクトップコンピュータ用のエアフローカバーの取り外し

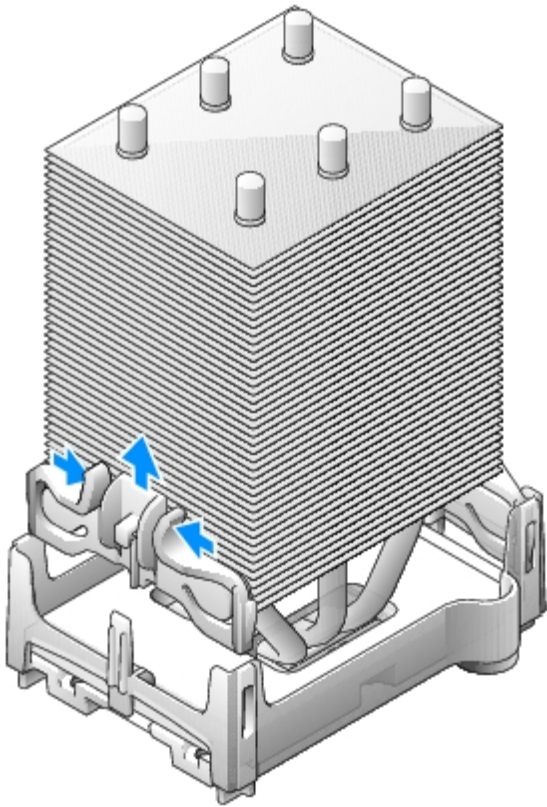
 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

- 「はじめに」 の手順を実行します。
- 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板のファンコネクタから取り外します。
- 電源ケーブルをシステム基板上の電源コネクタから取り外します。
- エアフローカバーを持ち上げます。



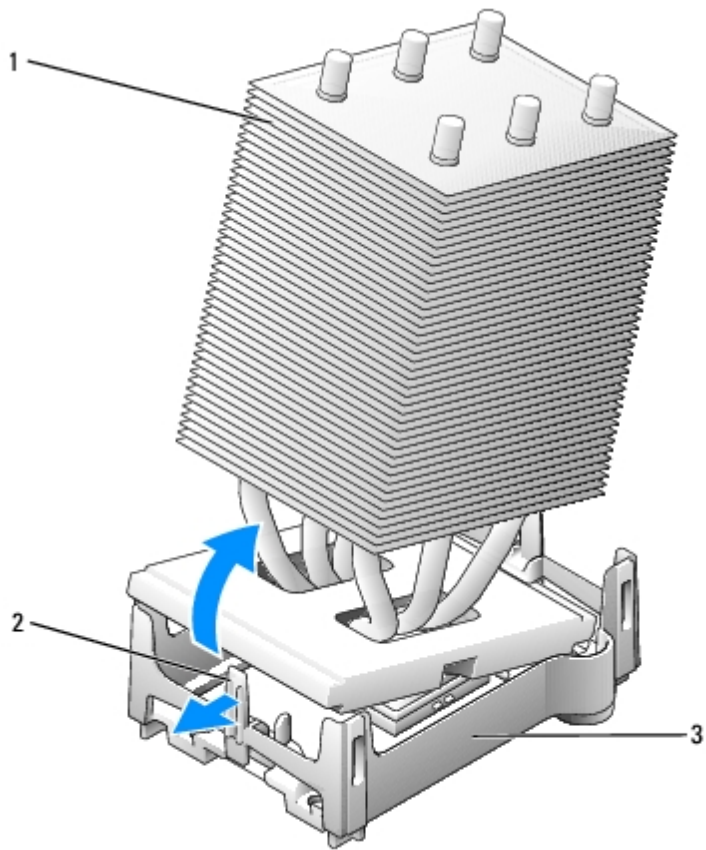
プロセッサ

- ⚠ **警告：** 『製品情報ガイド』 の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
 - ➡ **注意：** コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。
- 「はじめに」 の手順を実行します。
 - ⚠ **警告：** 通常の操作中に、ヒートシンクは非常に高温になります。ヒートシンクに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。
 - ヒートシンクを取り外します。
 - 保持モジュールのクリップを取り外します。クリップの中央に向かってタブを押して、クリップを持ち上げます。



- 保持基盤上の電源装置の反対側にあるタブの場所を確認します。ヒートシンクがポンと飛び上がるまで保持基盤タブを押します。
- ヒートシンクを引き上げながら2つ目の保持タブを押し込んで、保持基盤から取り外します。

➡ **注意：** ヒートシンク側を下に向けて置きます。ヒートシンク底部のサーマルグリスを触ったり、取り除いたりしないでください。

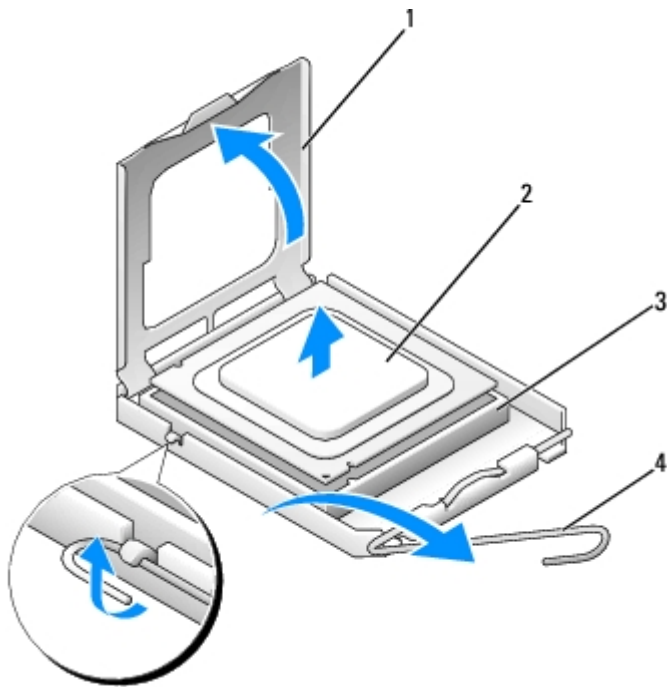


1	保持タブ
2	ヒートシンク
3	保持基盤

➡ **注意：** デルから購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクおよび送風装置を再利用してください。

□□ □□ ソケットリリースレバーを押し込んで解除します。

□□ □□ プロセッサカバーを開きます。



1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	ソケット

□□□ プロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

➡ **注意：** コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

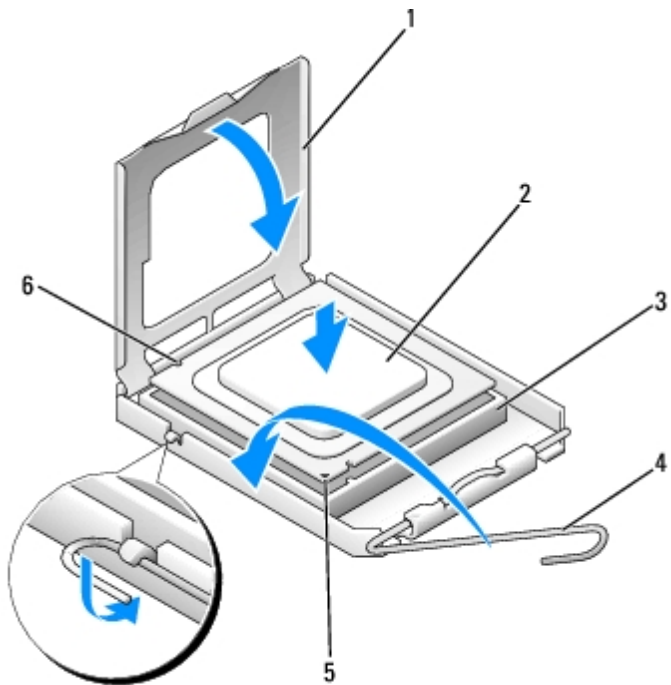
□□□ 新しいプロセッサを箱から取り出します。

➡ **注意：** コンピュータの電源を入れる際にプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

□□□ ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

□□□ プロセッサとソケットの1番ピンの角を合わせます。

➡ **注意：** 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。



1	プロセッサカバー
2	プロセッサ
3	ソケット
4	ソケットリリースレバー
5	1番ピンの角
6	ノッチ (2)

➡ **注意：** システム基板のピンに触ったり曲げたりしないように注意してください。

□□□ プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが水平になっているか確認します。プロセッサが所定の位置にセットされていれば、軽く押すと自然とソケットに収まります。

□□□ プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

□□□ ソケットリリースレバーを所定の位置にカチッと収まるまで後ろ側へ回し、プロセッサを固定します。

➡ **注意：** デル以外から購入したプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

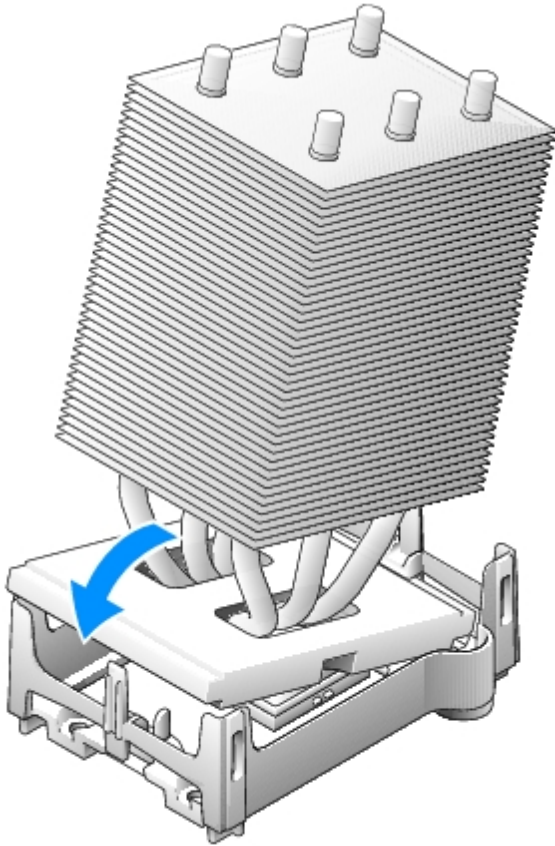
デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを、交換キットが送られてきた同じパッケージを使用してデルに返却してください。

□□□ ヒートシンクを取り付けます。

□□□ ヒートシンクの片方の端を保持タブの下にスライドします。

□□□ もう一方の保持タブを引いて、ヒートシンクが基盤に固定されるまでヒートシンクを下げます。

➡ **注意：** ヒートシンクが正しく装着され、固定されているか確認します。



- 保持モジュールのクリップを取り付けます。
- エアフローカバーをヒートシンクアセンブリに被せます。
- 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板のファンコネクタに接続します。
- 電源ケーブルをシステム基板の電源コネクタに接続します。
- [コンピュータカバーを閉じます。](#)

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。


[目次ページに戻る](#)

問題の解決とツール

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

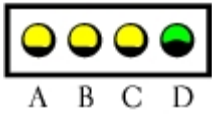


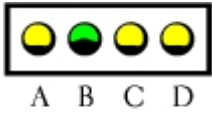
- [診断ライト](#)
- [ドライブ](#)
- [ビープコード](#)
- [Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方](#)
- [エラーメッセージ](#)
- [ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決](#)
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)
- [Microsoft® Windows® XP の再インストール](#)

診断ライト

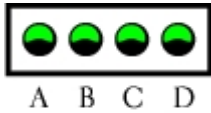
 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、ミニタワーコンピュータの背面と、デスクトップコンピュータの正面に「A」、「B」、「C」、および「D」とラベルの付いた4つのライトが搭載されています。これらのライトは、黄色または緑色です。コンピュータが正常に起動すると、ライトが点滅します。コンピュータの起動が終了したら、4つのライトすべてが緑色に点灯します。コンピュータが誤動作している場合、ライトの色や組み合わせ順によって問題を識別できます。

POST 実行中の診断ライトコード

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	BIOS の障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS 修復ユーティリティを実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待ってから、コンピュータを再起動します。
	プロセッサに障害が起こっている可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして 、コンピュータを再起動します。
	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none">□□□ メモリモジュールを装着しなおして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。□□□ コンピュータを再起動します。□□□ Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します。□□□ 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
	拡張カードの障害が発生した可能性があります。	<ul style="list-style-type: none">□□□ 拡張カード (グラフィックカードではない) を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。□□□ 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。□□□ 各カードでこの手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースコンフリクトのトラブルシューティングをおこないます (「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照)。□□□ 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
	グラフィックカードの障害が発生した可能性があります	<ul style="list-style-type: none">□□□ コンピュータにグラフィックカードを取り付けている場合、カードを取り外し、取り付けなおして、コンピュータを再起動します。

 <p>A B C D</p>	<p>す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □□□ それでも問題が解決しない場合、動作を確認済みのグラフィックカードを取り付けて、コンピュータを再起動します。 □□□ 問題が解決しない場合、またはコンピュータに内蔵グラフィックがある場合、デルにお問い合わせください。
 <p>A B C D</p>	<p>フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。</p>	<p>すべての電源ケーブルとデータケーブルを接続しなおして、コンピュータを再起動します。</p>
 <p>A B C D</p>	<p>USB の障害が発生した可能性があります。</p>	<p>すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。</p>
 <p>A B C D</p>	<p>メモリモジュールが検出されません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 取り付けしているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュール取り付けなおして、コンピュータを再起動します。 • 取り付けられているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、1 つを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしですべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 • 利用できる場合、正常に動作している同じ種類のメモリをコンピュータに取り付けます。 • 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
 <p>A B C D</p>	<p>システム基板の障害が発生しました。</p>	<p>デルに連絡して、テクニカルサポートを受けてください。</p>
 <p>A B C D</p>	<p>メモリモジュールは検出されましたが、メモリの設定または互換性エラーが発生しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件がないか確認します。 • 取り付けるメモリモジュールがコンピュータと互換性があるか確認します。 • すべてのメモリモジュールを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。 • 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
 <p>A B C D</p>	<p>システム基板リソースおよびハードウェアのどちらかまたは両方の障害が発生した可能性があります。</p>	<p>「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」の手順を実行します。</p> <p>問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。</p>
 <p>A B C D</p>	<p>拡張カードの障害が発生した可能性があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □□□ 拡張カード (グラフィックカードではない) を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。 □□□ 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 □□□ 各カードでこの手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースコンフリクトのトラブルシューティングをおこないます (「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照)。 □□□ 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
 <p>A B C D</p>	<p>その他の障害が発生しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ハードドライブ、CD ドライブ、および DVD ドライブからシステム基板へケーブルが正しく接続されているか確認します。 • 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
	<p>POST の後、コンピュータ</p>	<p>特にありません。</p>



は通常の動作状態にあります。

- = 黄色
- = 緑色
- = オフ

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。連続したビープ音には、ビープ音がまず1回鳴り、次に連続して3回鳴ってから、1回鳴るものがあります（コード 1-3-1）。このビープコードは、コンピュータがメモリの問題を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

- [Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)にビープコードを書き込みます。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行して、原因を特定します。
- デルに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

コード	原因
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM 読み書き障害
1-1-4	ROM BIOS チェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマー障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページレジスタ読み書き障害
1-3	Video Memory テスト障害
1-3-1 ~ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタ障害
3-1-2	マスター DMA レジスタ障害
3-1-3	マスター割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	Keyboard Controller テスト障害
3-3-1	NVRAM 電力損失
3-3-2	無効な NVRAM 構成
3-3-4	Video Memory テスト障害
3-4-1	画面初期化障害

3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオ ROM の検索障害
4-2-1	タイマーチックなし
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	ゲート A20 障害
4-2-4	保護モードで予測外の中断が発生
4-3-1	アドレス 0FFFFh 以上のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 の障害
4-3-4	刻時機構が停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリにコードを解凍できない
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

エラーメッセージ

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。



警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

A filename cannot contain any of the following characters: \/: *? " <> | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

A required .DLL file was not found — アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。次の操作をおこなって、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

- スタート ボタンをクリックし、コントロールパネルをクリックして、プログラムの追加と削除 をクリックします。
- 削除するプログラムを選びます。
- 削除 ボタンまたは 変更と削除 アイコンをクリックします。
- インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

Alert! CPU Fan Not Detected — 冷却ファンおよびエアフローカバーが適切に取り付けられ、動作しているか確認します。

Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [nnnn]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support — デルに問い合わせ、チェックポイントコード (nnnn) をサポート技術者にお知らせください。

Alert! Previous Fan Failures —

Alert! Previous Processor Thermal Failure —

Alert! Previous Shutdown Due to Thermal Event —

通気孔がふさがれていないか、またすべてのファンが正しく取り付けられ動作しているか確認します。また、プロセッサのヒートシンクが正しく取り付けられているか確認します。

Alert! Previous Reboot Was Due to Voltage Regulator Failure — デルに問い合わせ、テクニカルサポートを受けてください。

Alert! Previous Voltage Failure — 「[電源の問題](#)」を参照してください。

Alert! System Battery Voltage is Low — バッテリーを交換してください。「[バッテリーの交換](#)」を参照してください。

Alert! Unable to Initialize all Installed Memory —

Alert! Uncorrectable Memory Error Previously Detected... Address xxxxxxxxh, Device RIMM_Y —

「[メモリの問題](#)」を参照してください。

Attachment failed to respond — 「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Bad command or file name — コマンドのスペルが正しいか、スペースを適切な位置に置いたか、また正しいパス名を使用しているか確認します。

Bad error-correction code (ECC) on disk read — 「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Controller has failed — 「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Data error — 「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Decreasing available memory —

「[コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)」を参照してください。

Diskette drive 0 seek failure — 「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Diskette read failure —

「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Diskette subsystem reset failed — [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

Diskette write protected — 書き込み保護ノッチをオープン位置にスライドします。

Drive not ready — フロッピーディスクがドライブ内にありません。

Gate A20 failure —

「[コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)」を参照してください。

Hard-disk configuration error —

Hard-disk controller failure —

Hard-disk drive failure —

Hard-disk drive failure —

「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Insert bootable media — 起動ディスクまたは CD を挿入します。

Invalid configuration information - please run SETUP program — [セットアップユーティリティ](#)を起動して、コンピュータの構成の情報を正しく設定します。

Keyboard failure — 「[キーボードの問題](#)」を参照してください。

Memory address line failure at address, read value expecting value — 「[コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)」を参照してください。

Memory allocation error

- コンピュータの電源を切り、30 秒待ってからコンピュータを再起動します。
- 再度プログラムを実行してみます。
- 再度エラーメッセージが表示される場合、追加のトラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

Memory data line failure at address, read value expecting value —

Memory double word logic failure at address, read value expecting value —

Memory odd/even logic failure at address, read value expecting value —

Memory write/read failure at address, read value expecting value —

Memory size in CMOS invalid —

「[コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)」を参照してください。

No boot device available —

- フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動ディスクがドライブに挿入されているか確認します。
- ハードドライブが起動デバイスの場合、ケーブルとドライブが適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されていることを確認します。
- [セットアップユーティリティを起動して](#)、起動順序の情報が正しいことを確認します。

No boot sector on hard-disk drive — [セットアップユーティリティを起動して](#)、コンピュータのハードドライブ構成情報が正しいか確認します。

セットアップユーティリティの情報が正しいことを確認した後もメッセージが表示される場合、再インストールの情報については、お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

No timer tick interrupt — [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

Non-system disk or disk error — 起動可能なオペレーティングシステムが入ったフロッピーディスクと交換するか、フロッピーディスクをドライブ A から取り出して、コンピュータを再起動します。

Not a boot diskette — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

Not enough memory or resources. Close some programs and try again — すべてのウィンドウを閉じて、使用するプログラムを開きません。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。

Operating system not found — デルにお問い合わせください。

Please Connect USB Keyboard/Mouse to USB Ports on the Back of the Computer — コンピュータの電源を切り、USB キーボード/マウスをコンピュータ背面の USB コネクタに接続して、コンピュータを再起動します。

Plug and Play Configuration Error

- コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを 1 枚だけ残してすべて取り外します。
- コンピュータのプラグを差し込み、再起動します。
- メッセージが再度表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを 1 枚挿入します。
- 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。

Read fault —

Requested sector not found —

Reset failed —

「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Sector not found

- Windowsのエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。
- 多くのセクターに障害がある場合、可能であればデータをバックアップして、フロッピーディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。

Seek error — 「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

Shutdown failure — [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

Time-of-day clock stopped —

Time-of-day not set — [セットアップユーティリティを起動して](#)、日付または時間を正しく設定します。問題が解決しない場合、バッテリーを交換します。「[バッテリーの交換](#)」を参照してください。

Timer chip counter 2 failed — [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

Unexpected interrupt in protected mode — [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

WARNING: Dell's Disk Monitoring System has detected that drive [0/1] on the [primary/secondary] IDE controller is operating outside of normal specifications. It is advisable to immediately back up your data and replace your hard drive by calling your support desk or Dell —

すぐに利用できる交換用のドライブがなく、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、[セットアップユーティリティ](#)を起動して、該当するドライブの設定を None に変更します。次に、ドライブをコンピュータから取り外します。


Write fault —

Write fault on selected drive —

「[ドライブの問題](#)」を参照してください。

<ドライブ文字>:\ is not accessible. The device is not ready — フロッピードライブがディスクからのデータを読み取れません。フロッピーディスクをドライブに挿入し、再度試してみます。


Dell Diagnostics (診断) プログラム

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

Dell Diagnostics (診断) プログラムを使用するとき

コンピュータに問題が発生した場合、デルテクニカルサポートにお問い合わせになる前に、「[問題の解決](#)」にあるチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行してください。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。


 **注意：** Dell Diagnostics (診断) プログラムは、Dell™ コンピュータ専用です。

[セットアップユーティリティを起動し](#)、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

[ハードドライブ](#)または『[Drivers and Utilities CD](#)』（『ResourceCD』とも呼ばれます）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

ハードドライブからの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

- コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

 **メモ：** Diagnostics（診断）プログラムユーティリティパーティションが検出されませんというメッセージが表示された場合、[Dell Diagnostics（診断）プログラム](#)を『Drivers and Utilities CD』から実行します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、[コンピュータをシャットダウンして](#)、再度試みます。


- 起動デバイスの一覧が表示されたら、Boot to Utility Partition をハイライト表示して、<Enter> を押します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムの Main Menu が表示されたら、[実行するテストを選びます](#)。

Drivers and Utilities CD からの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

- 『Drivers and Utilities CD』を挿入します。
- [コンピュータをシャットダウンします](#)。

DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、[コンピュータをシャットダウンして](#)、再度試みます。

 **メモ：** 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

- 起動デバイスの一覧が表示されたら、IDE CD-ROM Device をハイライト表示して、<Enter> を押します。
- CD の起動メニューから IDE CD-ROM Device オプションを選びます。
- 表示されたメニューから Boot from CD-ROM オプションを選びます。
- 1 と入力して ResourceCD メニューを起動します。
- 2 と入力して Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。
- 番号の付いた一覧から Run the 32 Bit Dell Diagnostics を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのコンピュータに該当するバージョンを選びます。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムの Main Menu が表示されたら、[実行するテストを選びます](#)。


Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

- Dell Diagnostics（診断）プログラムがロードされ Main Menu 画面が表示されたら、希望のオプション用のボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは10～20分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題をさらにすばやく特定することができます。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは1時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

- テスト中に問題を検出すると、エラーコードと問題の説明を示すメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

エラーが解決できない場合、[デルにお問い合わせください](#)。

-  **メモ:** お使いのコンピュータのサービスタグは、各テスト画面の一番上にあります。デルにお問い合わせになると、テクニカルサポートの担当者はおお客様のサービスタグを確認します。

- Custom Test または Symptom Tree オプションからテストを実行する場合、該当するタブをクリックします（詳細については、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	発生したエラーの状態、エラーコード、および問題の説明を表示します。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更してテストをカスタマイズすることができます。

- 『Drivers and Utilities CD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行している場合、テストが終了したら CD を取り出します。
- テスト画面を閉じ、Main Menu 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了してコンピュータを再起動するには、Main Menu 画面を閉じます。


ドライバ

ドライバとは?

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、出荷時に必要なドライバがプリインストールされていますので、新たにインストールしたり設定する必要はありません。

 **注意：**『Drivers and Utilities CD』には、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバが収録されている場合もあります。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、多くのドライバは Microsoft® Windows® オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合に、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Windows XP

- スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。
- 作業する分野を選びます で、パフォーマンスとメンテナンス をクリックします。
- システム をクリックします。
- システムのプロパティ ウィンドウで、ハードウェア タブをクリックします。
- デバイスマネージャ をクリックします。
- 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符（ [!] の付いた黄色い丸） が付いているものがないかを確認します。

デバイス名の横に感嘆符がある場合、[ドライバの再インストール](#)または新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

Windows 2000

- スタート ボタンをクリックし、設定 をポイントして、コントロールパネル をクリックします。
- システム をダブルクリックします。
- システムのプロパティ ウィンドウで、ハードウェア タブをクリックします。
- デバイスマネージャ をクリックします。
- 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符（ [!] の付いた黄色い丸） が付いているものがないかを確認します。

デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

ドライバおよびユーティリティの再インストール

- ➡ **注意：** デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com および 『Drivers and Utilities CD』 で、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールすると、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

- スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。
- 作業する分野を選びます で、パフォーマンスとメンテナンス をクリックします。
- システム をクリックします。
- システムのプロパティ ウィンドウで、ハードウェア タブをクリックします。
- デバイスマネージャ をクリックします。
- 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、プロパティ をクリックします。
- ドライバタブをクリックします。
- ドライバのロールバック をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、システムの復元を使用して、オペレーティングシステムを新しいドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

Drivers and Utilities CD の使い方

デバイスドライバのロールバックまたは[システムの復元](#)で問題を解決できない場合、『Drivers and Utilities CD』（『Resource CD』とも呼ばれます）からドライバを再インストールします。

Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方


ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合、Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

- ➡ **注意：** データファイルの定期的なバックアップをおこなってください。システムの復元は、データファイルを監視したり、データファイルを復元することはできません。

復元ポイントの作成

- スタート ボタンをクリックして、ヘルプとサポート をクリックします。
- システムの復元 をクリックします。
- 画面の指示に従います。

コンピュータの以前の動作状態への復元

 **注意：** お使いのコンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

- スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム → アクセサリ → システムツールの順にポイントして、システムの復元 をクリックします。
- コンピュータを以前の状態に復元する が選択されていることを確認してから、次へ をクリックします。
- コンピュータを以前の状態に復元する時点の日付をクリックします。

復元ポイントの選択 画面に、復元ポイントを確認して選択できるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

- 復元ポイントを選んで、次へ をクリックします。

日付の中に復元ポイントが1つしかない場合、その復元ポイントが自動的に選択されます。2つ以上の復元ポイントが利用可能な場合、希望の復元ポイントをクリックします。


- 次へ をクリックします。

システムの復元がデータの収集を完了したら、復元は完了しました 画面が表示され、コンピュータは自動的に再起動します。

- コンピュータが再起動したら、OK をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元の取り消し

 **注意：** 最後におこなったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

- スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール とポイントしてから、システムの復元 をクリックします。
- 以前の復元を取り消す をクリックして、次へ をクリックします。
- 次へ をクリックします。

システムの復元 画面が表示され、コンピュータが再起動します。

□□□ コンピュータが再起動したら、OK をクリックします。

システムの復元の有効化

空き容量が 200 MB以下のハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

□□□ スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。

□□□ パフォーマンスとメンテナンス をクリックします。

□□□ システム をクリックします。

□□□ システムの復元 タブをクリックします。

□□□ すべてのドライブでシステムの復元を無効にする にチェックマークが付いていないことを確認します。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

オペレーティングシステムのセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違っ設定されている場合、ハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。Microsoft® Windows® 2000 オペレーティングシステムでは、デバイスマネージャを使用して、非互換性を解決します。

Windows 2000

デバイスマネージャを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

□□□ スタート ボタンをクリックし、設定 をポイントして、コントロールパネル をクリックします。

□□□ コントロールパネル ウィンドウで、システム をダブルクリックします。

□□□ ハードウェア タブをクリックします。

□□□ デバイスマネージャ をクリックします。

□□□ 表示 をクリックして、リソース (接続別) をクリックします。

□□□ 割り込み要求 (IRQ) をダブルクリックします。

間違っ設定されているデバイスの横には黄色の感嘆符 (!) が付いているので、コンフリクトが確認できます。赤色の x 印が付いている場合は、デバイスが無効になっています。

□□□ 感嘆符が付いているデバイスをダブルクリックして、プロパティ ウィンドウを開きます。

プロパティ ウィンドウの デバイスの状態 領域に、再設定が必要なカードまたはデバイスが表示されます。

- デバイスを設定しなおすか、デバイスマネージャから削除します。デバイスの設定については、デバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

- スタート ボタンをクリックして、ヘルプ をクリックします。
- 目次 タブでトラブルシューティングと保守 をクリックし、Windows 2000 に関するトラブルシューティング をクリックして、ハードウェア をクリックします。
- ハードウェアに関するトラブルシューティング 一覧で、コンピュータにあるハードウェアの競合を解決する必要があります。 をクリックして、次へ をクリックします。

Microsoft® Windows® XP の再インストール

- ➡ **注意：** Windows XP を再インストールする際は、Windows XP SP 1 以降を使用する必要があります。

はじめに

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP オペレーティングシステムを再インストールする場合、まず最初に Windows XP の [デバイスドライバのロールバック](#) を使います。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合、[システムの復元](#) を使用して、オペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムの再インストール中の深刻なセットアップの問題を防ぐため、お使いのコンピュータに付属している『ResourceCD』からデバイスドライバを再インストールする必要があります。

- ➡ **注意：** デバイスドライバと Windows XP オペレーティングシステムを再インストールする前に、プライマリハードドライブ上のすべてのデータファイルをバックアップしてください。標準的なハードドライブ構成において、プライマリハードドライブはコンピュータによって認識される最初のドライブです。

ドライバおよび Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- 空のフロッピーディスクが 1 枚
- Dell 『オペレーティングシステム CD』
- Dell 『Drivers and Utilities CD』

- 📎 **メモ：** 『Drivers and Utilities CD』には、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。『Drivers and Utilities CD』を使って、必要な追加のドライバをロードします。お使いのコンピュータに RAID コントローラがある場合は、そのドライバもロードします。

Intel SATA ドライバフロッピーディスクの作成

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 『ResourceCD』を挿入します。
- コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

- 上下矢印キーを使って、メニューから IDE CD ドライブを選ぶか、または関連するメニューオプション番号を入力します。
- 『ResourceCD』 を使ってシステムを起動した後、Create a SATA RAID driver diskette メニューオプションに関連する番号を選びます。
- 画面の指示に従ってフロッピーディスクを作成します。
- フロッピーディスクを作成し終わったら、DOS を終了します。
- 『ResourceCD』 を挿入します。
- フロッピーディスクを取り出します。

Intel SATA Drivers とラベルを付けます。

- コンピュータを再起動します。

Windows XP の再インストール

Windows XP を再インストールするには、次項で記載されている手順を順番通りに実行します。

再インストール処理を完了するには、1～2時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、追加のデバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

- ➡ **注意：** 『オペレーティングシステム CD』 は、Windows XP の再インストール用のオプションを提供します。このオプションはファイルを上書きして、ハードドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows XP を再インストールしないでください。
- ➡ **注意：** Windows XP とのコンフリクトを防ぐため、コンピュータにインストールされているアンチウイルスソフトウェアを無効にしてから Windows XP を再インストールしてください。手順については、ソフトウェアに付属しているマニュアルを参照してください。

オペレーティングシステム CD からの起動

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 『オペレーティングシステム CD』 を挿入します。Install Windows XP というメッセージが表示された場合、終了 をクリックします。
- コンピュータを再起動します。
- DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。


- 矢印キーを使って CD-ROM を選び、<Enter> を押します。
- Press any key to boot from CD というメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

Intel SATA ドライバフロッピーディスクを使用した SATA RAID ドライバの再インストール

- 画面下部に以下のプロンプトが表示されたら、<F6> を押します。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...

- プロンプトで、s と入力して、Specify Additional Device を選びます。

 **メモ：** お使いのシステムがインストールするドライブを検出できない場合、[手順3](#)に戻って再度試みます。各手順に従っているか確認してください。

- プロンプトで、作成した「Intel SATA ドライバ」フロッピーディスクを挿入して、<Enter> を押します。

- Intel(R)82801ER SATA RAID Controller をハイライト表示して、<Enter> を押します。

- <Enter> を再度押して続行します。

- 「Intel SATA ドライバ」フロッピーディスクは、コンピュータに入れたままにします。

Windows XP のセットアップ

- セットアップの開始画面が表示されたら、<Enter> を押して続行します。


- Microsoft Windows ライセンス契約画面の内容を読み、<F8> を押して、使用許諾契約書に同意します。


- お使いのコンピュータにすでに Windows XP がインストールされていて、現在の Windows XP データを復元したい場合、r と入力して修復オプションを選び、CD を取り出します。

- 新たに Windows XP をインストールする場合、<Esc> を押してオプションを選択します。

- <Enter> を押してハイライト表示されたパーティションを選び（推奨）、画面の指示に従います。

Windows XP セットアップ画面が表示され、オペレーティングシステムは、ファイルのコピーおよびデバイスのインストールを開始します。コンピュータは自動的に数回再起動します。

 **メモ：** ハードドライブの容量やコンピュータの速度によって、セットアップに要する時間は変わります。

 **注意：** Press any key to boot from the CD. というメッセージが表示されますが、どのキーも押さないでください。

- 地域と言語のオプション画面が表示されたら、お住まいの地域の設定を選択して、次へをクリックします。

- ソフトウェアの個人用設定画面で、お名前と会社名（オプション）を入力して、次へをクリックします。

- コンピュータ名と Administrator ウィンドウでコンピュータ名（または記載の名前を承認）およびパスワードを入力して、次へをクリックします。

- モデムのダイヤル情報画面が表示された場合、必要な情報を入力して、次へをクリックします。


- 日付と時間の設定ウィンドウに日付と時間を入力して、次へをクリックします。

- ネットワークの設定画面が表示された場合、標準設定をクリックして、次へをクリックします。

- Windows XP Professional を再インストールしている場合、ネットワーク設定に関する情報を求められるので、該当するものを選びます。

設定がわからない場合、デフォルトの選択肢を選びます。

Windows XP は、オペレーティングシステムのコンポーネントをインストールして、コンピュータを設定します。コンピュータが自動的に再起動します。

 **注意：** Press any key to boot from the CD. というメッセージが表示されますが、どのキーも押さないでください。

□□□□ Microsoft Windows へようこそ 画面が表示されたら、次へ をクリックします。


□□□□ インターネットに接続する方法を指定してください というメッセージが表示されたら、省略 をクリックします。

□□□□ Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？ 画面が表示されたら、いいえ、今回はユーザー登録しません を選び、次へ をクリックします。

□□□□ このコンピュータを使うユーザーを指定してください 画面が表示されたら、5名までユーザーを入力できます。

□□□□ 次へ をクリックします。


□□□□ 完了 をクリックし、セットアップを完了して、CD を取り出します。

 **メモ：** Windows のセットアップが完了したら、「Intel SATA ドライバ」 フロッピーディスクを取り出して、安全な場所に保管します。

□□□□ 『Drivers and Utilities CD』 を使って、適切なドライバを再インストールします。

□□□□ アンチウイルスソフトウェアを再インストールします。

□□□□ 使用するプログラムを再インストールします。

 **メモ：** Microsoft Office または Microsoft Works Suite プログラムを再インストールして有効にするには、Microsoft Office または Microsoft Works Suite の CD ケースの裏面にある Product Key (プロダクトキー) ナンバーが必要です。

[目次ページに戻る](#)

問題の解決

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド ユーザーズガイド

- [トラブルシューティングのヒント](#)
- [メモリの問題](#)
- [バッテリーの問題](#)
- [マウスの問題](#)
- [カードの問題](#)
- [ネットワークの問題](#)
- [カードファンの問題](#)
- [電源の問題](#)
- [ドライブの問題](#)
- [プリンタの問題](#)
- [Eメール、モデム、およびインターネットの問題](#)
- [シリアルまたはパラレルデバイスの問題](#)
- [IEEE 1394 デバイスの問題](#)
- [サウンドとスピーカーの問題](#)
- [キーボードの問題](#)
- [ビデオとモニターの問題](#)
- [コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)



トラブルシューティングのヒント

コンピュータのトラブルシューティングを実行する際は、以下のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合、取り付け手順を参照して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺機器が機能しない場合、デバイスが適切に接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、テクニカルサポート担当者が問題を診断して修復するのに役立ちます。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合、プログラムのマニュアルを参照してください。

バッテリーの問題


以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

-  **警告：** 新しいバッテリーは、間違って装着すると破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。
-  **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

バッテリーを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合、バッテリーを交換します。「バッテリーの交換」を参照してください。それでもバッテリーが正常に機能しない場合、[デルにお問い合わせください](#)。

カードの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

カードの装着状態およびケーブルを確認します

- コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待って[コンピュータカバーを開きます](#)。
- 各カードがコネクタにしっかりと装着されていることを確認します。緩んでいるカードは装着しなおします。
- カードのコネクタに対応するすべてのケーブルがしっかりと接続されているか確認します。緩んでいるケーブルは接続しなおします。

カード上の特定のコネクタにどのケーブルを接続するかについては、カードのマニュアルを参照してください。

- [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

グラフィックカードをテストします

- コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
- グラフィックカード以外のすべてのカードを取り外します。「[PCIカードの取り外し](#)」を参照してください。

プライマリハードドライブがドライブコントローラカードに接続されていて、システム基板のどのIDEコネクタにも接続されていない場合、コンピュータに取り付けられたドライブコントローラカードはそのままにしておきます。

- [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。


カードをテストします

- コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
- 前の手順で取り外したカードの1つを取り付けなおします。「[PCIカードの取り付け](#)」を参照してください。
- [コンピュータカバーを閉じ](#)、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

テストのいずれかに失敗した場合、装着しなおしたカードが不良ですので、交換する必要があります。


- すべてのカードの再取り付けが終わるまで、この手順を繰り返します。

カードファンの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

ケーブル接続を確認します — カードファンケーブルがシステム基板のカードファンコネクタにしっかりと接続されているか確認します（モニターワーコンピュータでは、「[システム基板のコンポーネント](#)」を、デスクトップコンピュータでは、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照）。

ドライブの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

Microsoft® Windows® がドライブを認識しているか確認します — スタート ボタンをクリックして、マイコンピュータ をクリッ

クします。フロッピー、CD、またはDVDドライブが一覧に表示されない場合、アンチウイルスソフトウェアでウイルスチェックをおこない、ウイルスを調査して除去します。ウイルスが原因でWindowsがドライブを認識できないことがあります。

ドライブを確認します

- ・別のフロッピーディスク、CD、またはDVDを挿入して、元のフロッピーディスク、CD、またはDVDに問題がないか確認します。
- ・起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。


ドライブまたはディスクをクリーニングします — [「コンピュータのクリーニング」](#) を参照してください。


ケーブルの接続を確認します

[ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます](#)

[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#) を実行します

CD および DVD ドライブの問題

 **メモ:** 高速CDまたはDVDドライブの振動は一般的なもので、ノイズを引き起こすこともあります。このノイズはドライブやCDの異常ではありません。

 **メモ:** 国や地域によってディスクフォーマットが異なるため、お使いのDVDドライブでは再生できないDVDもあります。

Windowsの音量を調節します

- ・画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- ・音量つまみを上にドラッグして、音量が上がったか確認します。
- ・チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

スピーカーおよびサブウーハーを確認します — [「サウンドとスピーカーの問題」](#) を参照してください。

CD/DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。

CD/DVD-RW ディスクへの書き込みの前に、Windowsのスタンバイモードを無効にします — コンピュータのマニュアルの[省電力モード](#)を参照してください。

ハードドライブの問題

Dell IDE Hard Drive Diagnostics (IDE HD 診断) プログラムを実行します —

Dell IDE Hard Drive Diagnostics (IDE HD 診断) プログラムは、ハードドライブをテストして、ハードドライブの障害を検出したり解決するユーティリティです。

- コンピュータの電源を入れます (コンピュータの電源が入っている場合、再起動します)。
- 画面の右上角に F2 = Setup と表示されたら、<Ctrl><Alt><d> を押します。
- 画面の指示に従います。

チェックディスクを実行します

Windows XP

- スタート ボタンをクリックして、マイコンピュータ をクリックします。
- ローカルディスクC: を右クリックします。
- プロパティ をクリックします。
- ツール タブをクリックします。
- エラーチェック の項目で、チェックする をクリックします。
- 不良セクタをスキャンし、回復する をクリックします。
- 開始 をクリックします。


Windows 2000


- Windows のデスクトップのマイコンピュータ をダブルクリックします。
- ツール タブをクリックします。
- エラーチェック の項目で、チェックする をクリックします。
- 開始 をクリックします。

MS-DOS®

MS-DOS プロンプトで `scandisk x:` (x はハードドライブ文字) と入力して、<Enter> を押します。スタート ボタンをクリックして、マイコンピュータ をクリックします。

E メール、モデム、およびインターネットの問題

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **メモ:** モデムは必ずアナログ電話回線に接続してください。デジタル電話回線 (ISDN) に接続した場合、モデムは動作しません。

Microsoft Outlook® Express のセキュリティ設定を確認します — Eメールの添付ファイルが開けない場合、次の手順を実行します。

- Outlook Express で、ツール → オプション → セキュリティ の順にクリックします。
- ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない をクリックして、チェックマークを外します。

電話線の接続を確認します —

電話ジャックを確認します —

モデムを直接電話ジャックに接続します —

他の電話線を使用してみます —

- 電話線がモデムのジャックに接続されているか確認します。(ジャックは緑色のラベルかコネクタの絵柄の横にあります。)
- 電話線のコネクタをモデムに接続する際に、カチッと収まったか確認します。
- モデムから電話線を取り外して、電話に接続します。電話の発信音を確認します。
- 留守番電話、ファックス、サージプロテクタ、および電話線分岐タップなど同じ回線に接続されている電話機器を取り外し、電話を使ってモデムを直接電話ジャックに接続します。3 m 以上の電話線を使用している場合、短い電話線を試してみます。

Modem Helper 診断プログラムを実行します — スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム をポイントして、Modem Helper をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別して、その問題を解決します。(Modem Helper は、すべてのコンピュータで利用できるわけではありません。)


モデムが Windows と通信しているか確認します


- スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。
- プリンタとその他のハードウェア をクリックします。
- 電話とモデムのオプション をクリックします。
- モデム タブをクリックします。
- モデムの COM ポートをクリックします。
- モデムが Windows と通信しているか確認するため、プロパティ をクリックし、診断 タブをクリックして、モデムの照会 をクリックします。

すべてのコマンドに応答が表示されている場合、モデムに問題はありません。

インターネットへの接続を確認します — インターネットプロバイダとの契約が済んでいるか確認します。E メールプログラム Outlook Express を起動して、ファイル をクリックします。オフライン作業 の横にチェックマークが付いている場合、チェックマークをクリックしてマークを外してから、インターネットに接続します。ご質問がある場合、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

IEEE 1394 デバイスの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **メモ：** Dell Precision 370 デスクトップコンピュータでは、正面 IEEE 1394 コネクタはオプションで、アドイン IEEE 1394 カードをご購入いただいた場合のみ利用可能です。カードのご注文については、デルにお問い合わせください。

IEEE 1394 デバイスが適切に接続されているか確認します —

IEEE 1394 デバイスのケーブルが、デバイスおよびコンピュータに適切に接続されているか確認します。

IEEE 1394 デバイスが Windows によって認識されているか確認します

Windows XP

- スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。
- プリンタとその他のハードウェア をクリックします。
- お使いの IEEE 1394 デバイスが一覧に表示されている場合、Windows はデバイスを認識しています。

Windows 2000

- スタート ボタンをクリックし、設定 → コントロールパネル とポイントして、システム をダブルクリックします。
- ハードウェア タブをクリックします。
- デバイスマネージャ をクリックして、デバイス名の横に！（感嘆符）が付いていないことを確認します。
- プリンタとその他のハードウェア をクリックします。


IEEE 1394 デバイスが一覧に表示されている場合、Windows はデバイスを認識しています。

デルから購入した IEEE 1394 デバイスに問題がある場合 —

デル以外から購入した IEEE 1394 デバイスに問題がある場合 —

デルまたは IEEE 1394 デバイスの製造元にお問い合わせください。

キーボードの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。


キーボードケーブルを確認します

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- [コンピュータをシャットダウンし](#)、お使いのコンピュータの『セットアップ&クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。
- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します — 正常に機能している他のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードが故障しています。

[ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます](#)

コンピュータおよびソフトウェアの問題


 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

コンピュータが起動しない場合

[診断ライト](#)を確認します

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの反応が停止した場合

 **注意：** オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。


コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します

- <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
- アプリケーション をクリックします。
- 応答しなくなったプログラムをクリックします。
- タスクの終了 をクリックします。

プログラムが繰り返し壊れる場合

 **メモ：** ソフトウェアには、通常マニュアルの中やフロッピーディスクまたは CD にインストール手順が収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

以前の Windows オペレーティングシステム用に設計されているプログラムの場合

Windows XP をお使いの場合、プログラム互換性ウィザードを実行します —

Windows XP には、Windows XP オペレーティングシステム環境とは異なるオペレーティングシステムに近い環境で、プログラムが動作するよう設定できるプログラム互換性ウィザードがあります。

- スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム → アクセサリ とポイントしてから、プログラム互換性ウィザードをクリックします。
- プログラム互換性ウィザード 画面で、次へ をクリックします。
- 画面の指示に従います。

画面が青一色になった場合

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを確認するかソフトウェアの製造元に問い合わせます

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応しているか確認します。
- お使いのコンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します


アンチウイルスプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます。

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします

[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します — すべてのテストが正常に終了する場合、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。

メモリの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。


メモリ不足を示すメッセージが表示される場合

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます。「[メモリの取り付け](#)」を参照してください。
- メモリモジュールを装着しなおし、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。「[メモリ](#)」を参照してください。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

その他のメモリの問題が発生する場合

- メモリモジュールを装着しなおし、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。「[メモリ](#)」を参照してください。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します。「[メモリの取り付け](#)」を参照してください。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

マウスの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

マウスケーブルを確認します

- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- マウス延長ケーブルを使用している場合、マウス延長ケーブルを取り外して、マウスをコンピュータに直接接続します。
- [コンピュータをシャットダウン](#)し、お使いのコンピュータの『セットアップ&クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにマウスケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します

- <Ctrl><Esc> を同時に押して、スタートメニューを表示します。
- u と入力してからキーボードの矢印キーを押して、シャットダウン または 電源を切る を選択して、<Enter> を押します。
- コンピュータの電源が切れた後、お使いのコンピュータの『セットアップ&クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにマウスケーブルを接続しなおします。
- コンピュータを起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している他のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいマウスが機能する場合、元のマウスが故障しています。

マウスの設定を確認します

Windows XP

- スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、プリンタとその他のハードウェア をクリックします。
- マウス をクリックします。
- 設定を調整します。

Windows 2000

- スタート ボタンをクリックし、設定 をポイントして、コントロールパネル をクリックします。
- マウス アイコンをダブルクリックします。
- 設定を調整します。

PS/2 マウスを使用している場合

- [セットアップユーティリティを起動](#)して、Integrated Devices オプションの Mouse Port が On に設定されているか確認します。


□□□ セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

マウスドライバを再インストールします — 「[ドライバ](#)」を参照してください。

[ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます](#)

ネットワークの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

[ネットワークケーブルコネクタを確認します](#) — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されているか確認します。

[コンピュータ背面のネットワークライトを確認します](#) — どのライトも付いていない場合、ネットワーク通信が存在しないことを示しています。ネットワークケーブルを取り替えます。ネットワークライトの詳細については、「[ボタンとライト](#)」を参照してください。


[コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおしてみます](#)

[ネットワークの設定を確認します](#) — ネットワーク管理者またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークの設定が正しいか、またネットワークが正常に機能しているか確認します。

[ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます](#)

電源の問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

[電源ライトが緑色に点灯していて、コンピュータが応答しない場合](#) — 「[診断ライト](#)」を参照してください。

[電源ライトが緑色に点滅している場合](#) — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。

[電源ライトが消灯している場合](#) — コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
- 主電源ケーブルおよび正面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

[電源ライトがオレンジ色と緑色に点滅している場合、またはオレンジ色に点灯している場合](#) — デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り外してから取り付けなおします。「[メモリ](#)」を参照してください。
- すべてのカードを取り外してから取り付けなおします。「[カード](#)」を参照してください。
- グラフィックカードを取り付けている場合、取り外してから取り付けなおします。「[カード](#)」を参照してください。

[電源ライトがオレンジ色に点滅している場合](#) —

コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。


- ・ [電圧切り替えスイッチ](#)が、使用する地域の AC 電源に合わせて設定されているか確認します（該当する場合）。
- ・ プロセッサの電源ケーブルが、システム基板上にしっかりと接続されているか確認します。


電気的な妨害を除去します — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- ・ 電源ケーブル、キーボードケーブル、およびマウス延長ケーブル
- ・ 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- ・ 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics（診断）チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **メモ：** プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップおよびトラブルシューティングについては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源が入っているか確認します

プリンタケーブルの接続を確認します

- ・ ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- ・ プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

プリンタが Windows によって認識されているか確認します

Windows XP

□□□ スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、プリンタとその他のハードウェア をクリックします。

□□□ インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する をクリックします。

プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。

□□□ プロパティ をクリックして、ポート タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、印刷するポートが LPT1 : プリンタポート に設定されているか確認します。USB プリンタの場合、印刷するポートが USB に設定されているか確認します。

Windows 2000

□□□ スタート ボタンをクリックし、設定 をポイントして、プリンタ をクリックします。

プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。


□□□ プロパティ をクリックして、ポート タブをクリックします。


パラレルプリンタの場合、印刷するポートが LPT1 : プリンタポート に設定されているか確認します。USB プリンタの場合、印刷するポートが USB に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。


 **メモ：** プリンタに問題がある場合、「[プリンタの問題](#)」を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。次に、[セットアップユーティリティを起動して](#)、Integrated Devices オプションの設定に進みます。Serial Port または Parallel Port の設定が推奨設定と合っていることを確認します。


[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します

サウンドとスピーカーの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

スピーカーから音がしない場合

 **メモ：** MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量調節より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図に示されているように、スピーカーが接続されているか確認します。オーディオカードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されているか確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調節して音のひずみを解消します。

Windows の音量を調節します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — ヘッドフォンがコンピュータの正面パネルにあるヘッドフォンコネクタに接続されている場合、スピーカーからの音声は自動的に無効になります。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカーは機能しません。

Windows XP

- スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、サウンド、音声、およびオーディオデバイス をクリックします。
- サウンドとオーディオデバイス をクリックします。
- ハードウェア タブをクリックします。
- お使いの CD ドライブ名をダブルクリックします。
- プロパティ タブをクリックします。
- この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする ボックスにチェックマークを付けます。

Windows 2000

- スタート ボタンをクリックし、設定 → コントロールパネル とポイントして、サウンドとマルチメディア をダブルク

- リックします。
- ハードウェア タブをクリックします。
- お使いの CD ドライブ名をクリックして、プロパティ をクリックします。
- プロパティ タブをクリックします。
- この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする ボックスにチェックマークを付けます。

電気的な妨害を解消します — 近くのファン、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、電気的な妨害を調べます。

スピーカーの診断プログラムを実行します

オーディオドライバを再インストールします —

「[ドライバおよびユーティリティの再インストール](#)」を参照してください。

デバイスのオプション設定を確認します — [セットアップユーティリティを起動して](#)、Integrated Devices オプションの Sound が On に設定されているか確認します。 [セットアップユーティリティを終了して](#)、コンピュータを再起動します。

[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します

[ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます](#)

ヘッドフォンから音がしない

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。「[デスクトップコンピュータ](#)」または「[モニターコンピュータ](#)」を参照してください。

デジタルモードを無効にします — CD ドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンは機能しません。

Windows XP

- スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、サウンド、音声、およびオーディオデバイス をクリックします。
- サウンドとオーディオデバイス をクリックします。
- ハードウェア タブをクリックします。
- お使いの CD ドライブ名をダブルクリックします。
- プロパティ タブをクリックします。
- この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする ボックスのチェックを外します。


Windows 2000

- スタート ボタンをクリックし、設定 → コントロールパネル とポイントして、サウンドとマルチメディア をダブルクリックします。
- ハードウェア タブをクリックします。
- お使いの CD ドライブ名をクリックして、プロパティ をクリックします。
- プロパティ タブをクリックします。
- この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする ボックスのチェックを外します。


Windows の音量を調節します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要な事項を記入してください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

画面に何も表示されない場合

 **メモ**：トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します

- ・グラフィックカードをご購入された場合、モニターがカードに接続されているか確認します。
- ・お使いのモニターが正しく接続されているか確認します（コンピュータに付属している『セットアップ&クイックリファレンスガイド』を参照）。
- ・グラフィック延長ケーブルを使用していてケーブルを取り外すと問題が解決する場合、ケーブルに問題があります。
- ・コンピュータの電源ケーブルとモニターの電源ケーブルを交換して、電源ケーブルに問題がないか確認します。
- ・曲がったり壊れたピンがないか、コネクタを確認します。（モニターのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）

モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターに電源が入っていることを確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

モニターを確認します — 正常に機能している他のモニターをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニターが機能する場合、元のモニターが故障しています。

診断ライトを確認します

カードの設定を確認します — [セットアップユーティリティを起動して](#)、Integrated Devices オプションの Primary Video Controller が正しく設定されているか確認します。AGP カードの場合、Primary Video Controller を AGP に設定します。PCI カードの場合、Primary Video Controller を Auto に設定します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#) を実行します

画面が見づらい場合

モニターの設定を確認します — コントラストや輝度を調整したり、モニターから磁気を除いたり、モニターのセルフテストを実行する手順については、モニターに付属しているマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニターから遠ざけます — お使いのスピーカーシステムにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーをモニターから 60 cm 以上離します。

モニターを外部電源から遠ざけます — ファン、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電化製品によって画面が「ぶれる」ことがあります。近くのデバイスの電源を切って干渉を調べます。

Windows の画面設定を調整します

Windows XP

- スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、デスクトップの表示とテーマ をクリックします。
- 画面 をクリックして、設定 タブをクリックします。
- 画面の解像度 と 画面の色 で別の設定にしてみます。

Windows 2000


- スタート ボタンをクリックし、設定 をポイントして、コントロールパネル をクリックします。
- 画面 アイコンをダブルクリックして、設定 タブをクリックします。
- 画面の領域 または デスクトップ領域 で別の設定にしてみます。

[目次ページに戻る](#)


コンピュータのクリーニング

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド


- [コンピュータ、キーボード、およびモニター](#)
- [マウス](#)
- [フロッピードライブ](#)
- [CDおよびDVD](#)

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

コンピュータ、キーボード、およびモニター

 **警告：**コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータをコンセントから外してください。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- 掃除機のブラシを使って、コンピュータのスロット部分や穴の開いている部分、およびキーとキーボードの間などのゴミを丁寧に取り除きます。

 **注意：**モニター画面を石鹼またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷する恐れがあります。

- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの静電気防止コーティング用の溶液をお使いください。
- キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を3対1で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかくて清潔なクリーニング布を使って拭きます。

布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの中に水が入らないようにしてください。

マウス

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。光学式でないマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。

- マウスの底の保持リングを反時計回りに回し、ボールを取り外します。
- 清潔で、糸くずのでない布でボールを拭きます。
- ボールケースに慎重に風を送って、ほこりや糸くずを取り除きます。
- ボールケースの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
- ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
- ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

フロッピードライブ

- ➡ **注意：**綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。誤ってヘッドがずれてしまい、ドライブが動作しなくなる場合があります。

市販のクリーニングキットを使ってフロッピードライブをきれいにします。市販のキットには前処理されたフロッピーディスクが入っていて、通常の動作中に付着した汚れを取り除きます。

CD および DVD

- ➡ **注意：**CD/DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用してください。使い方については、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質の低下がみられる場合、ディスクを掃除します。

- ディスクの外側の縁を持ちます。中央の穴の縁に触れることもできます。

- ➡ **注意：**円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつける恐れがあります。

- 糸くずのでない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）を中央から縁に向けて放射状にそっと拭きます。

頑固な汚れには、水、または石鹼を薄めた水を使用します。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーニング製品は、DVD にも使用できます。

[目次ページに戻る](#)

Windows XP の特徴

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [新しいコンピュータへの情報の転送](#)
- [ショートカットの作成と整列](#)
- [Microsoft® Windows® クラシック表示への切り替え](#)
- [デスクトップクリーンアップウィザード](#)
- [壁紙の選択](#)
- [インターネット接続ファイアウォール](#)
- [スクリーンセーバーの選択](#)
- [家庭用および企業用ネットワークのセットアップ](#)
- [デスクトップテーマの選択](#)

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、データを元の（古い）コンピュータから新しいコンピュータに転送するファイルと設定の転送ウィザードがあります。以下のデータを転送できます。

- ・ E メール
- ・ ツールバーの設定
- ・ ウィンドウのサイズ
- ・ インターネットのブックマーク

ネットワークまたはシリアル接続を介してデータを新しいコンピュータに転送したり、書き込み可能な CD またはフロッピーディスクなどのリムーバブルメディアにデータを保存することができます。

新しいコンピュータに情報を転送するには、次の手順を実行します。

- スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム → アクセサリ → システムツールの順にポイントして、ファイルと設定の転送ウィザードをクリックします。
- ファイルと設定の転送ウィザードの開始画面で、次へをクリックします。
- これはどちらのコンピュータですか？画面で、転送先の新しいコンピュータを選んでから、次へをクリックします。
- Windows XP CD がありますか？画面で、Windows XP CD からウィザードを使いますをクリックして、次へをクリックします。
- 今、古いコンピュータに行ってください。画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、次へをクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには、次の手順を実行します。

- 古いコンピュータに Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
- Microsoft Windows XP 画面で、追加のタスクを実行するをクリックします。
- 実行する操作の選択画面で、ファイルと設定を転送するをクリックします。
- ファイルと設定の転送ウィザードの開始画面で、次へをクリックします。

□□□ これはどちらのコンピュータですか？画面で、転送元の古いコンピュータをクリックして、次へをクリックします。

□□□ 転送方法を選択してください。画面で、希望の転送方法をクリックします。

□□□ 何を転送しますか？画面で、転送するアイテムをクリックして、次へをクリックします。

情報がコピーされた後、ファイルと設定の収集フェーズを処理しています... 画面が表示されます。

□□□ 完了 をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには、次の手順を実行します。

□□□ 新しいコンピュータの今、古いコンピュータに行ってください。画面で、次へをクリックします。

□□□ ファイルと設定はどこにありますか？画面で、設定とファイルを転送する方法を選んで、次へをクリックします。

ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

設定とファイルがすべて適用されると、ファイルと設定の転送ウィザードの完了 画面が表示されます。

□□□ 完了 をクリックして、コンピュータを再起動します。

Microsoft® Windows® クラシック表示への切り替え

Windows のデスクトップ、スタートメニュー、およびコントロールパネルの外観を以前の Windows オペレーティングシステムのように変更することができます。



メモ： このマニュアルの手順は、Windows デフォルトビュー用に使われています。そのため、Dell™ コンピュータを Windows クラシック表示に設定していると機能しない場合があります。

デスクトップ

□□□ スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。

□□□ 作業する分野を選びます で、デスクトップの表示とテーマ をクリックします。

□□□ 作業を選びます にある、テーマを変更する をクリックします。

□□□ テーマのドロップダウンメニューで、Windows クラシック をクリックします。

□□□ OK をクリックします。

スタートメニュー

□□□ スタート ボタンを右クリックして、プロパティ をクリックします。

□□□ [スタート] メニュー タブをクリックします。

□□ クラシック [スタート] メニューをクリックして、OK をクリックします。

コントロールパネル

□□ スタート ボタンをクリックして、コントロールパネル をクリックします。

□□ 左側パネルで、クラシック表示に切り替える をクリックします。

壁紙の選択

壁紙を選んで、Windows のデスクトップの背景の色や模様を設定することができます。

□□ スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、デスクトップの表示とテーマ をクリックします。

□□ 作業を選びます にある、デスクトップの背景を変更する をクリックします。

□□ 画面のプロパティ ウィンドウで、以下の項目の 1 つをクリックします。

- 壁紙の画像の名前
- (なし) で、壁紙を設定しない
- 参照 で、ディレクトリから壁紙の画像を選択



メモ： 壁紙として、HTML ファイルまたはビットマップや JPEG ファイルなどの画像ファイルを選ぶことができます。

□□ デスクトップの壁紙の位置を選択する場合、表示位置 ドロップダウンメニューの以下のオプションのうちの 1 つをクリックします。

- 並べて表示 で、画像を画面に並べて表示
- 中央に表示 で、画面の中央に 1 つの画像を表示
- 拡大して表示 で、画面のサイズに合わせて 1 つの画像を拡大して表示

□□ OK をクリックして設定を適用し、画面のプロパティ ウィンドウを閉じます。

スクリーンセーバーの選択

□□ スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、デスクトップの表示とテーマ をクリックします。

□□ 作業を選びます にある、スクリーンセーバーを選択する をクリックします。

□□ スクリーンセーバー ドロップダウンメニューから、スクリーンセーバーを選びます。スクリーンセーバーを使用しない場合は、(なし) をクリックします。

スクリーンセーバーを選択すると、設定 でスクリーンセーバーの各種機能が設定できます。

□□ プレビュー をクリックすると現在選択されているスクリーンセーバーが実行されます。プレビュー表示を止めるときは <Esc> を押しします。

□□□ OK をクリックして設定を適用し、画面のプロパティ ウィンドウを閉じます。

デスクトップテーマの選択

デスクトップテーマで、デスクトップの外観を変更したり、音響効果を追加するには、次の手順を実行します。

- スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、デスクトップの表示とテーマ をクリックします。
 - 作業を選びます にある、テーマを変更する をクリックします。
 - 画面のプロパティ ウィンドウで、テーマ ドロップダウンメニューからテーマを選択します。
 - OK をクリックします。
-

ショートカットの作成と整列

ショートカットはデスクトップに作成するアイコンで、頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブに素早くアクセスすることができます。

ショートカットの作成

- Windows エクスプローラまたはマイコンピュータを開いて、ショートカットを作成するファイル、プログラム、またはドライブを検出します。

 **メモ：** デスクトップが見えない場合、開いているウィンドウをすべて最小化して、デスクトップが見えるようにします。

- ハイライト表示されたアイテムを右クリックして、Windows のデスクトップにドラッグします。
- ポップアップメニューで、ショートカットをここに作成 をクリックします。

デスクトップ上に作成されたショートカットアイコンをダブルクリックして、アイテムを開きます。

ショートカットの整列

ショートカットを移動するには、移動したい位置にショートカットをクリックしたままドラッグします。


すべてのショートカットアイコンを一度に整列させるには、次の手順を実行します。

- Windows デスクトップの何も無い場所を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
 - アイコンの整列 をポイントして、アイコンの整列基準をオプションから選択してクリックします。
-

デスクトップクリーンアップウィザード

デスクトップクリーンアップウィザードを設定して、コンピュータを最初に起動してから7日後に（その後は60日おきに）、あまり使用されないデスクトップアイコンを指定のフォルダに移動することができます。プログラムが移動すると、スタートメニューの外観が変わります。

デスクトップクリーンアップウィザードを停止するには、次の手順を実行します。

 **メモ：** 60日ごとにデスクトップクリーンアップウィザードを実行する でデスクトップをクリーンアップする をクリックして、デスクトップクリーンアップウィザードをいつでも実行することができます。

- デスクトップ上の何も無い場所を右クリックして、プロパティ をクリックします。
- デスクトップ タブをクリックして、デスクトップのカスタマイズ をクリックします。
- 60日ごとにデスクトップクリーンアップウィザードを実行する をクリックして、チェックマークを外します。
- OK をクリックします。

デスクトップクリーンアップウィザードを実行するには、次の手順を実行します（いつでも実行できます）。

- デスクトップ上の何も無い場所を右クリックして、プロパティ をクリックします。
- デスクトップ タブをクリックして、デスクトップのカスタマイズ をクリックします。
- デスクトップをクリーンアップする をクリックします。
- デスクトップクリーンアップウィザード画面が表示されたら、次へ をクリックします。
- ショートカットの一覧で、デスクトップに残しておきたいショートカットを選んで、次へ をクリックします。
- 完了 をクリックし、ショートカットを削除して、ウィザードを閉じます。

インターネット接続ファイアウォール

インターネット接続ファイアウォールでは、インターネット接続時に、許可されていないユーザーのコンピュータへのアクセスに対する基本的な保護が提供されます。ネットワーク接続にファイアウォールが有効になると、コントロールパネルのネットワーク接続 に赤い背景のあるファイアウォールアイコンが表示されます。

インターネット接続ファイアウォールを有効にしても、アンチウイルスソフトウェアは必要です。

詳細については、[Windows ヘルプとサポートセンター](#) (Microsoft® Windows® XP) を参照してください。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタの接続

コンピュータをネットワークに接続する前に、お使いのコンピュータにネットワークアダプタが取り付けられていて、ネットワークケーブルが接続されている必要があります。

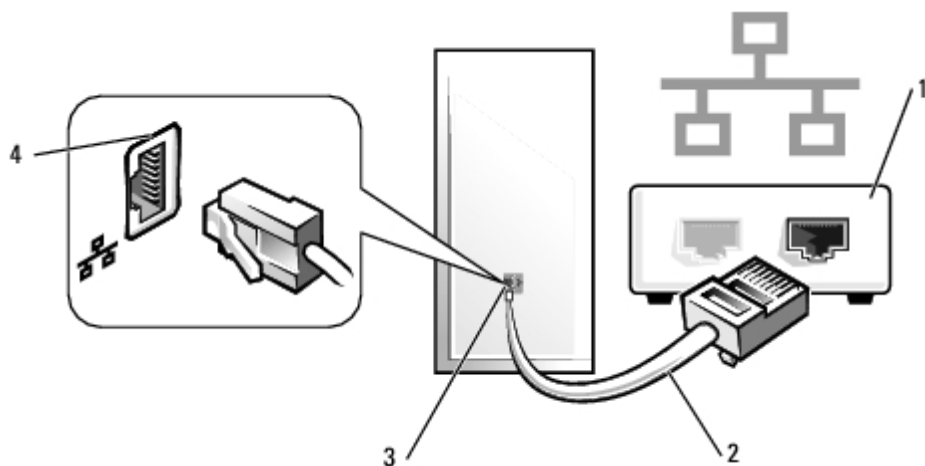
ネットワークケーブルを接続するには、次の手順を実行します。

メモ： ネットワークケーブルをコンピュータのネットワークアダプタコネクタに差し込みます。ネットワークケーブルをコンピュータのモデムコネクタに差し込まないでください。ネットワークケーブルを電話ジャックに差し込まないでください。

□□ ネットワークケーブルをコンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。

ケーブルをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

□□ ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークデバイスに接続します。



1	ネットワークデバイス
2	ネットワークケーブル
3	コンピュータのネットワークアダプタコネクタ
4	ネットワークアダプタコネクタ

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

□□ スタート ボタンをクリックし、すべてのプログラム → アクセサリ → 通信 とポイントして、ネットワークセットアップウィザードをクリックします。

□□ ネットワークセットアップウィザードの開始画面で、次へ をクリックします。

□□ ネットワーク作成のチェックリスト をクリックします。

メモ： インターネットに直接接続している という接続方法を選択すると、Windows XP に設置されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

□□ チェックリストのすべての項目に入力して、必要な準備を完了します。


□□ ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。


[目次ページに戻る](#)

バッテリー

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

バッテリーの交換

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **注意：**コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年間です。

コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時刻と日付情報をリセットしたり、以下のメッセージのいずれかが表示される場合、バッテリーを交換する必要がある場合があります。

Time-of-day not set - please run SETUP program
(日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。)

または


Invalid configuration information -
please run SETUP program
(無効な設定情報 — セットアップユーティリティを実行してください。)

または

Strike the F1 key to continue,
F2 to run the setup utility
(続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。)


バッテリーの交換が必要かどうか確認するには、セットアップユーティリティで日付と時刻を再入力し、プログラムを終了してその情報を保存します。コンピュータの電源を切り、コンセントから 2～3 時間外しておきます。次に、コンピュータをコンセントに接続しなおし、電源を入れてセットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティに表示される日付と時刻が間違っている場合、バッテリーを交換します。

バッテリーがなくてもコンピュータは動作しますが、電源をオフにしたり、コンセントから電源プラグを抜いた場合、コンピュータ設定情報は消去されます。その場合、セットアップユーティリティを起動して、設定オプションを再設定する必要があります。

 **警告：**新しいバッテリーは、間違えて取り付けると破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

□□ 「はじめに」の手順を実行します。

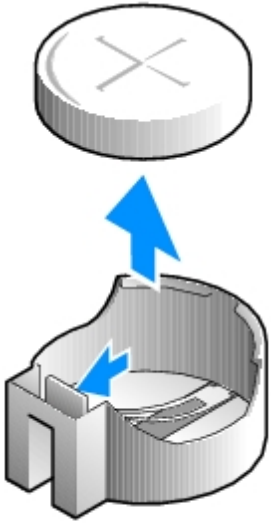
□□ バッテリーソケットを探します。

 **注意：**先端の鋭くない道具を使用してバッテリーをソケットから取り出す場合、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外してください。これらの手順を踏まないと、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

□□ プラスチック製のスクレュードライバなどのように先端部の鋭くない非導電性の道具、または指を使ってバッテリーを慎重にバッテリー

ソケットから取り外します。

□□ バッテリーの「+」側を上に向けて新しいバッテリーをソケットに挿入して、バッテリーを所定の場所にカチッとはめ込みます。



□□□ [コンピュータカバーを閉じます。](#)

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

□□□ [セットアップユーティリティを起動して](#)、手順1で記録した設定に戻します。

□□□ 古いバッテリーは適切に廃棄します。詳細については、『製品情報ガイド』を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

コントロールパネル

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

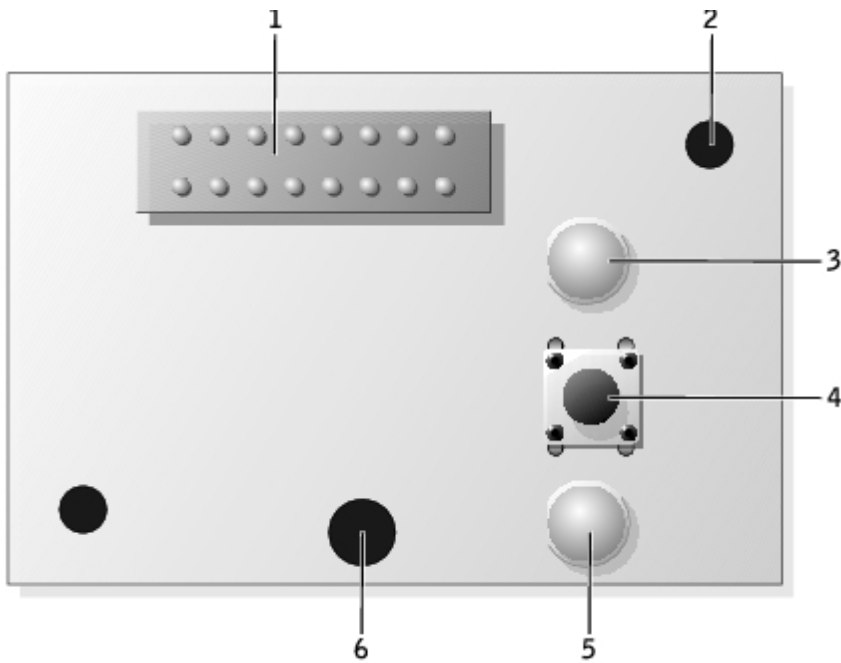
- [コントロールパネルのコンポーネント](#)
- [コントロールパネルの取り外し](#)
- [コントロールパネルの取り付け](#)

警告： 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

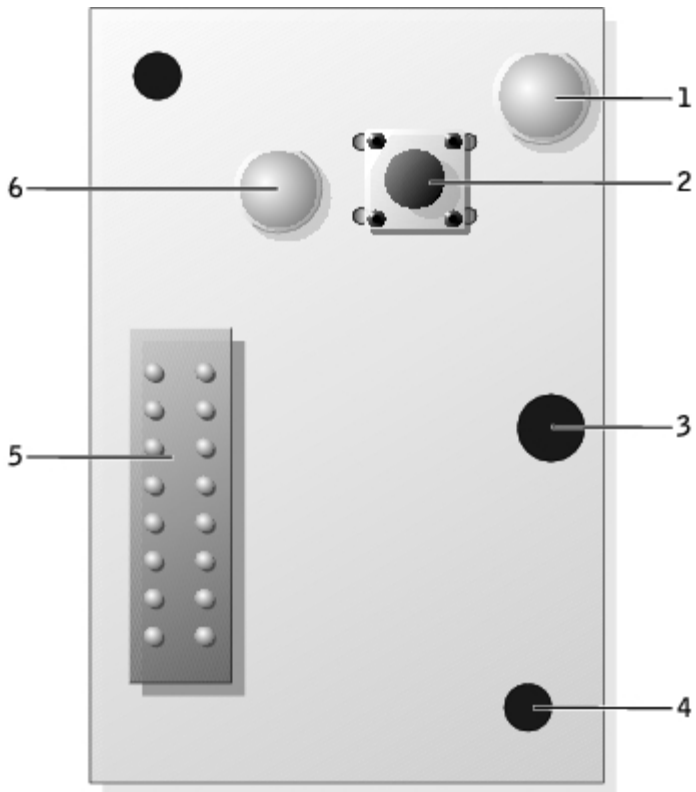
コントロールパネルのコンポーネント

ミニタワーコンピュータ



1	コントロールパネルコネクタ
2	位置合わせ穴
3	ハードドライブライト
4	電源ボタン
5	電源ライト
6	ネジ穴

デスクトップコンピュータ

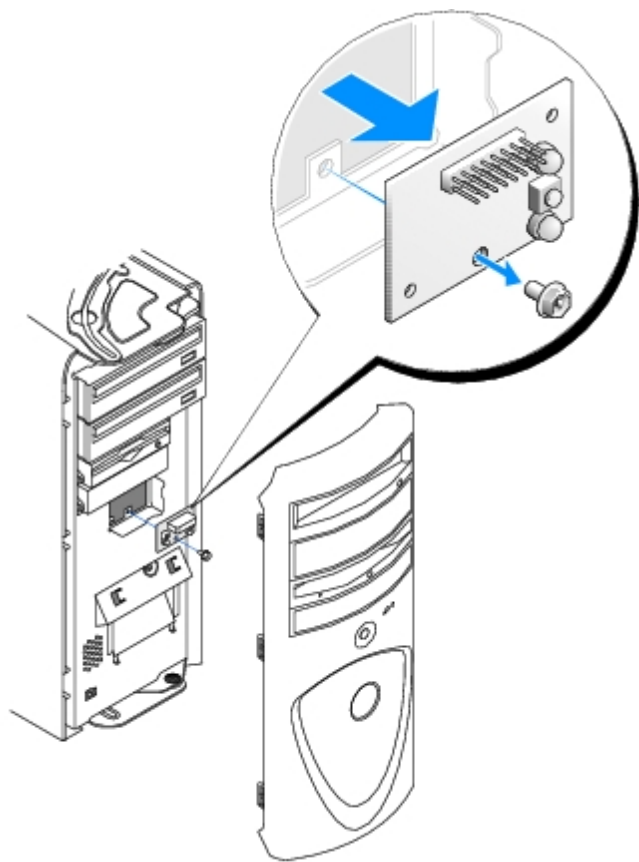


1	ハードドライブライト
2	電源ボタン
3	ネジ穴
4	位置合わせ穴
5	コントロールパネルコネクタ
6	電源ライト

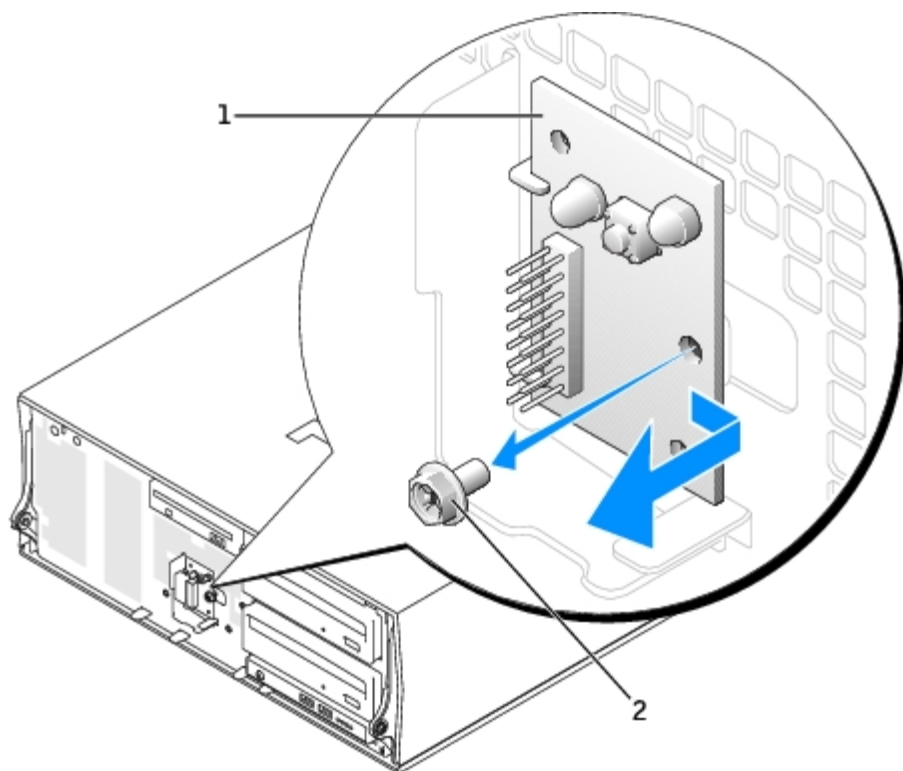
コントロールパネルの取り外し

- [「はじめに」](#) の手順を実行します。
- 正面パネルを取り外します。
- コントロールパネルケーブルを、I/O パネルコネクタから取り外します。
- I/O パネルケーブルをシステム基板のコネクタから取り外します。 ミニタワーコンピュータのシステム基板コネクタの場所については、[「システム基板のコンポーネント」](#) を参照してください。デスクトップコンピュータについては、[「システム基板のコンポーネント」](#) を参照してください。
- コントロールパネルから取り付けネジを外します。
- コントロールパネルをコンピュータから持ち上げます。

ミニタワーコンピュータ



デスクトップコンピュータ



1	コントロールパネル
2	取り付けネジ

コントロールパネルの取り付け

上部パネル、底部パネル、正面パネルのタブが固定されているか確認しながら、[取り外し手順](#)を逆の順序でおこないます。

[目次ページに戻る](#)

I/O パネル

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

● [I/O パネルのコンポーネント](#)

● [I/O パネルの取り外し](#)

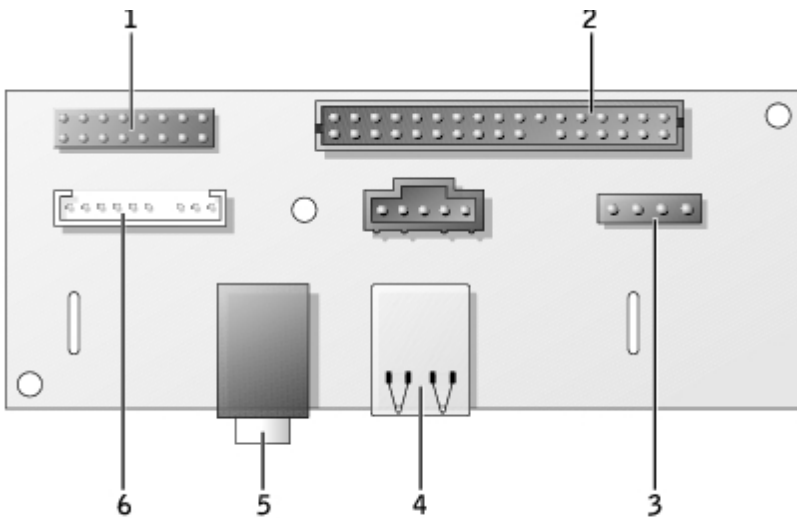
● [I/O パネルの取り付け](#)

警告： 『製品情報ガイド』 の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告： 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

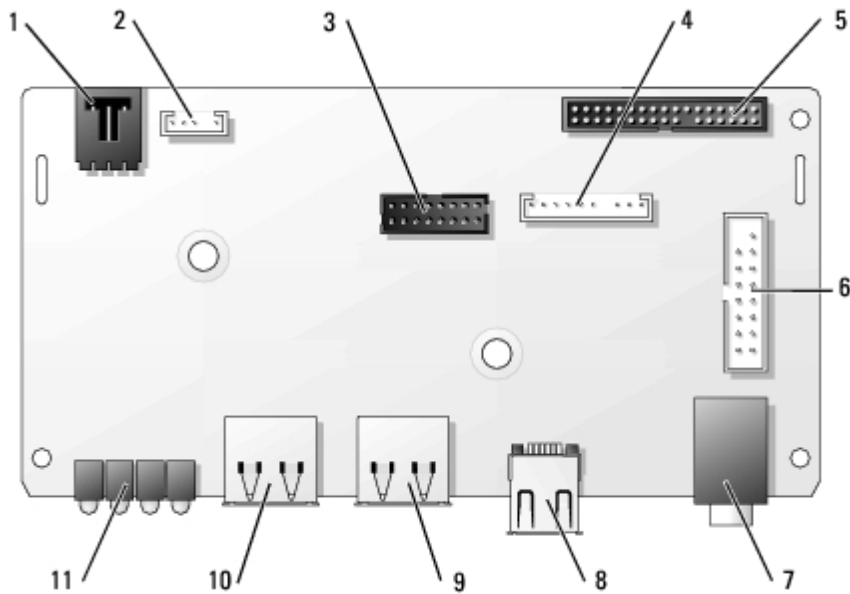
I/O パネルのコンポーネント

ミニタワーコンピュータ



1	コントロールパネルスイッチコネクタ	4	USB 2.0 コネクタ (2)
2	正面パネルコネクタ	5	ヘッドフォンコネクタ
3	スピーカーコネクタ	6	オーディオコネクタ

デスクトップコンピュータ



1	シャシーントルージョンスイッチコネクタ	7	ヘッドフォンコネクタ
2	スピーカーコネクタ	8	IEEE 1394 コネクタ
3	正面パネル IEEE 1394 コネクタ	9	USB 2.0 コネクタ (2)
4	オーディオコネクタ	10	USB 2.0 コネクタ (2)
5	正面パネルコネクタ	11	診断ライト (4)
6	コントロールパネルコネクタ		

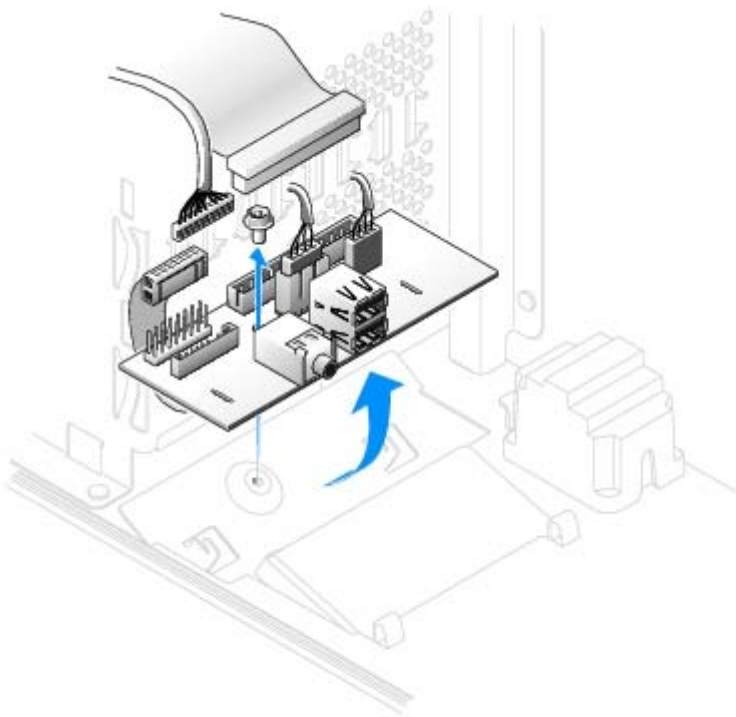
I/O パネルの取り外し

- [「はじめに」](#) の手順を実行します。
- I/O パネルに取り付けられているすべてのケーブルを取り外します。

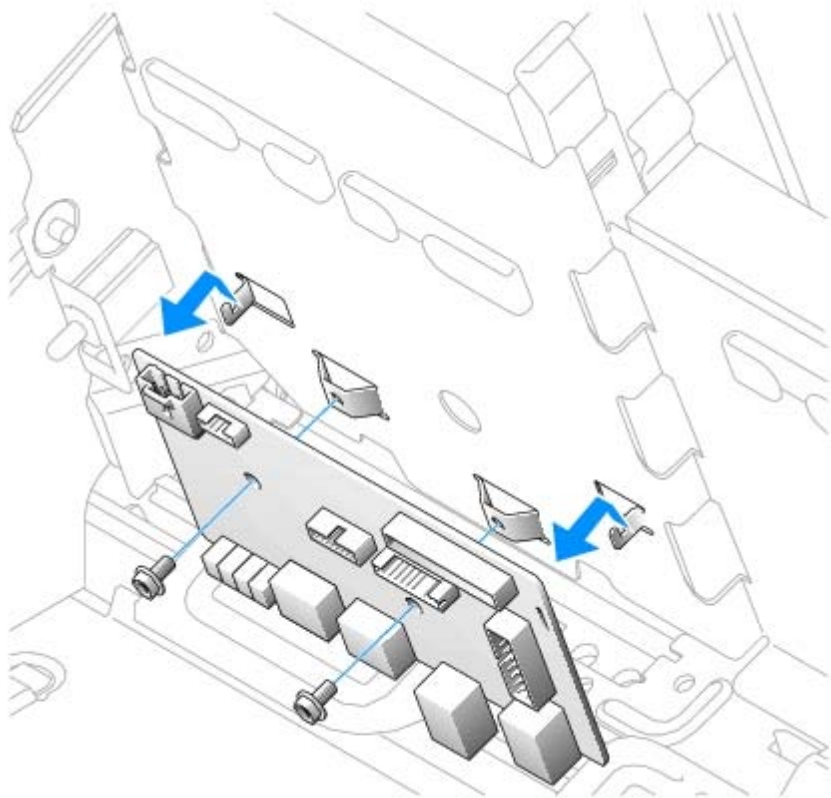
後で取り付けなおすことができるように、コンピュータから取り外す際に、コントロールパネルケーブルの配線をメモしてください。

- コンピュータカバーの内側から、I/O パネルをコンピュータに固定している取り付けネジを外します。
- I/O パネルをコンピュータから取り外します。

ミニタワーコンピュータ



デスクトップコンピュータ



I/O パネルの取り付け


I/O パネルを取り付けるには、[取り外し手順](#)を逆の順序でおこないます。


[目次ページに戻る](#)

電源装置

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [電源装置の取り外し](#)
- [電源装置の取り付け](#)

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **警告：**コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

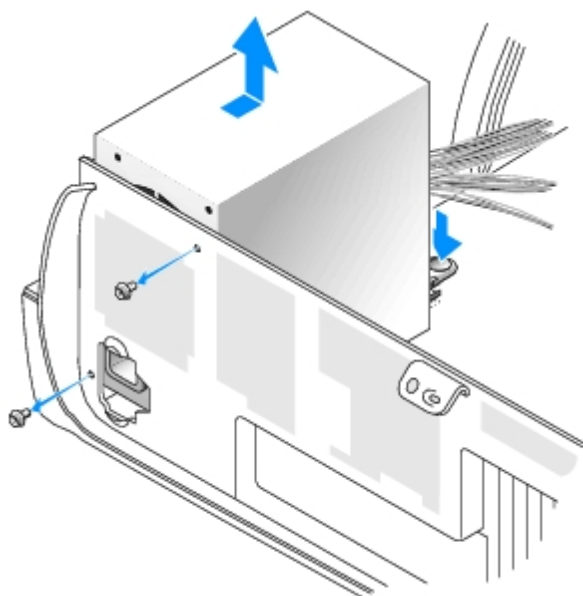
電源装置の取り外し

□□□ DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

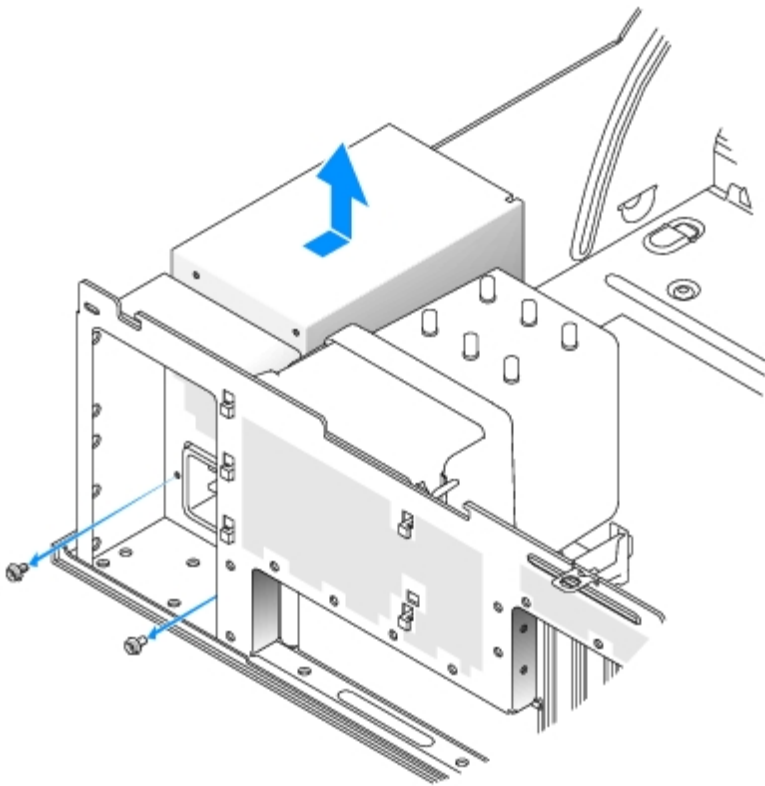
タブを解除してシステム基板およびドライブからケーブルを取り外す際に、コンピュータフレームのタブの下にある DC 電源ケーブルの配線をメモします。取り付ける際に挟まれたり折れ曲がったりしないように、これらのケーブルを適切に配線する必要があります。

- 電源装置をコンピュータフレーム背面に取り付けている 2 本のネジを外します。
- ミニタワーコンピュータで、コンピュータフレームの底部にあるリリースボタンを押します。

ミニタワーコンピュータ



デスクトップコンピュータ



- 電源装置をコンピュータの正面に向かって約 2.5 cm スライドします。
- コンピュータから電源装置を持ち上げて、取り外します。

電源装置の取り付け

- 電源装置を所定の場所にスライドします。
- 電源装置をコンピュータフレーム背面に固定する 2 本のネジを取り付けます。
- DC 電源ケーブルを接続しなおします。
- デスクトップコンピュータでは、ハードドライブの側面に電源ケーブルを取り付けなおします。
- ケーブルをタブの下を通して、ケーブルの上を閉じるようにタブを押します。
- [コンピュータカバーを閉じます](#)。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

[目次ページに戻る](#)

システム基板

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

● [システム基板の取り外し](#)

● [システム基板の取り付け](#)

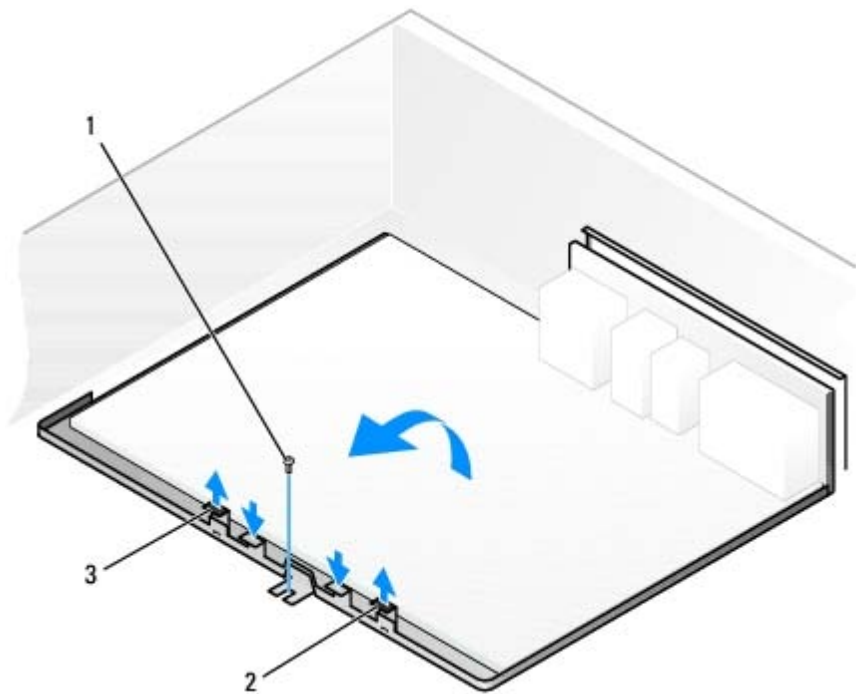
警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告：コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

注意：システム基板と金属製のトレイは、1つの部品として取り付けおよび取り外しをおこないます。

システム基板の取り外し




- 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
- システム基板へのアクセスを妨げるすべてのコンポーネントを取り外します。
- システム基板からすべてのケーブルを取り外します。
- 既存のシステム基板アセンブリを取り外す前に、交換するシステム基板と既存のシステム基板の外観を比較し、正しい部品を使用しているかどうか確認します。
- システム基板のネジを取り外します。



1	システム基板のネジ
2	タブ


- 2つのタブを引き、システム基板アセンブリをコンピュータの前方へスライドしてから、アセンブリを引き上げて取り外します。
- 取り外したシステム基板アセンブリを交換用のシステム基板の横に置きます。

システム基板の取り付け

- コンポーネントを既存のシステム基板から交換用のシステム基板に移動します。
 - メモリモジュールを取り外して、交換用の基板に取り付けます。詳細については、「[メモリ](#)」を参照してください。
-  **警告：** プロセッサパッケージとヒートシンクアセンブリは熱くなることがあります。やけどを防ぐため、パッケージとアセンブリに触れる前には十分に時間をかけ、温度が下がっていることを確認してください。
 - ヒートシンクアセンブリとプロセッサを既存のシステム基板から取り外して、交換用のシステム基板に移動します。詳細については、「[プロセッサ](#)」を参照してください。
- 交換用のシステム基板の構成を設定します。
- 交換用のシステム基板のジャンパを、既存の基板と同じになるように設定します。
-  **メモ：** 交換用のシステム基板のいくつかのコンポーネントとコネクタは、既存のシステム基板とは異なる場所にあることがあります。
 - 交換用の基板の底部の切り込みをコンピュータのタブに合わせて、交換用の基板の向きを合わせます。
 - システム基板アセンブリがカチッと所定の位置に収まるまで、アセンブリをコンピュータの背面の方へスライドします。
 - システム基板から取り外したコンポーネントおよびケーブルを取り付けます。
 - すべてのケーブルをコンピュータ背面のコネクタに接続しなおします。
 - [コンピュータカバーを閉じます](#)。
-  **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
 - コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

コンピュータカバーの閉じ方

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

□□□ すべてのケーブルがしっかり接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。

電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。

□□□ コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。


□□□ カバーを閉じます。

□□□ カバーを下に動かします。

□□□ カバーが閉じるまで、カバーの右側を押し下げます。

□□□ カバーが閉じるまで、カバーの左側を押し下げます。

□□□ カバーの両側がロックされているか確認します。ロックされていない場合、[手順 3](#) を繰り返します。

 **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

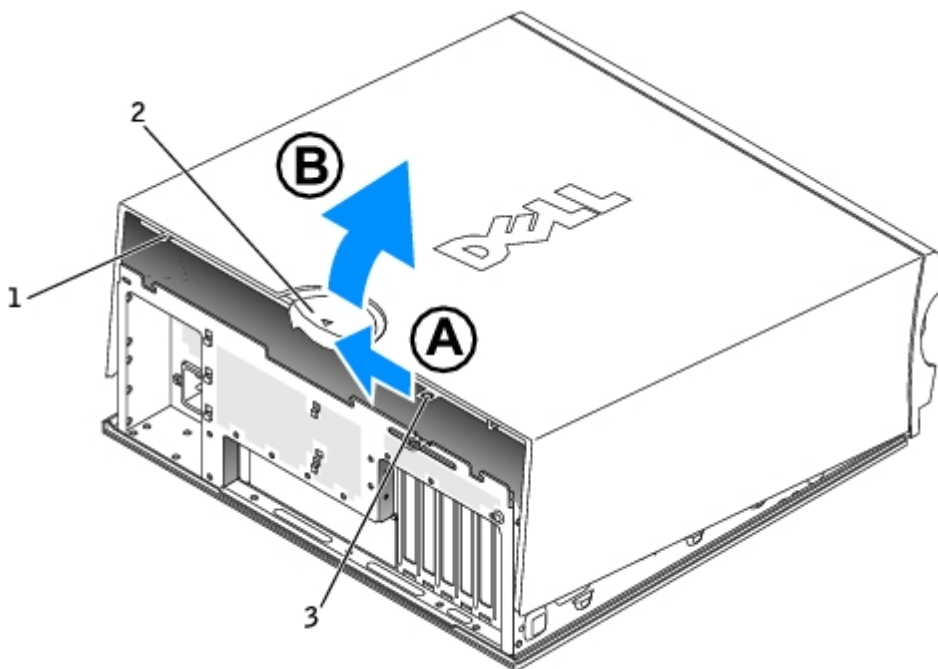
コンピュータカバーの開き方

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

警告： 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

- 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
- カバーリリースラッチを左にスライドさせます。
- カバーを持ち上げ、コンピュータの前面の方へ持ち上げます。



1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	パドロックリング

ドライブ

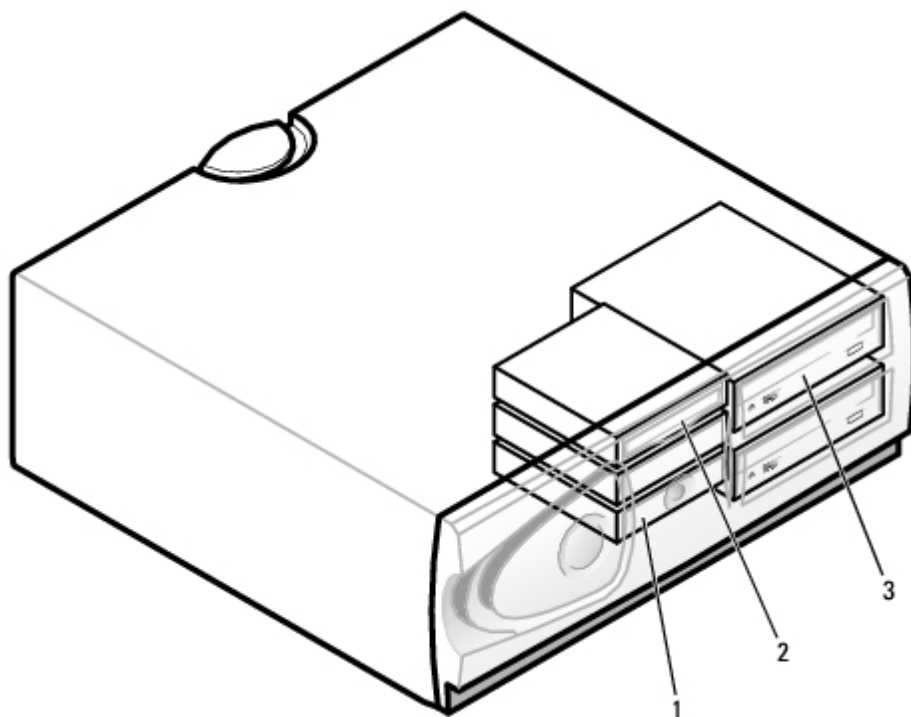
Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ハードドライブ](#)
- [フロッピードライブ](#)
- [正面パネル](#)
- [CD/DVD ドライブ](#)

概要

お使いのコンピュータは、以下のドライブをサポートします。

- ・ ハードドライブを 2 台（シリアル ATA または SCSI（オプションの SCSI コントローラ搭載））
- ・ フロッピードライブを 1 台
- ・ CD ドライブまたは DVD ドライブを 2 台



1	ハードドライブ
2	フロッピードライブ
3	CD/DVD ドライブ

一般的な取り付けガイドライン

ハードドライブは「SATA」とラベルの付いたコネクタに接続し、CD/DVD ドライブは「IDE」とラベルの付いたコネクタに接続します。

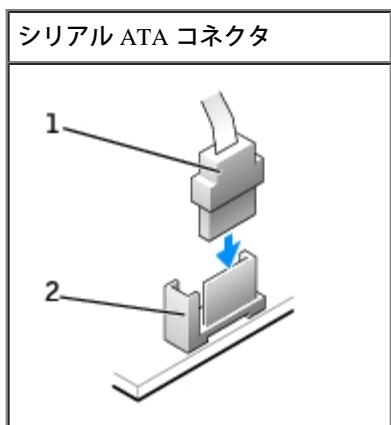
シリアル ATA ハードドライブは、システム基板上の SATA とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。IDE の CD/DVD ドライブは、IDE とラベルの付いたコネクタに接続する必要があります。

単一の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、cable select 設定をおこなう場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、プライマリまたは起動デバイス（ドライブ 0）となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがセカンドデバイス（ドライブ 1）となります。デバイスの cable select 設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

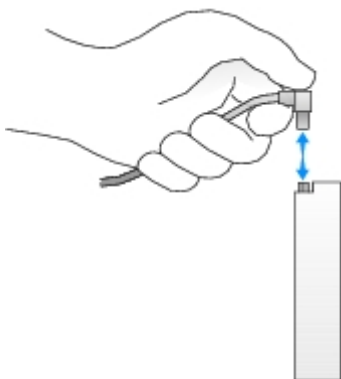
ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。CD/DVD ドライブにオーディオコネクタもある場合、オーディオケーブルの一方の端をドライブコネクタに取り付け、もう一方の端をシステム基板に取り付けます。

ドライブインタフェースコネクタ



1	インタフェースケーブル
2	インタフェースコネクタ




ほとんどのコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタ

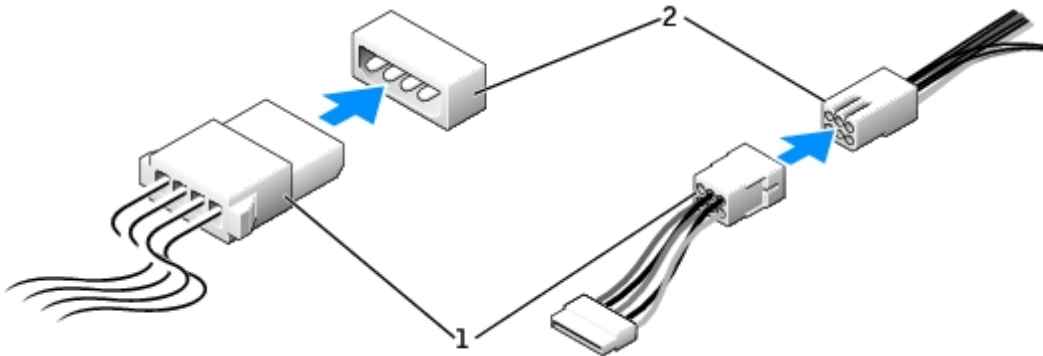
のタブや差し込み穴と一致します。

IDE ケーブルを接続する際は、色帯をコネクタと 1 番ピンの位置を合わせてください。IDE ケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

シリアル ATA ケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にあるコネクタを持ち、ケーブルを外します。

 **メモ：** システム基板のシリアル ATA コネクタは、カバーまたはエアフローカバーに取り付けられている場合があります。


電源ケーブルコネクタ



1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

SCSI デバイスの取り付けガイドライン

この項では、お使いのコンピュータへの SCSI デバイスの取り付けと設定方法について説明します。

 **メモ：** システム基板の SCSI コントローラは、ハードドライブのみをサポートします。CD または DVD ドライブ、テープドライブ、DAT ドライブなどを接続しないでください。

SCSI ID 番号

内蔵 SCSI デバイスには、0 から 15 までの固有の SCSI ID 番号が必要です。システム基板の SCSI コネクタおよびコンピュータに取り付けられた SCSI コントローラカードを使用する場合、2 つの別々の SCSI バスオペレーティングが必要になります。各 SCSI バスには、0 から 15 までの一組の SCSI ID 番号があります。

デルから SCSI デバイスが出荷される際は、デフォルトの SCSI ID 番号が次のように割り当てられています。

システム基板コントローラ		コントローラカード	
デバイス	ID	デバイス	ID
コントローラ	7	コントローラ	7
起動ハードドライブ	0	起動ハードドライブ	0
		CD または DVD ドライブ	5

メモ： SCSI ID 番号を順番に割り当てたり、ID 番号順にデバイスをケーブルに接続する必要はありません。2 つ以上のデバイスが同じ ID を使用する場合、お使いのコンピュータは POST 中また SCSI BIOS でハングすることがあります。

デルで取り付け済みの SCSI デバイスは、製造工程で正しく設定されています。これらの SCSI デバイスに SCSI ID を設定する必要はありません。

オプションの SCSI デバイスを増設した場合、それぞれのマニュアルを参照して、適切な SCSI ID 番号を設定してください。

注意： SCSI ケーブルは、デルからご購入いただいたものだけを使用されることをお勧めします。他社のケーブルは、デルコンピュータでの動作が保証されていません。

デバイスのターミネータ

SCSI ロジックでは、SCSI チェーンの両端のデバイスでターミネータ（終端）が有効で、その間のすべてのデバイスでは無効になっている必要があります。

デルでは有効なターミネータのケーブルを使用し、すべてのデバイス上のターミネータを無効にすることをお勧めします。デバイスのターミネータを無効にする方法については、オプションの SCSI デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

一般的なガイドライン

コンピュータに SCSI デバイスを取り付けの場合、以下の一般的なガイドラインに従ってください。

- SCSI デバイスの取り付けは、基本的に他のデバイスと同じですが、設定要件は異なります。特定の SCSI サブシステムの設定については、SCSI デバイスやホストアダプタカードのマニュアルを参照してください。
- デバイスに SCSI ID 番号を設定し、必要に応じてターミネータを無効にします。
- 外付け SCSI デバイスを使用するには、コンピュータに SCSI コントローラカードが取り付けられている必要があります。外付け SCSI ケーブルの片方の端を、SCSI デバイス背面のコネクタに接続します。外付け SCSI ケーブルのもう一方の端を、コンピュータに取り付けられているコントローラカードのコネクタに接続します。
- IDE ハードドライブが取り付けられていない場合、SCSI ハードドライブを取り付けた後に、[セットアップユーティリティ](#)で Primary Drive 0 および Primary Drive 1 を None に設定する必要があります。
- SCSI ハードドライブにパーティションを作成したり、フォーマットするのに、オペレーティングシステムに付属のプログラム以外のプログラムを使う必要があることがあります。適切なドライバのインストール方法と SCSI ハードドライブの使用の準備方法については、SCSI ソフトウェアドライバに付属のマニュアルを参照してください。

SCSI ケーブル

Ultra 320 ドライブ（Dell Precision 370 コンピュータではオプション）、Ultra 160/m ドライブ、および Ultra2/Wide LVD ドライブ（通常はハードドライブ）は、両方とも 68 ピンケーブルを使用します。ケーブルの一方の端を、システム基板の SCSI コネクタ、またはコンピュータに取り付けられている SCSI コントローラカードに接続します。ケーブルの残りのコネクタは、各種ドライブに取り付けます。

ナロー SCSI ドライブ（テープドライブ、CD ドライブ、およびいくつかのハードドライブなど）は、50 ピンケーブルを使用します。このケーブルの一端を SCSI コントローラカードに接続します。ケーブルの残りのコネクタは各種ナロー SCSI デバイスに接続します。

➡ **注意：** SCSI ケーブルは、デルからご購入いただいたものだけを使用されることをお勧めします。他社のケーブルは、Dell コンピュータでの動作が保証されていません。

ハードドライブ

⚠ **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

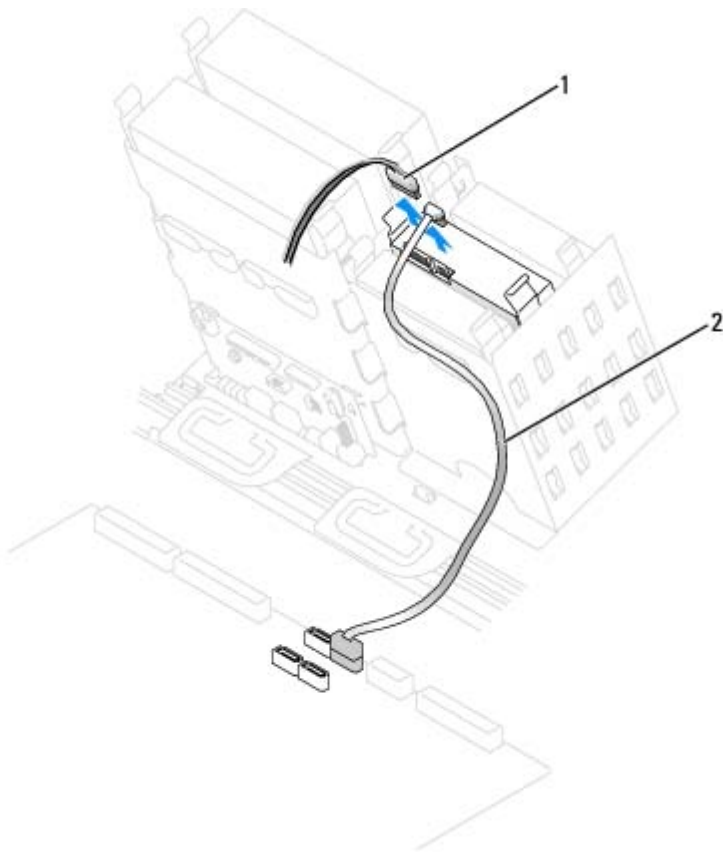
➡ **注意：** ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

ハードドライブの取り外し

□□ 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

□□ 「はじめに」の手順を実行します。

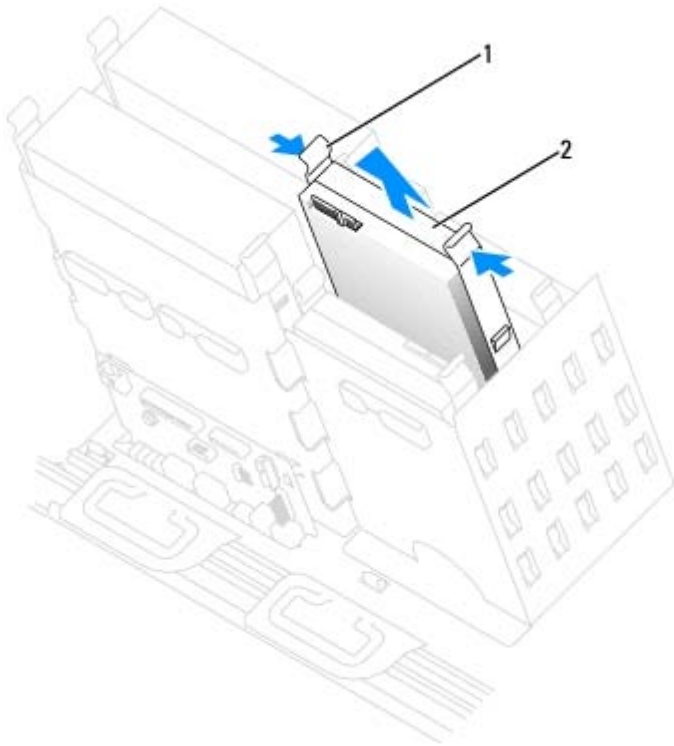
□□ 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。



1	電源ケーブル
2	シリアル ATA ハードドライブケーブル

□□ ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上へスライドして取り外します。

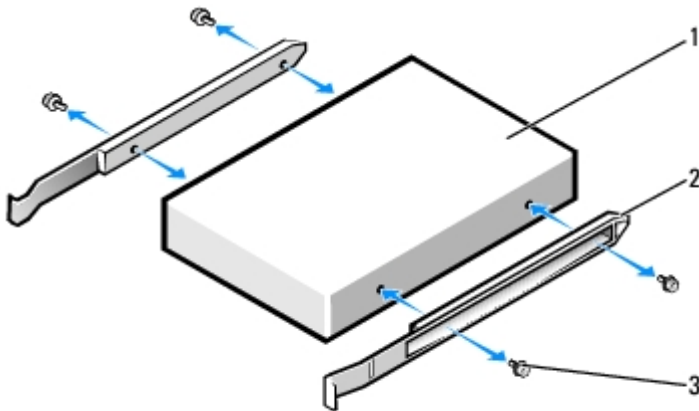
シリアル ATA ドライブ



1	タブ (2)
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け


- 交換用のハードドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。
- ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。
- 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に4本のネジ（各レールに2本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。



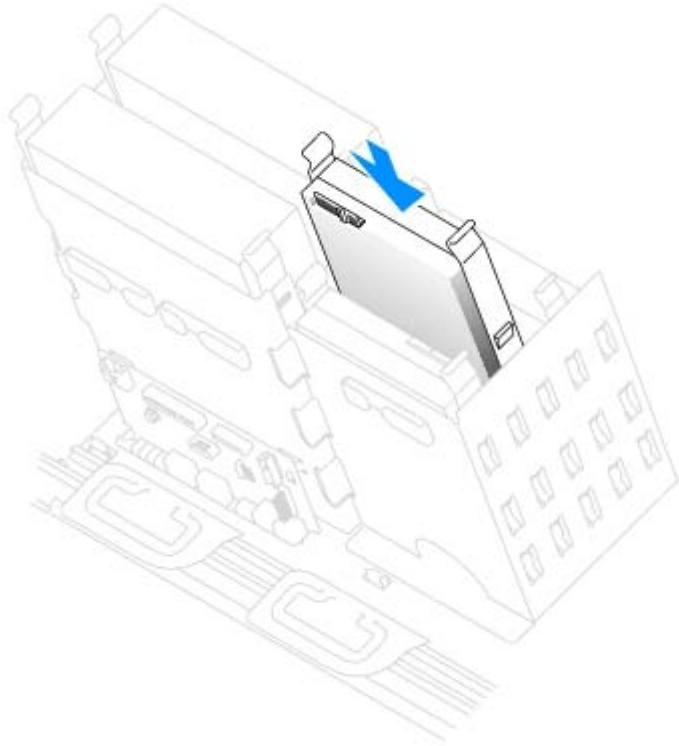
1	ドライブ
---	------

2	ブラケットレール (2)
3	ネジ (4)

□□ タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。

 **メモ：** ハードドライブを下段のベイに取り付ける場合、電源コネクタが左側（上段ハードドライブの反対側）になるようにドライブをベイに取り付ける必要があります。

シリアル ATA ドライブ

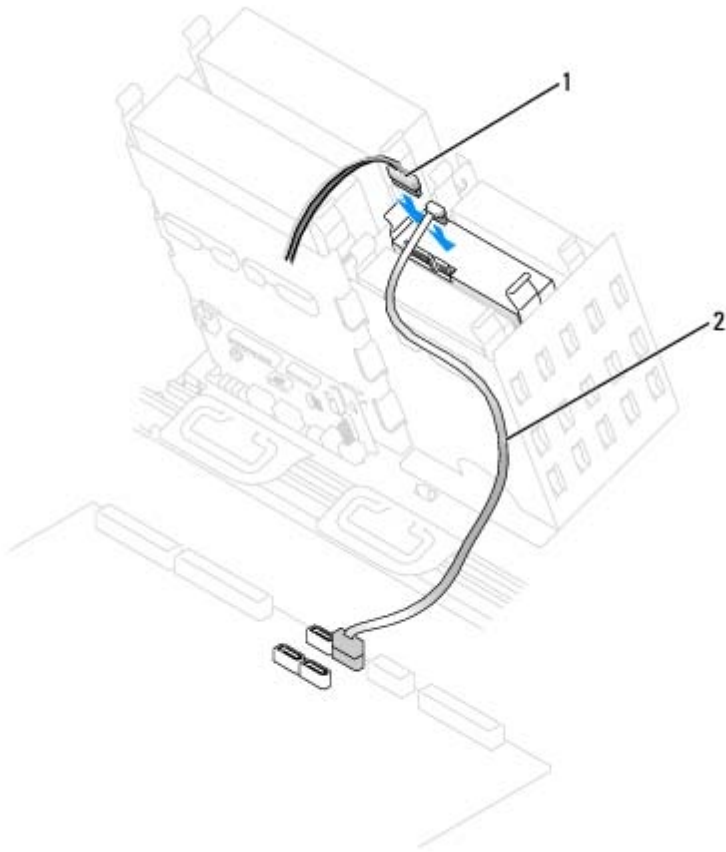


□□ 専用のコントローラカードが付いているドライブを取り付ける場合、コントローラカードは拡張スロットに取り付けます。

ドライブおよびコントローラカードに付属のマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

□□ 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

シリアル ATA ドライブ



1	電源ケーブル
2	シリアル ATA ハードドライブケーブル

□□□ すべてのコネクタが正しく接続され、しっかり固定されているか確認します。

□□□ [コンピュータカバーを閉じます](#)。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

□□□□ 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、起動ディスクをドライブ A に挿入します。

□□□□ コンピュータの電源を入れます。

□□□□ セットアップユーティリティを**起動し**、該当する Primary Drive オプション（0 または 1）をアップデートします。

□□□□ セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。

□□□□ 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

□□□□ [Dell Diagnostics（診断）プログラム](#)を実行して、ハードドライブをテストします。

□□□ 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、そのハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

フロッピードライブ

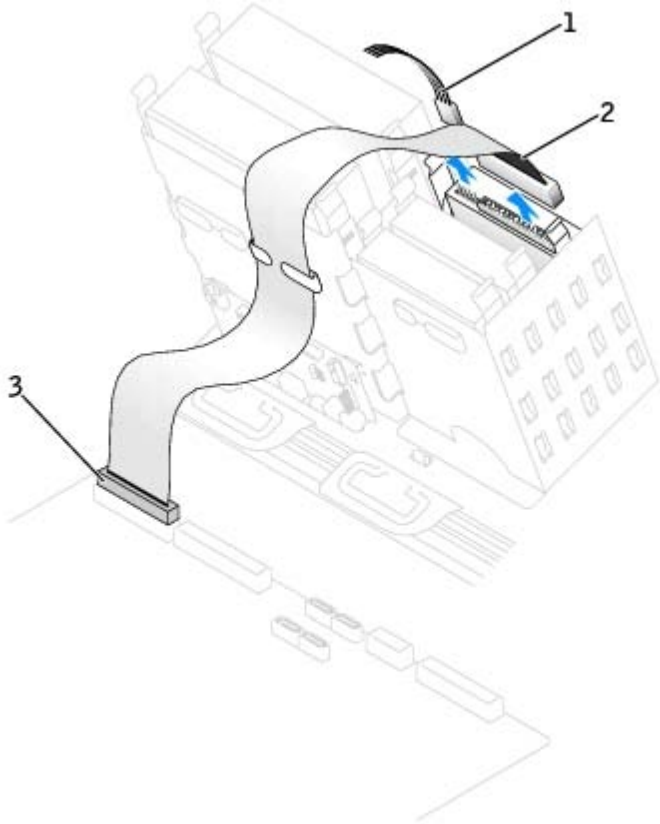
警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

フロッピードライブの取り外し

□□□ 「はじめに」の手順を実行します。

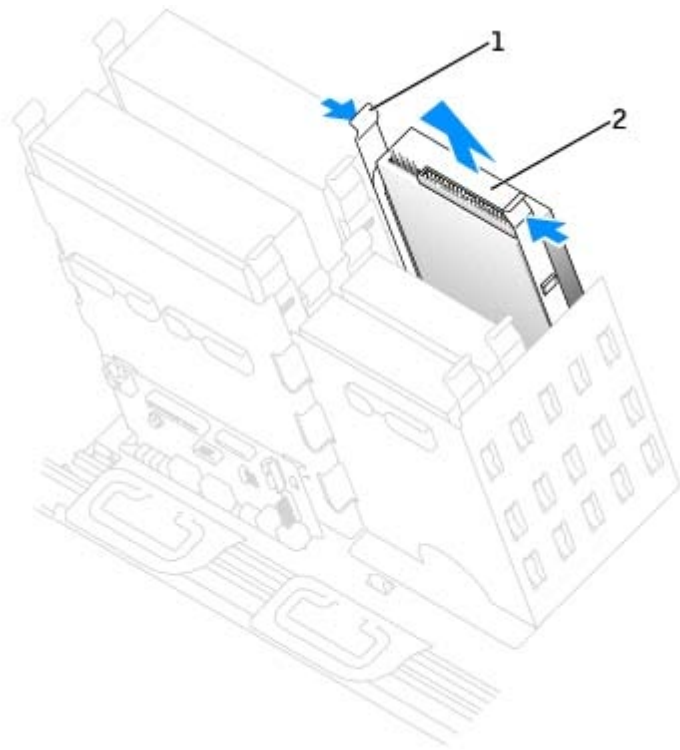
□□□ 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。

□□□ フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルの付いたコネクタから取り外します。



1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ (DSKT)

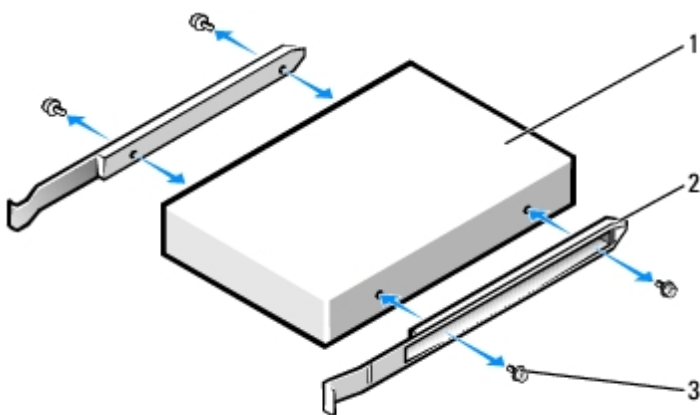
□□□ ドライブの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドして、フロッピードライブベイから取り外します。



1	タブ (2)
2	フロッピードライブ

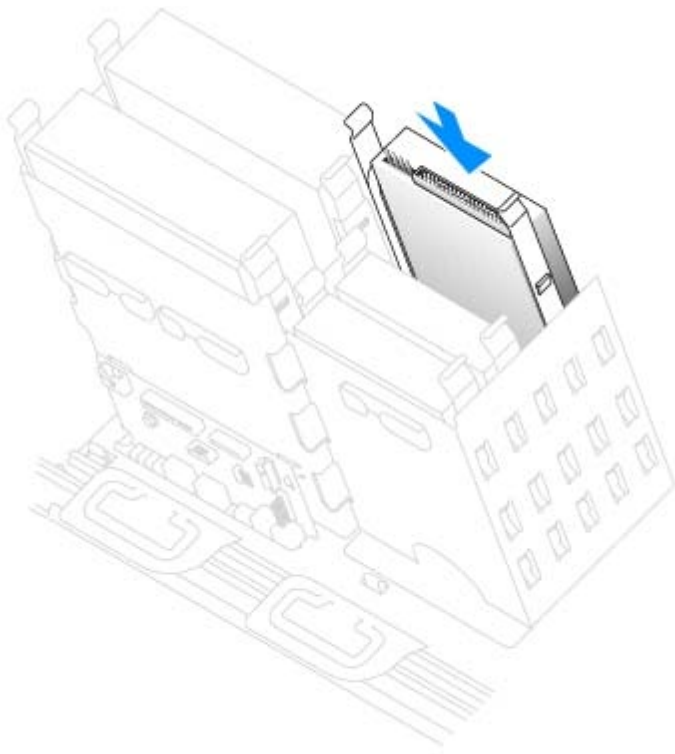
フロッピードライブの取り付け

- ブラケットレールが付いていないドライブや新しいドライブを取り付ける場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に4本のネジ（各レールに2本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

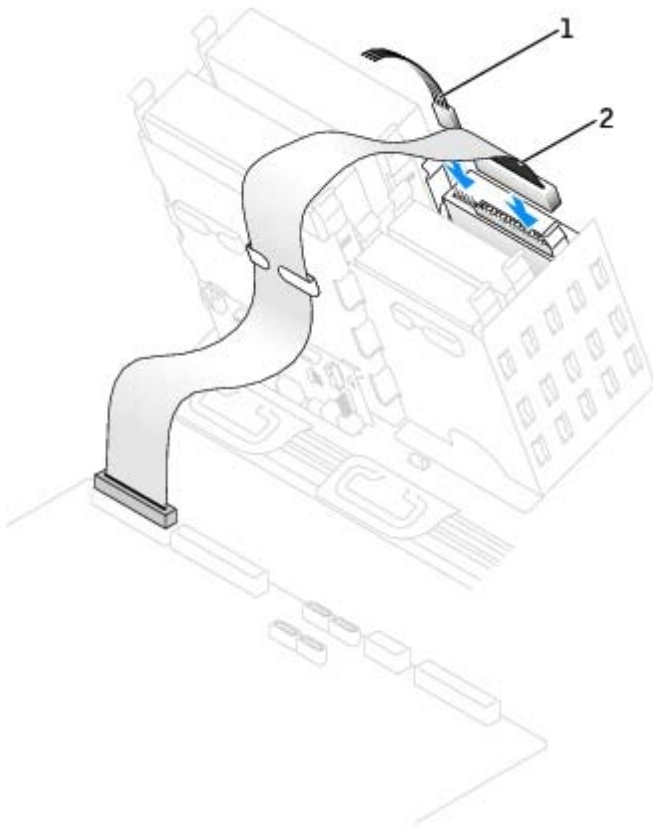


1	ドライブ
2	ブラケットレール (2)
3	ネジ (4)

- タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。



□□ 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに取り付けます。



1	電源ケーブル
---	--------

- ドライブを交換するのではなく新しいフロッピードライブを取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

ドライブベイの内側から、ドライブベイカバーの両端を軽く押してドライブを取り出します。

- フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルの付いたコネクタに接続します。システム基板についての詳細は、「[システム基板のコンポーネント](#)」を参照してください。
- すべてのケーブル接続を確認します。ファンや冷却孔の換気の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
- [コンピュータカバーを閉じます](#)。


➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。


- コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

- [セットアップユーティリティを起動し](#)、該当する Diskette Drive A オプションを更新して新しいフロッピードライブのサイズと容量を反映させます。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

正面パネル

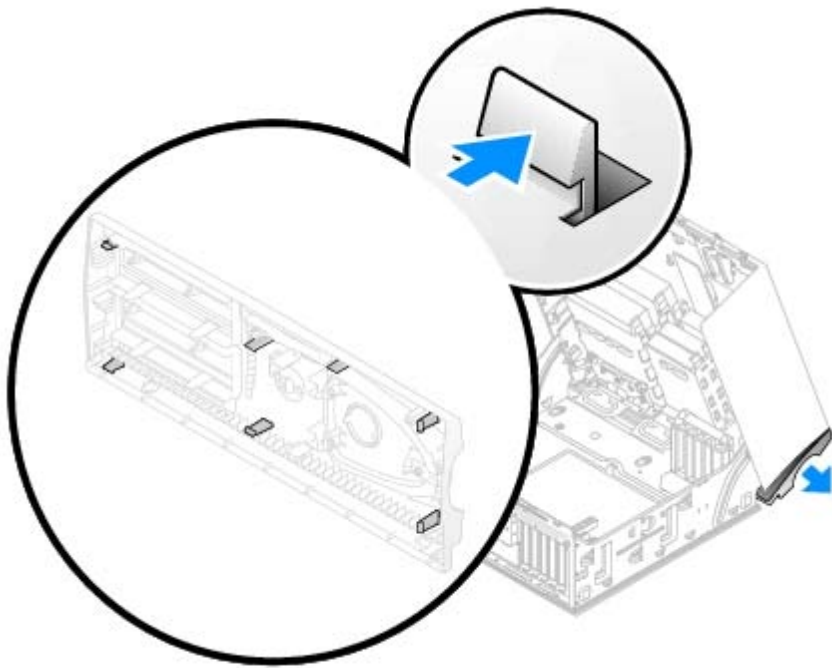
 **警告：** コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

 **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

正面パネルの取り外し

- 「[はじめに](#)」の手順を実行します。
- すべてのディスクドライブの接続を外して、ドライブを取り外します（詳細については、ミニタワーの場合は「[ドライブ](#)」、デスクトップの場合は「[ドライブ](#)」を参照してください）。
- 正面パネルの各リリースタブを押して、正面パネルを取り外します。

デスクトップコンピュータには、7つのリリースタブがあります。



□□□ [コンピュータカバーを半分閉じて](#)、正面パネルをコンピュータから取り外します。

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

正面パネルの取り付け

正面パネルを取り付けるには、[取り外し手順](#)を逆の順序でおこないます。

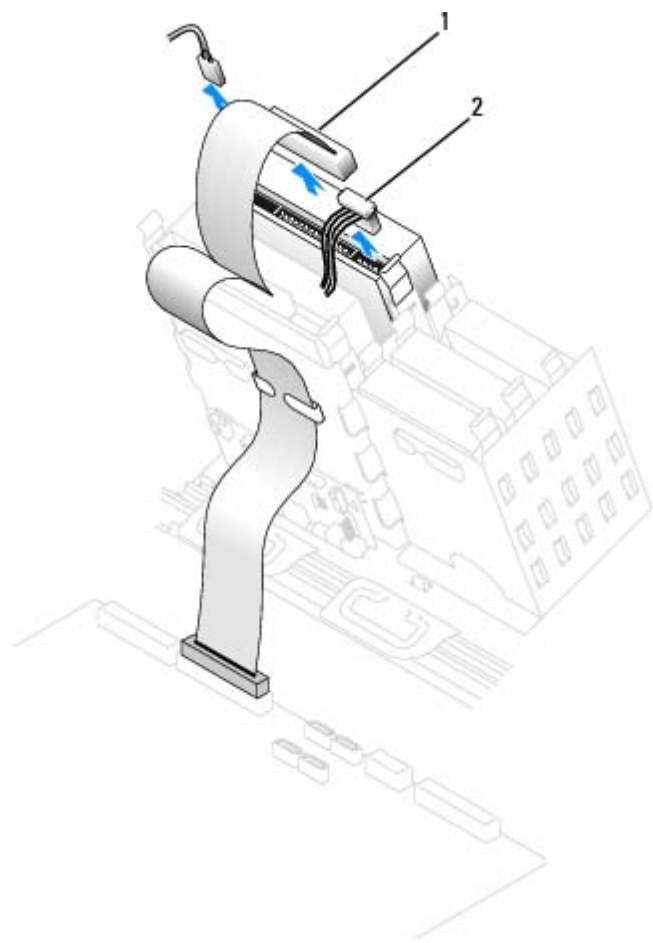
CD/DVD ドライブ

⚠ **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

CD/DVD ドライブの取り外し

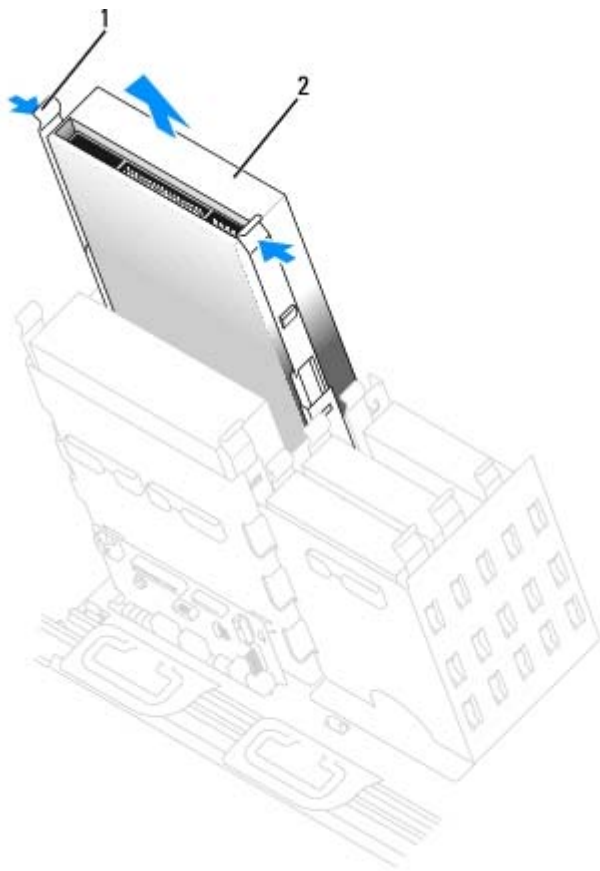
□□□ [「はじめに」](#)の手順を実行します。

□□□ 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。



1	CD/DVD ドライブケーブル
2	電源ケーブル

□□ ドライブの両側にある 2 個のタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドしてドライブベイから取り外します。



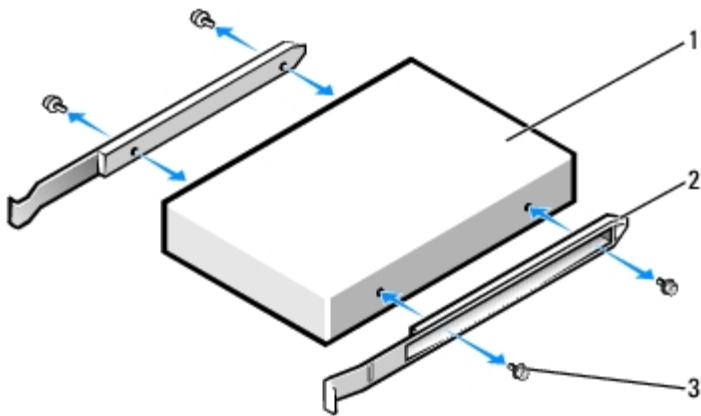
1	タブ (2)
2	CD/DVD ドライブ

CD/DVD ドライブの取り付け

- 新しいドライブを取り付ける場合、ドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。IDE ドライブを取り付ける場合、ドライブを cable select に設定します。

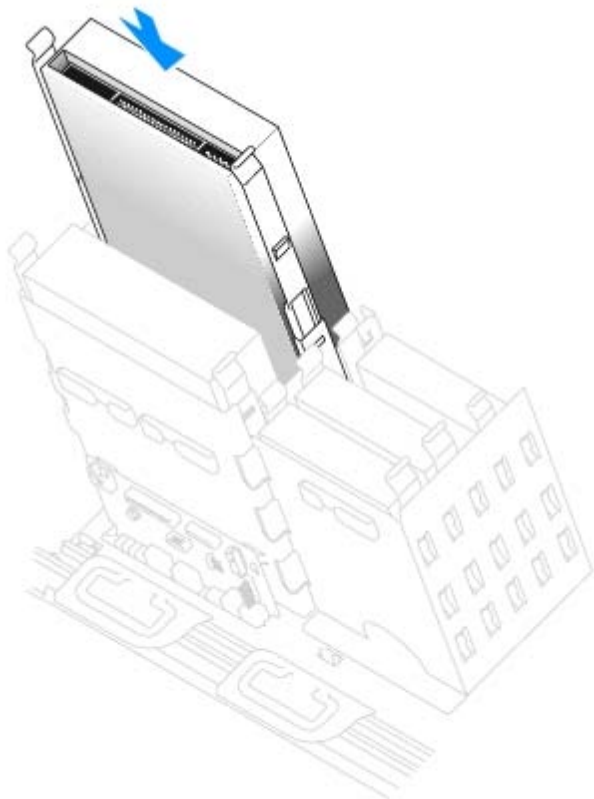
- 新しいドライブをコンピュータカバーの内側に取り付けられているレールに接続します。レールがカバーの内側に取り付けられていない場合、「[デルへのお問い合わせ](#)」にある番号を参照して、担当者にお問い合わせください。
- ブラケットレールが付いていない交換用ドライブや新しいドライブを取り付ける場合、各レールをドライブに固定している 2 本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に 4 本のネジ（各レールに 2 本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。



1	ドライブ
2	ブラケットレール (2)
3	ネジ (4)

□□ タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。

□□ 電源ケーブル、オーディオケーブル、および CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。

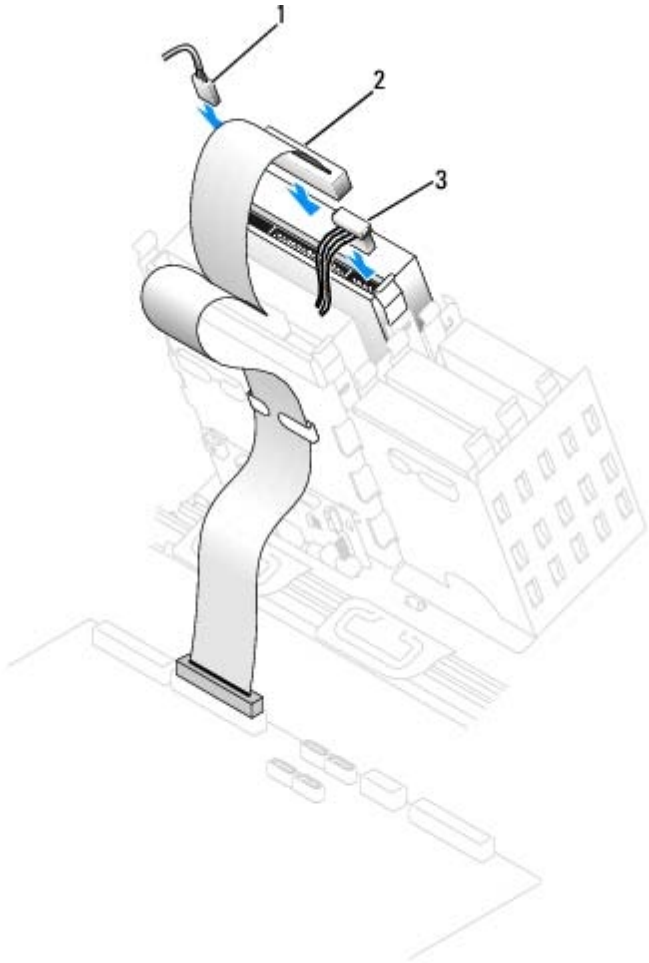


□□ 専用のコントローラカードが付いているドライブを取り付ける場合、コントローラカードは拡張スロットに取り付けます。

ドライブおよびコントローラカードに付属のマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

□□□ 電源ケーブルと CD/DVD ドライブケーブルをドライブに接続します。

オーディオケーブル付きのドライブを追加する場合、オーディオケーブルをシステム基板のオーディオコネクタに接続します。



1	オーディオケーブル（このケーブルがないドライブもあります）
2	CD/DVD ドライブケーブル
3	電源ケーブル

□□□ ドライブを交換するのではなく新しい CD/DVD ドライブを取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

ドライブベイの内側から、ドライブベイカバーの両端を軽く押してドライブを取り出します。

□□□ すべてのケーブル接続を確認します。ファンや冷却孔の換気の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。

□□□□ [コンピュータカバーを閉じます。](#)

➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

□□□□ コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

- Drives: Secondary の該当する Drive オプション (0 または 1) を Auto に設定して、設定情報を更新します。詳細については、「Primary Drive n and Secondary Drive n」を参照してください。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#) を実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

[目次ページに戻る](#)

補足事項


Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

- [困ったときは](#)
- [ご注文に関する問題](#)
- [製品情報](#)
- [保証期間中の修理と返品について](#)
- [お問い合わせになる前に](#)

困ったときは

テクニカルサポート

技術的な問題で手助けが必要な場合、いつでもデルにお問い合わせください。

 **警告：** コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まず、すべてのコンセントからコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルを取り外します。

- 「[問題の解決](#)」の手順を完了します。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。
- [Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)を印刷して、記入します。
- インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポート (support.jp.dell.com) をご覧ください。
- これまでの手順で問題が解決されない場合、デルにお問い合わせください。

メモ： テクニカルサポート担当者が必要な作業をスムーズにお伝えできるよう、テクニカルサポートへはコンピュータの近くから電話をおかけください。

メモ： デルのエクスプレスサービスコードシステムがご利用できない地域もあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は該当するサポート担当者に転送されます。エクスプレスサービスコード（8桁から11桁までの全桁数字のみの番号）は、コンピュータの前面、背面、または側面に貼られているシールに、サービスタグナンバー（5桁もしくは7桁までの英数字混合の番号）と共に記載されています。（コンピュータの正面パネル内に貼られている機種もあります。）

テクニカルサポートの詳細については、「[テクニカルサポートサービス](#)」を参照してください。

オンラインサービス

デルサポートへは、support.jp.dell.com でアクセスすることができます。サポートサイトへようこそ ページから、サポートツール、情報等をお選びください。

インターネット上でのデルへのアクセスは、以下のアドレスをご利用ください。

- World Wide Web

www.dell.com/ (北米)

www.dell.com/ap/ (アジア / 太平洋諸国)

www.dell.com/jp/ (日本)

www.euro.dell.com (ヨーロッパ)

www.dell.com/la/ (ラテンアメリカ諸国)

www.dell.ca (カナダ)

24 時間納期案内電話サービス

注文したデル製品の状況を確認することができます。電話番号については、「[デルへのお問い合わせ](#)」を参照してください。オンラインでも納期状況をご確認いただけます。

テクニカルサポートサービス

デル製品に関するお問い合わせは、デルテクニカルサポートをご利用ください。

テクニカルサポートに電話をおかけになると、サポートスタッフがお問い合わせ内容の確認のために、お使いのシステムの詳細をお聞きすることがあります。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

デルテクニカルサポートサービスにお問い合わせになるには、「[困ったときは](#)」を参照し、「[デルへのお問い合わせ](#)」に記載の番号に連絡してください。

ご注文に関する問題

欠損品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。電話番号は、「[デルへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

製品情報

デルのその他の製品に関する情報や、ご注文に関しては、デルのウェブサイト www.dell.com/jp/ をご覧ください。デルセールスの電話番号は、「[デルへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

保証期間中の修理と返品について

コンピュータに付属している冊子を参照してください。

お問い合わせになる前に


必ず、下記の [Diagnostics（診断）チェックリスト](#) に記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータシステム自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

テクニカルサポートをご利用の際は、製品本体のラベルに記載されているエクスプレスサービスコードまたはサービスタグナンバーが必要になります。お電話をおかけいただくと、エクスプレスサービスコードを自動音声でお伺いします。エクスプレスサービスコードをもとにお客様の情報を確認し、デル担当者に電話をおつなぎ致します。

エクスプレスサービスコードは、サービスタグナンバーを全桁数字に変換したデル製品の固有の管理番号です。製品本体のラベルに 8 桁から 11 桁までの数字のみの番号で記載されています。エクスプレスサービスコードが本体にない製品をお持ちのお客様のために、デルウェブサポートページで*変換ツールをご用意しております。

*変換ツール・・・サービスタグナンバーをエクスプレスサービスコードに変換するツール

サービスタグナンバーは、英数字混合の 5 桁もしくは 7 桁のデル製品の固有の管理番号です。サービスタグナンバーでもテクニカルサポートをご利用いただけますが、デルウェブサポートページで変換したエクスプレスサービスコードをご用意の上、お電話いただくことをお勧めします。

 **警告：** コンピュータ内部の作業をする前に、『システム情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従ってください。

Diagnostics（診断）チェックリスト
名前：
日付：
住所：
電話番号：
サービスタグ（コンピュータ背面のバーコード）：
エクスプレスサービスコード：
返品番号（デルサポート担当者から提供された場合）：
オペレーティングシステムとバージョン：
周辺機器：
拡張カード：
ネットワークに接続されていますか？はいいいえ
ネットワーク、バージョン、ネットワークアダプタ：
プログラムとバージョン：
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータをプリンタに接続している場合、各ファイルを印刷します。接続していない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコード、または Diagnostic（診断）コード：
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

[目次ページに戻る](#)

デルへのお問い合わせ

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

インターネット上でのデルへのアクセスは、以下のアドレスをご利用ください。

- www.dell.com/jp
- support.jp.dell.com (テクニカルサポート)

メモ：フリーコールは日本国内からのみ、ご利用いただけます。

デルへお問い合わせになる場合、以下の表のウェブアドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。

国 (都市) 国際電話アクセスコード 国番号 市外局番：	部署名またはサービス内容 ウェブサイトおよび E メールアドレス	市外局番、市内番号、またはフリー コール
日本 (川崎) 国際電話アクセスコード：001 国番号：81 市外局番：44	ウェブサイト： support.jp.dell.com	
	テクニカルサポート (Dell Precision™、OptiPlex™、および Latitude™)	フリーコール：0120-198-433
	テクニカルサポート (海外から) (Dell Precision、OptiPlex、および Latitude)	81-44-556-3894
	FAX 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期案内電話サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部 (従業員数 400 人未満)	044-556-1465
	法人営業本部 (従業員数 400 人以上)	044-556-3433
	エンタープライズ営業本部 (従業員数 3500 人以上)	044-556-3430
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-1469
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
代表	044-556-4300	

用語集

Dell Precision™ Workstation 370 ユーザーズガイド

[A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [P](#) [R](#) [S](#) [T](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Z](#) [ア](#) [カ](#) [サ](#) [タ](#) [ナ](#) [ハ](#) [マ](#) [セ](#) [ラ](#)

この用語集に収録されている用語は、情報の目的のみで提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current (交流) — コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと供給される電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されているそれぞれのデバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインターフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

APR — advanced port replicator (アドバンスポートリプリケータ) — ノートブックコンピュータでモニター、キーボード、マウス、およびその他のデバイスを便利よく使えるようにするドッキングデバイスです。

ASF — alert standards format — ハードウェアとソフトウェアの警告を管理コンソールに報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるよう設計されています。

B

BIOS — basic input/output system (基本入出力システム) — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインターフェース機能を持つプログラム (またはユーティリティ) です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれます。

Bluetooth™ — 短距離内 (9 メートル) にある有効に設定されている複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジー標準です。

bps — ビット / 秒 — データの転送速度を計測する単位です。

BTU — British thermal unit (英国熱量単位) — 熱量の単位です。

C

C — セルシウス (摂氏) — 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD — compact disc (コンパクトディスク) — 光学形式のストレージメディアです。通常、音楽やソフトウェアプログラムに使用されます。

CD ドライブ — CD から光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

CD プレーヤー — 音楽 CD を再生するソフトウェアです。CD プレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して CD を再生することができます。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能な CD です。データは CD-R に 1 回のみ記録されます。一度記録されたデータは削除したり上書きできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きできます (再書き込み)。

CD-RW ドライブ — CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW/DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

COA — Certificate of Authenticity（実物証明書） — お使いのコンピュータのラベルに記載されている Windows の英数文字のコードです。オペレーティングシステムのセットアップや再インストールをおこなうのに COA が必要な場合があります。Product Key（プロダクトキー） または Product ID（プロダクト ID） とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM） — メモリチップの搭載されていない特殊なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに装着するために使用されます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM） — データのバーストサイクルを二倍にする SDRAM のタイプです。システム性能が向上します。

DIN コネクタ — 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は PS/2 キーボードやマウスケーブルのコネクタに使用されます。

DMA — direct memory access（ダイレクトメモリアクセス） — DMA チャンネルを使うと、RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory（ダイナミックランダムアクセスメモリ） — コンデンサを含む集積回路内に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line（デジタル加入者回線） — アナログ電話回線を介して、安定した高速インターネット接続を提供するテクノロジーです。

DVD — digital versatile disc — 通常は、映画を録画するために使用されるディスクです。CD の場合は片面のみを使用しますが、DVD は両面を使用します。DVD ドライブはほとんどの CD を読み取ることができます。

DVD ドライブ — DVD および CD から、光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

DVD プレーヤー — DVD 映画を鑑賞するときに使用するソフトウェアです。DVD プレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して映画を鑑賞することができます。

DVD+RW — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きできます（再書き込み）。（DVD+RW テクノロジーは DVD-RW テクノロジーとは異なります。）

DVD+RW ドライブ — DVD とほとんどの CD メディアを読み取ることができるドライブです。DVD+RW（書き換え可能な DVD）ディスクに書き込むこともできます。

DVI — digital video interface（デジタルビデオインタフェース） — コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル転送用の標準です。DVI アダプタはコンピュータの内蔵グラフィックを介して動作します。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正） — メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取る際に、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 改良された双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。EPP に似ていて、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — ハードドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference (電磁波障害) — 電磁放射線が原因で起こる電気障害です。

ENERGY STAR® — Environmental Protection Agency (米国環境保護局) が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port (拡張パラレルポート) — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタのデザインです。

ESD — electrostatic discharge (静電気放出) — 静電気の急速な放電のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路に損傷を与えることがあります。

F

Fahrenheit — ファーレンハイト (華氏) — 温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

FCC — Federal Communications Commission (米国連邦通信委員会) — コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus (フロントサイドバス) — プロセッサと RAM 間のデータパスと物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol (ファイル転送プロトコル) — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイルの交換に利用される標準のインターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — データの単位です。1 GB は 1,024 MB (1,073,741,824 バイト) です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合には、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 1 GHz は、1,000,000,000 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI — graphical user interface (グラフィックユーザーインタフェース) — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーとやり取りする対話型ソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのアプリケーションプログラムは GUI です。

H

HTML — hypertext markup language — インターネットブラウザ上で表示できるよう、インターネットのウェブページに挿入されるコードセットです。

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイル交換用プロトコルです。

Hz — ヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ (kHz)、メガヘルツ (MHz)、ギガヘルツ (GHz)、またはテラヘルツ (THz) 単位で計測される場合もあります。

I

IC — Industry Canada — 米国の FCC と同様、電子装置からの放射を規制するカナダの規制団体です。

IC — integrated circuit (集積回路) — コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの極小電子コンポーネントが搭載されている半導体ウェーハ、またはチップです。

IDE — integrated device electronics — ハードドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output (入出力) — コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力したりする動作、またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス (シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど) に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA — Infrared Data Association — 赤外線通信の国際規格を標準化する団体です。

IRQ — interrupt request (割り込み要求) — デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider (インターネットサービスプロバイダ) — ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、Eメールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料 (月払い) で提供します。

K

Kb — キロビット — データの単位です。1 Kb は 1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 周波数の単位です。1 kHz は 1,000 Hz です。

L

LAN — local area network (ローカルエリアネットワーク) — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1棟の建物内や隣接する 2、3棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN (ワイドエリアネットワーク) を構成できます。

LCD — liquid crystal display (液晶ディスプレイ) — ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルのディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode (発光ダイオード) — コンピュータのステータスを示す光を発する電子コンポーネントです。

LPT — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続の指定です。

M

Mb — メガビット — メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps — メガビット / 秒 — 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — データの単位です。1 MB は 1,048,576 バイトです。1 MB は 1,024 KB です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ — 周波数の単位です。1,000,000 サイクル / 秒です。コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

ms — ミリ秒 — 1000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタ を参照してください。

ns — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ) — コンピュータの電源が切られたり、外部電源が停止した場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、日付、時刻、およびユーザーが設定可能なその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を保持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータパスをサポートするローカルバスで、プロセッサとデバイス (ビデオ、各種ドライブ、ネットワークなど) 間に高速データパスを提供します。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議している国際的組織です。

PIN — personal identification number (個人識別番号) — コンピュータネットワークやその他の安全が保護されているシステムへの不正なアクセスを防ぐために使用される一連の数字や文字です。

PIO — programmed input/output (プログラム入出力) — データパスの一部にプロセッサを経由した 2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test (電源投入時の自己テスト) — BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換キーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

PXE — pre-boot execution environment — WfM (Wired for Management) 標準で、オペレーティングシステムのないネットワークコンピュータを設定して、リモートで起動できるようにします。

R

RAID — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。よく使用される RAID レベルは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 です。

RAM — random-access memory (ランダムアクセスメモリ) — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference (無線電波障害) — 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波数は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory (読み取り専用メモリ) — コンピュータが削除したり書き込みできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM とは異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転の数です。ハードドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock (リアルタイムクロック) — システム基板上にあるバッテリーで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と

時刻を保持します。

RTCRST — real-time clock reset (リアルタイムクロックリセット) — いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、トラブルシューティングに利用できます。

S

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ) — DRAM のタイプで、プロセッサの最適クロックスピードと同期化されています。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準規格です。通常、SVGA の解像度は 800×600 および 1024×768 です。プログラムが表示する色数と解像度は、モニター、ビデオコントローラとドライバ、およびコンピュータに取り付けられているビデオメモリの容量によって異なります。

SXGA — super-extended graphics array — 1280×1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400×1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが Windows のプログラムで使用できるようになります。

U

UPS — uninterruptible power supply (無停電電源装置) — 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間、コンピュータは稼働します。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調節します。小型の UPS システムで数分間バッテリー電力を供給しますので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus (ユニバーサルシリアルバス) — USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス (DSL およびケーブルモデム)、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外すことができます。また、デージーチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア) — ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600×1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

Whr — ワット時 — おおよそのバッテリー容量を示すのに通常利用される計測単位です。たとえば、66 Whr のバッテリーは 66 W の電力を 1 時間、33 W を 2 時間供給できます。

X

XGA — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップ、またはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできる、ソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が .zip となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は .exe となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバブルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約二倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

ア

アンチウイルスソフトウェア — お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、検疫して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E メール の添付ファイルを経由して、コンピュータからまた別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次回の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すため、フロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに記されている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードを使用してください。エクスプレスサービスコードが利用できない国もあります。

オプティカルドライブ — CD、DVD、または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。オプティカルドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

カ

カーソル — キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線、アンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタに印刷される、またはモニターに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合いです。解像度が高いほど、画像は鮮明になります。

書き込み保護 — ファイルやメディアに、データの内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定し、データを変更または破壊され

ることのないようにデータを保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定するときは、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けた時に PC カードスロットからカードの端がはみ出しています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上のコネクタです（コンピュータによって異なります）。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルディスプレイモードとも呼ばれます。

壁紙 — Windows のデスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することもできます。

キーの組み合わせ — 同時に複数のキーを押してコンピュータを操作します。

起動 CD — コンピュータを起動するのに使用する CD です。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。『Drivers and Utilities CD』 または 『ResourceCD』 は起動 CD です。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動ディスク — コンピュータを起動するのに使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュ — プロセッサ内に搭載されているプライマリキャッシュ

L2 キャッシュ — プロセッサの外部にあるか、またはプロセッサアーキテクチャに統合されているセカンドキャッシュ

休止状態 — メモリ内のすべてをハードドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

グラフィックモード — x 水平ピクセル数 \times y 垂直ピクセル数 \times z 色数で表されるビデオモードです。グラフィックモードは、どんな形やフォントも表現できます。

クロックスピード — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

国際通行許可書 — 物品を外国に一時的に持ち込むことを許可する国際通関文書です。商用パスポートとも呼ばれます。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するための Windows のユーティリティです。

サ

サージプロテクタ — コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動（雷などの原因で）から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 % 以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護されません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことです。デルサポート support.jp.dell.com にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話でお問い合わせになる場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

システムトレイ — 通知領域を参照してください。

シャットダウン — ウィンドウを閉じてプログラムを終了し、オペレーティングシステムを終了して、コンピュータの電源を切るプロセスです。シャットダウンが完了する前にコンピュータの電源を切ると、データを損失する恐れがあります。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブに素早くアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows のデスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではないので、ショートカットを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/O ポートは、ハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスをコンピュータに接続するためによく使用されます。

スキャンディスク — ファイル、フォルダ、およびハードディスクの表面にエラーがないかどうかをチェックする Microsoft のユーティリティです。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動したときにスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして節電する、省電力モードです。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー — ケーブルを接続しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するのに使うプログラムです。setup.exe または install.exe プログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。

ソフトウェア — コンピュータファイルやプログラムなど、電子的に保存できるものすべてを指します。

タ

通知領域 — Windows のタスクバーにあり、プログラムや、時計、音量調節、プリンタの状態といったコンピュータの機能に素早くアクセスするためのアイコンを含んでいます。システムトレイとも呼ばれます。

ディスクストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

テキストエディター — たとえば Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成、および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディターには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

デバイス — コンピュータ内部に取り付けられているか、またはコンピュータに接続されているディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどのハードウェアです。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。拡張ディスプレイモードとも呼ばれます。

ドッキングデバイス — APR を参照してください。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていないと正常に動作しません。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ナ

内蔵 — 通常は、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。ビルトインとも呼ばれます。

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

ハ

パーティション — ハードドライブ上の物理ストレージ領域です。1つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。各パーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

ハードドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは、同じ意味としてどちらかが使われています。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。通常、1バイトは8ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バックアップ — フロッピーディスクドライブ、CD ドライブ、またはハードドライブなどにプログラムやデータファイルをコピーすることです。不測の事態に備えて、定期的にハードドライブのバックアップを取ることをお勧めします。

バッテリー — ノートブックコンピュータが AC アダプタおよびコンセントに接続されていない場合に、コンピュータを動作させるために使われる内蔵の電源です。

バッテリー駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリーがコンピュータに電源を供給する間、充電量を維持できる時間（分または時間数）です。

バッテリーの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリーが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

パラレルコネクタ — I/O ポートは、パラレルプリンタをコンピュータに接続する場合などに使用されます。LPT ポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱の役目をするプロセッサに付属する金属板です。

ピクセル — ディスプレイ画面のシングルポイントです。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオ解像度（800×600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 — 解像度を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニターの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供するビデオカード、または（内蔵ビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの容量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックをモニターに表示する際のモードです。グラフィックをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、x 水平ピクセル数 × y 垂直ピクセル数 × z 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディターなど）は、x 列 × y 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整理したりグループ化する入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイを使うと、自動的なインストール、設定、および既存のハードウェアとの互換性を提供し

ます。

プログラム — 表計算ソフト、ワープロソフト、データベースソフト、ゲームソフトなどデータ処理をするソフトウェアです。これらのプログラムは、オペレーティングシステムの実行を必要とします。

プロセッサ — コンピュータ内部で中心的に演算をおこなうチップです。プロセッサは CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

フロッピードライブ — フロッピーディスクにデータを読み書きできるディスクドライブです。

ヘルプファイル — 製品の説明や各種手順を記したファイルです。ヘルプファイルの中には、Microsoft Word ヘルプのように特定のプログラムに適用されるものがあります。他にも単独で参照できるヘルプファイルもあります。通常、ヘルプファイルの拡張子は、.hlp または .chm です。

マ

マウス — 画面上のカーソルを移動させるポインティングデバイスです。通常は、マウスを硬くて平らな面で動かし、画面上のカーソルやポインタを移動します。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に保存されているだけですので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンする時もファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサがアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モジュールベイ — オプティカルドライブ、セカンドバッテリー、または Dell TravelLite™ モジュールなどのデバイスをサポートするベイです。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E メールを送受信に使用されます。

モニター — 高解像度のテレビのようなデバイスで、コンピュータの出力を表示します。

ヤ

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除することができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用を設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み保護に設定している場合
 - ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合
-

ラ

リフレッシュレート — Hz で示される、画面の水平走査線が再描画される周波数（垂直周波数とも呼ばれます）です。人の目には、リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なくなります。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

[目次ページに戻る](#)